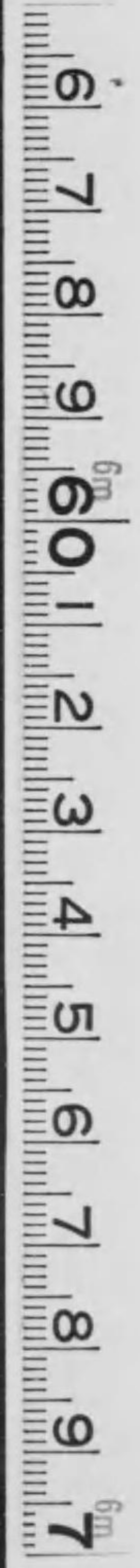


29
3

水産講習所一覽
大正十五年



始



水產講習所一覽

目次

第一章 沿革及組織	一
第一節 沿革概要	一
第二節 官制及事務規程	二
第三節 水產講習所官制	二
第四節 水產講習所處務規程	二
第二章 職員	三
第一節 講習	三
第二節 規則及規程	三
第三節 水產講習所講習規則	三
第四節 水產講習所講習規程	三
第三章 本 科	四
第一節 遠洋漁業科	四
第二節 研究科	四
第三節 別 科	五
第四章 書 式	六

第三 水產講習所臺灣、朝鮮及外國人特別入學規程	三六
第四 諸規程	三六
一 水產講習所教官會議規程	三六
二 實習規程	三六
三 實習船規程	三六
四 寄宿舍規程	三六
第二節 講習功程	三六
第一 本 科	三六
一 遠洋漁業科	三六
二 研究科	三六
三 別 科	三六
第四 試驗及調查	三六
第一節 試驗及調查ニ關スル組織	三六
一 水產講習所試驗規則	三六
二 水產講習所種苗拂下規則	三六
三 各部事業ノ概要	三六
四 海洋調查部	三六
五 試驗部	三六
六 漁撈試驗	三六



二 養殖試驗	五二
三 製造試驗	五四
四 化學試驗	五五
五 漁船機械試驗	五七
附一 編纂部	五八
二 試驗、鑑定及設計等ノ依頼	五九
第四章 本所敷地建物及諸設備	五九
第一節 本所敷地建物	五九
第二節 諸設備	五九
第一 船 艇	五九
第二 實習場、實驗場及試驗地	六〇
第五章 圖書及標本	六〇
第一節 圖書及標本ニ關スル規程	六〇
第一 圖書標本委員會規程	六〇
第二 圖書保管規程	六〇
第三 圖書借覽規程	六〇
第二節 圖書及標本ノ現況	六〇
第六章 在外研究員規程	六〇
第一節 在外研究員規程	六〇
第二節 戰時事變ノ際ニ於ケル文部省海外	六〇

留學生等定員ニ關スル勅令	六六
第三節 在外研究員	六七
第七章 生徒	六七
第一節 在學生徒	六七
第一 生徒氏名	六七
第二 在學生徒府縣別	六七
第二節 卒業者	六七
第一 卒業者氏名	六七
第二 卒業者狀況	六七
附 錄	六七
一 職員移動	六七
二 學友會	六七
三 財團法人水産研究獎勵會	六七
四 試驗報告及其他刊行物	六七

水産講習所一覽

第一章 沿革及組織

第一節 沿革概要

第一 本所創立以前

一月大日本水産會ハ水産教育必要ノ主唱ニ基キ寄附金ヲ以テ東京市京橋區木挽町厚生館
内ニ水産傳習所ヲ假設セリ。

七月日本橋區箱崎町ニ移リ後數月ニシテ又芝區三田四國町ニ移轉セリ

五月農商務省ハ一ケ年金六千五百圓ヲ交附シテ生徒ノ養成ヲ囑託シタルヲ以テ更ニ費舍
ヲ三田四國町ニ番地ニ新築シテ修業年限ヲ三ケ年トシ教務ヲ擴張セリ

一月文部省ハ徵兵令第十三條ニ依リ官公立尋常中學校ト同等以上タルコトヲ認定ス

九月卒業生ヲシテ漁船々員タルノ資格ヲ得セシムル爲メ商船學校ト聯絡シ特別入學ノ制
規ヲ定ム

二十九年 十二月文部省ハ水産科教員ノ養成ヲ囑託シ全國ヨリ十五名ヲ撰拔入學セシメタリ

三十年 政府ハ水産教育機關ヲ官設スルニ決シ其經費ヲ本年ノ議會ニ提出シテ其協賛ヲ得水産講
習所ヲ創設スルコトナリタルヲ以テ水産傳習所ハ三月十一日限り閉所スルニ至レリ



明治三十年

三月二十二日勅令第四十七號ヲ以テ水産講習所ノ官制ヲ發布セラレ次テ諸規則ヲ定メ講習科入學ノ程度ヲ尋常中學第三學年級修業以上トシ修業年限ヲ三箇年トシ其第三學年ニ於テハ漁撈製造養殖ノ一科ヲ專攻セシムルノ制ヲ設ケ別ニ現業科ヲ置キテ實業者若クハ其子弟ノ就學ニ便ナラシメ又講習科卒業生ニシテ尙深ク既修ノ學科中一二ノ科目ニ就キ研究セント欲スルモノ、爲メニ研究科ヲ設ケ修業期間ヲ一ケ年以内トシ舊水産講習所ノ賢舎ニ營繕ヲ加ヘテ之ヲ開設シ藤田四郎所長トナル

三十一年

三月教官ヲ會合シテ講習科ノ傳習要項ヲ定ム此月葦原清風所長トナル
六月農商務省ハ遠洋漁業練習生規程ヲ定メテ生徒ヲ募集シ本所ニ於テ其授業ヲ開始ス此月研究科ノ修業年限ヲ三ケ年以内トシ尙遠洋漁業練習生ヲ本所ノ研究生ト爲ス
九月初メテ罐詰及魚油魚蠟沃度製造ノ現業科生徒ヲ募集ス此月竹内正志所長トナル
十一月牧朴眞所長トナル

三十二年

一月文部省ハ本所講習科ヲ文官任用令第三條ニ依リ官公立中學校ト同等以上ノモノト認定シテ之ヲ告示セリ
十一月巾着網漁業ノ現業科生徒ヲ募集ス

三十三年

一月本所ノ規則ヲ更訂シテ講習科ヲ本科ト稱シ中學校卒業ノ程度ニ依リ漁撈、製造、養殖中ノ一科ヲ撰ミテ生徒ノ入學ヲ許シ又別ニ遠洋漁業科ヲ置キ遠洋漁業練習生規程ニ依

リテ採用セラレタル生徒ノ養成ヲナスト共ニ從來ノ學期及學年ヲ變更シ毎年九月ヲ以テ學年ノ始トセリ

六月神奈川縣下小田原町ニ於ケル所外製造實習場ノ建築ニ着手シ七月其工事ヲ竣ヘ八月開場式ヲ舉行セリ

九月地ヲ深川區越中島町ニトシテ本所賢舎ノ新營ニ着手シ又石川島造船所ニ於テ實習用帆船ノ新營ニ着手セリ

三十四年

四月前年新營ニ着手セシ實習船ノ進水式ヲ舉行シテ快鷹丸ト命名シ八月ニ至リ全ク其工ヲ竣ヘ艤裝整頓セリ

六月初テ輕節其他節類ノ現業科生徒ヲ募集ス

三十五年

文部省ヨリ水産教員養成ノ囑託ヲ受ケ全國ヨリ撰出ノ生徒十名ノ入學ヲ許ス
五月文部省ハ實業教員養成規程ニヨリ本科生徒中ニ學資ヲ補給シテ水産教員養成ノ方法ヲ定ム

六月農商務省ヨリ地方水産試驗場講習所職員講習會授業ノ囑託ヲ受ク

九月深川區越中島町ノ新築賢舎ニ移轉ス

三十六年

十月第五回內國勸業博覽會ニ在リシ冷蔵庫ヲ本所ニ引繼キ翌三十七年六月之ヲ本所内ニ移築セリ

十二月露國萬國水産博覽會ヨリ本所出品ニ對シテ名譽謝狀ヲ贈與セラレ

十二月官制ヲ改正シ專任所長ヲ置ク松原新之助所長トナル

三十七年

二月處務規程ヲ改正シ更ニ處務細則及試験部規程ヲ定メテ事務ノ分掌ヲ明ニセリ
三月傳習規則及傳習規程ヲ改正ス

三十八年

四月千葉縣下元鹽業調査所津田沼製鹽試驗場ヲ引繼キ本所ノ實習場トセリ
六月千葉縣製鹽實習場ヲ大藏省ノ所管トセリ又製鹽技術員養成科規程ヲ定メ生徒ヲ募集セリ

三十九年

三十七八年戰役ニ際シ陸軍省ト協議ノ上軍用罐詰ノ監督ヲナシ本所冷蔵庫ヲ同省ノ使用ニ供セリ

三十九年

二月深川區冬木町養魚池ヲ本所々管ニ移サレタリ

四月伊太利國美蘭ニ開カレタル萬國博覽會ニ本所ヨリ出品シ十一月萬國審査委員ニ於テ

フオリ、コンコルソー(競争セサル名譽出品)トシ賞狀ヲ贈與セラル

四月六日水産傳習所ノ創設ヨリ二十年本所ノ開始ヨリ十年ニ相當スルヲ以テ紀念式ヲ舉

行シ植樹ヲナシ翌七日所内ヲ一般公衆ノ觀覽ニ供セリ

六月捕鯨砲手養成ノ必要ヲ認メ現業科生徒トシテ其授業ヲ開始セリ

九月六日實習船隼丸ノ建造設計成リ石川島造船所ニ於テ起工シ十二月二日進水シ生徒ノ

實習ニ使用セリ

九月九日實習船快鷹丸(總噸數百四十噸)ハ實習中韓國迎日灣ニ於テ風波ノ難ニ遭ヒ澁雁

ノ途ナク同灣口冬外串ノ突角九萬里沿岸ノ岩礁ニ打揚ケラレ忽チニシテ破壊シ終ニ教官
一名生徒三名殉難スルノ不幸ヲ見ハニ至レリ茲ニ於テ本所ノ漁撈科生徒實習ノ機關ヲ失
ヒ止ムヲ得ス民間實業者ノ漁船ニ乗組ミ實習セシメタルモ規定ノ期間内ニ於テハ豫定ノ
實習ヲ完了セシムルコト能ハサリシヲ以テ該生徒ノ卒業期ヲ四十一年十月マテ延期シテ
其實習ヲ繼續セリ

四十年

十月二十五日勅令第三百二十九號ヲ以テ在外研究生規程ヲ公布セララル

十一月議會ニ於テ快鷹丸代船新造豫算ノ協賛ヲ得タルヲ以テ直チニ其設計ニ着手セリ

逓信省ハ本科漁撈科卒業者ニシテ三箇年以上船舶ニ乗組タル者ニ對シテハ該船舶ノ種類

ニ依リ甲種二等運轉士ノ受験資格ヲ有スルコト又現業科中遠洋漁業專修ヲ卒リタル者ニ

對シテハ該船舶ノ種類ニ依リ一箇年ヲ短縮シテ丙種運轉士乙種一等運轉士又ハ乙種二等

運轉士ノ受験資格ヲ有スルコトヲ認定セリ

四十一年

五月大阪鐵工所ニ於テ起工シタル新造實習船ハ雲鷹丸(四百四十四噸)ト命名シ四十二年

二月進水同年五月十七日東京ニ廻航シテ生徒ノ實習ニ使用セリ

十一月本所構内ニテ圖書及標本室ノ建築ニ着手シ四十二年三月其工ヲ竣ヘタリ

十一月千葉縣下館山灣高島ニ於テ臨海實驗場ノ建築ニ着手シ四十二年三月竣工シ其三十

日ニ開場式ヲ舉ゲ五月ヨリ養殖科生徒ノ實習ニ使用セリ

四十二年

六月初テ貝殼彫刻ノ現業科生徒ヲ募集ス

本年アラスカユニコン太平洋博覽會ニ本所ヨリ出品ヲナシ大賞牌ヲ受ク

四十三年

一月本所試験規程ヲ改正シテ一般當業者ヨリ試験或ハ鑑定ノ依頼ニ應スルノ制ヲ設ケ三月試験廳舎ノ新營ヲ企テ四十四年四月落成セリ又高島臨海實驗場ニ氣象觀測室ヲ設ケ三月特別技術員養成科規程ヲ定メ從來ノ製鹽技術員養成科規程ハ之ヲ廢止セリ

四十四年

一月下啓助所長トナル
三月規則ヲ改訂シテ入學者ノ資格ヲ中學卒業者若クハ專門學校入學者檢定ニ合格シタル者及府縣立水產學校本科卒業者ニ限リ又學科課程ニ變更ヲ加ヘ物理及普通動物數學等ノ基礎學科ヲ加ヘ尙第三學年ニ於テモ學科ノ講義ヲ併課シ時宜ニヨリ必要ノ事項ヲ其專門家ニ委囑シテ課外講義ヲナスコト、セリ又特殊技術員養成科規程中改正ヲ加ヘ短期講習ヲ爲スノ制ヲ定ム

大正三年

七月二十五日海嘯ノ爲メ構内全部ニ浸水シ深サ三尺餘ニ及ヒ護岸堤防ハ殆ト破壊セラレ船圍場ハ之ニ格納セシ「ボート」ト共ニ全部ヲ流失シテ其形蹟ヲ止メサルニ至リ其他實習場及寄宿舎ノ一部破壊セラレシニヨリ直チニ復舊工事ニ着手四十五年五月之ヲ完成セリ
三月處務細則ヲ改正スルニ方リ漁業基本調査部、漁撈試驗部、製造試驗部、養殖試驗部化學試驗部、漁船機械試驗部ニ分チ又編纂部ヲ設ケ傳習、調査及試驗ニ關スル報告其他ノ編纂ヲ行フコトトシ尙農商務省令ヲ以テ試驗規則及種苗拂下規則ヲ發布スルニ至レリ

四年

十二月水產局長松崎壽三所長心得ヲ命セラル

五年

九月規則及規程ヲ更訂シ從前ノ學期及學年ヲ變更シテ毎年四月ヲ以テ學年ノ始トナシ現業科ト稱シタルモノヲ別科ト改メ又從來ノ特殊技術員養成科ハ之ヲ廢シ單ニ必要ニ應ジテ短期講習ヲ行フコトトセリ

六年

二月技師伊谷以知二郎所長トナル
十月一日風水害ニ依リ本所建築物ハ總テ多少ノ被害アリ殊ニ後方面ノ諸建築物ハ殆ト倒壞シタルヲ以テ大正七年四月之カ復舊工事ニ着手シ大正八年三月竣功セリ

七年

天鷗丸(百六十一噸)ヲ新造シ海洋調査船トシテ專ラ海洋調査ニ使用スルコトトセリ

八年

一月處務細則ヲ改正シ漁業基本調査部ヲ海洋調査部ト改メ其定員經費共ニ之ヲ増加シ試驗事業ノ擴張ヲ圖レリ

從來本科生徒ハ漁撈科三十名製造科二十五名養殖科十五名合計七十名募集シ來リシカ時代ノ要求ニ伴ヒ本年度ニ於テ各科五名宛都合十五名ヲ増募スルコトトナリ隨テ教授ノ増員ヲモ爲セリ

七月文部省告示第一九二號ヲ以テ本所本科卒業生ハ公私立實業學校教員タルコトヲ得ルモノト指定セラレタリ

九年

二箇年ノ繼續ヲ以テ漁船機械試驗ノ擴張ヲ行ヒ專任職員並經費ノ増加ヲ得タリ
十二月二十三日祝融ノ災ニ罹リ水產化學試驗部、淡水養殖室、漁撈標本室及海洋調査部ヨリ成ル一棟ト生徒控室トヲ燒失直チニ復舊工事ニ着手セリ

十一年

前年罹災ノ復舊工事ト共ニ講習部ノ革進及漁船機械試驗、養殖試驗事業ノ擴張ヲ伴ヒ舊東京工業試驗所敷地ノ一部保管轉換ヲ受ケ之レト本所敷地内ニ亘リ鬻舎其他ノ増設ヲ圖レリ猶本所以外ニ於テハ講習部擴張ノ爲メ館山實習場、高島實驗場、小田原實習場等ニ改増築ヲ行ヒ養殖試驗擴張ノ爲メニハ長野縣木崎湖、愛知縣豊橋市外、兵庫縣二見、廣島縣大長等ニ夫々養魚養貝試驗場ヲ設置シ深川區冬木町養魚試驗池ハ之ヲ廢止セリ

十一年

一月講習規則及同規程ヲ更訂シ本科ノ修業年限ヲ延長シテ四箇年トシ其入學資格ヲ變更シテ中學校第四學年修了者並ニ之ニ準スル者又ハ甲種水産學校卒業者並ニ之ニ準スル者ト爲シ更ニ學科課程ヲ改正シテ應用的技術ノ向上ト基礎的學力ノ充實トヲ圖レリ

五月講習規則第十一條ノ二ニ依リ農商務省告示第百六十六號ヲ以テ臺灣、朝鮮及外國人特別入學規程ヲ設ク

十二年

七月講習規則及同規程ヲ更訂シ遠洋漁業科ノ修業年限ヲ二ケ年ニ改メ又本科漁撈科學科課程ノ一部ヲ變更シ同科第四學年ニ於ケル授業ハ他學年ニ於テ之ヲ課シ同學年全部ヲ兼船實習ト爲セリ

七月陸軍省並文部省ハ本科第一學年ヲ修了シタル者ハ徵兵令第十三條第一項第二號ニ規定スル中學校ノ學科程度ト同等以上ノ課程ヲ修了シタル者ト認定シ又本科在學者ニ對シ徵兵令第二十三條第一項ノ規定ニ依ル一年志願兵ノ入營ヲ滿二十五歲マテ延期スルコトヲ認定セリ

十三年

九月大震災災ノ爲メ本所諸建物諸設備等大半烏有ニ歸セルカ此際ハ教務上重要ノ時期ニ屬シ一日モ學業ノ中斷ヲ許サ、ルヲ以テ應急處置トシテ府下豊多摩郡杉並村蠶業試驗場ノ一部ヲ其假鬻舎ニ充テテ事務ヲ執ルコト、シ十月十五日ヨリ爰ニ應急ノ授業ヲ開始セリ而シテ直チニ善後復舊ノ計畫ヲ立テ更ニ應急ノ處置トシテ舊敷地ノ一部ニ約二千坪ノ假鬻舎建設ニ着手シタリ

四月八日舊敷地ノ假鬻舎ニ於テ授業ヲ開始シタリ又小田原、館山、高島等ニ於ケル本所實習場並實驗場モ前年九月ノ震災災ノ爲メ總テ多少ノ被害アリタルモ急速ニ復舊又ハ修繕ヲ爲シ共ニ完成ヲ告ケタリ

五月文部省ハ大正七年文部省令第三號第二條第四號ニ依リ高等試驗令上明治三十三年以後ニ入學シタル本所本科卒業者ニ對シ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定シ豫備試驗ヲ免除サル

八月技師岡村金太郎所長トナル

九月遞信省令第四十號ヲ以テ船舶職員試驗規程公布セラレ本科漁撈科卒業者ニシテ三箇年以上船舶ニ乗組タル者ニシテ該船舶ノ種類ニ依リ甲種二等運轉士受験資格ヲ有スルコト又規業科遠洋漁業專修ヲ卒ヘタル者ニ對シテハ乗組期間一箇年ヲ短縮シ乗組船舶ノ種類ニ依リ乙種一等運轉士、乙種二等運轉士、丙種運轉士ノ受験資格ヲ有スルコトヲ認定セラレ且ツ右相當試驗ヲ受クル場合ニ於テ兩者共筆記試驗ヲ免除セラレタリ

十一月二十二日付文部省告示第四百三號ニ以テ本所大正十一年以後ノ入學ニシテ本科第一學年修了者ハ專門學校入學者檢定規程ニ依リ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定セラル隨ツテ此資格ニ依リ高等試驗令ニ依ル豫備試驗ヲ受クル資格ヲ享有スルコトナレリ

十四年 二月長崎造船所ニテ蒼鷹丸ヲ建造セシメ天鷗丸ノ代船トセリ鋼鐵船ニシテ二百二噸ナリ
六月陸軍省ヨリ所管替ヲ受ケタル青鷗丸ヲ隼丸ノ代船トナス噸數三十二噸餘ナリ
十一月十日農林省告示第百三十三號ヲ以テ講習規程中第一條學科課科ヲ改正シ兵式教練ヲ實施スルコトトセリ

十五年 一月文部省告示第二十六號ヲ以テ明治三十六年文部省告示第三十號教員檢定ニ關スル指定學校名及學科科目中ニ於テ本所本科製造科ハ化學(大正三年三月以後ノ卒業生ニシテ當該科目成績優等ナル者ニ限ル)同養殖科ハ動物(同前)ヲ指定セラル

第二節 官制及事務規程

第一 水產講習所官制

(沿革) 明治三十年三月二十二日 勅令第四十七號
明治三十一年一月勅令第二九八號、三十二年三月同第七二號、三十四年四月同第四二號、三十六年一月同第二三六號、四〇年四月同第一四七號、四一年一月同第二八五號、四二年三月同第七七號、四三年三月同第八四號、同年九月同第三五一號、大正二年六月同第二〇四號、七年四月同第一〇八號、八年四月同第一三六號、九年八月同第三十號、一〇年五月同第二二〇號、一一年五月同第二四三號、同年一月同第五一〇號、一二年三月同第八八號、一三年二月同第二二二號、一三年一月同第二五七號、同年一月同第三六九號、一四年三月同第四一號改正

第一條 水產講習所ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ水產ノ傳習及試驗ニ關スル事務ヲ掌ル
第二條 水產講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 十七人 奏任
技師專任

教授專任 十四人 奏任
技師專任 十六人 判任
助教專任 八人 判任
屬專任 九人 判任

第三條 所長ハ技師又ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス
第四條 (削除)
第五條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス
第六條 教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル
第七條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス
第八條 助教專任ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク
第九條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第十條 (削除)

第二 水產講習所處務規程

明治三十七年一月二十三日 訓令第三三號

(沿革) 明治四十一年一月訓令第四〇號
大正八年九月訓令第二〇號改正

第一條 水産講習所ニ左ノ部課ヲ置ク

- 一 講習部
- 一 試験部
- 一 海洋調査部
- 一 教務課
- 一 庶務課

第二條 講習部ニ於テハ漁撈、製造及養殖ノ講習ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 試験部ニ於テハ漁撈、製造、養殖、水産化學、漁船及機械ノ試験ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條 海洋調査部ニ於テハ海洋ノ調査ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 生徒ノ入退學試業及卒業ニ關スル事項
- 二 生徒及寄宿舎ノ取締ニ關スル事項
- 三 其ノ他教務ニ關スル事項

第六條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 官印ノ保管ニ關スル事項
- 二 所員ノ進退身分ニ關スル事項
- 三 所内取締ニ關スル事項
- 四 文書ノ接受、發送及保管ニ關スル事項
- 五 豫算及決算並會計ニ關スル事項
- 六 官有財産及物品ニ關スル事項
- 七 圖書及標本ニ關スル事項
- 八 他部課ノ主掌ニ屬セサル事項

第七條 所長處務細則又ハ講習及試験ニ關スル規程ヲ設クルトキハ農林大臣ニ報告スヘシ

第八條 所長講習生ノ募集人員ヲ定ムルトキハ農林大臣ニ經伺スヘシ

第九條 所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ

第十條 所長ハ毎年事業ノ成績ヲ農林大臣ニ報告スヘシ

第三節 職員

所長

理學博士 岡村金太郎

技師

植物學、養殖論(藻類)

兼農林技師 岡村金太郎

養殖論(鹹水養殖、蕃殖保護論)
動物學、同實驗

養殖試驗部主任
養殖講習部主任

兼農林技師 妹尾秀實

漁撈論(漁法)
養殖論(淡水養殖、餌料水質)養殖法實習

漁撈試驗部員
漁船機械試驗部主任
漁撈試驗部主任
養殖試驗部員
養殖試驗部員(在大長)

兼農林技師 下田奎一
兼農林技師 星野三郎
兼農林技師 小瀬次郎
兼農林技師 日暮忠

漁船論(西洋型)、製圖

海洋調査部主任
漁船機械試驗部員

兼農林技師 梶山英二
理學士 淺野彦太郎
理學士 堀江武夫
兼農林技師 堀江武夫

漁場論、海洋學、湖沼學、浮游生物學、天然餌料實驗

海洋調査部員
養殖試驗部員

兼農林技師 九川久俊

(大正十五年十月末日現在)

製造化學、化學實驗
漁船機械試驗部員
化學試驗部員

漁撈論、航海術、運用術
漁船機械試驗部員

物理學、同實驗、數學
漁撈試驗部員

漁撈論(漁法)漁撈大意
漁船機械試驗部員

漁獲物處理法
漁船機械試驗部員

養殖試驗部員(在豐橋)

海洋調查部員

漁撈試驗部員
海洋調查部員

漁撈論(釣具、網具)、
釣具及網具實習

製造講習部主任
生徒取締主任
雲鷹丸船長

農林技師 田島達之輔
農林技師 宮脇伊太郎
理學士 佐藤 允
野元 俊一
山本 靜一
理學士 田內森三郎
鑛田 武造
特許局技師 村山 敏三
農林技師 鳴脚 七郎
松井 佳一
日比 義三
長棟 暉友
農林技師 山口慶四郎
兼農林技師 松尾政次郎
農林技師 清水 隆道
農林技師 兒玉 誠

蒼鷹丸船長

教授

土木學、測量術、同實習
養殖試驗部員

生物化學、食品化學
化學試驗部主任

化學
化學試驗部員

運用術、同實習
海洋調查部員

動物學、組織發生學
動物及組織發生實驗
養殖試驗部員

植物學、同實驗
養殖試驗部員

有機化學、同實驗
化學試驗部員

食品論、貯藏論、細菌學、同實驗
製造試驗部主任

數學
製造試驗部主任

機械學、製圖
漁船機械試驗部員

法規
漁船機械試驗部員

機械學
漁船機械試驗部員

法規
漁船機械試驗部員

食品論、化學實驗
化學試驗部員

教務課

(在外研究中)

教務課長

農林技師 橋英三郎
農學博士 山川 洵
農學博士 關根秀三郎
農學博士 山本久平
理學士 寺尾 新
水產學士 東道太郎
大谷 武夫
木村金太郎
理學士 前原重秋
工學士 源生一太郎
兼農林事務官 石黒 武重
工學士 富井 建造
兼農林事務官 井出 正孝
法農學士 山本 祥吉

法規
製造化學、同實習
航海術、索具實習
氣象學、同實習

技
製造試驗部員

農林屬

一六
安心院助一
深山義道

機關學

漁撈試驗部員
養殖試驗部員(在二見)
海洋調查部員
養殖試驗部員(在木崎)
養殖試驗部員(在大長)
養殖試驗部員(在豐橋)
漁船機械試驗部員

若鷹丸無線電
信事務取扱

兼農林技師
屬

田中耕之助
三浦定之助
關晴雄
神谷尙志
川尻稔
西岡丑三
大島信夫
丸田秀夫
佐藤重一
藤井信一
堀重藏
小西芳太郎
森本敬義
岩本正一
林壽
岡本五郎三

食品論製造化學

養殖試驗部員(在金澤)
海洋調查部員
海洋調查部員
製造試驗部員
漁船機械試驗部員
海洋調查部員

農林技師

佐藤重一
藤井信一
堀重藏
小西芳太郎
森本敬義
岩本正一
林壽
岡本五郎三

水產通論

物理學

食品論、製造大意、漁獲
物處理法、製造法實習
化學

助教
漁船機械試驗部員
製造試驗部員
化學試驗部員

教務課生徒取締

兼

三浦正

教務課生徒取締

兼

三宅豐

生徒取締
生徒取締

兼

鳥居強次
篠山武次郎
角英悅

漁船論(日本型)漁撈論
(網具)運用術實習、製圖
動物學實驗
食品論、製造法實習
法規

製造試驗部員

屬

農林屬

今村朝祐
西村朝祐
海老名謙一

庶務課長
兼文書掛主任
會計掛主任
雲鷹丸事務長
圖書標本掛主任

兼

技師

中司正朔
岩崎甚左衛門
石鹽甚二郎
淵上保喜

養殖試驗部員(在豐橋)
海洋調查部員

蒼鷹丸事務長
庶務課

兼

技師

能勢忠雄
中野清
平田馬男

囑託

講習部

經濟 水産經濟ニ關スル調査 教務課
無線電信ニ關スル事項 雲鷹丸
雲鷹丸機關長

雲鷹丸機關長

英語

英語、獨逸語

雲鷹丸一等機關士

植物學、同實驗

植物色素試驗

英作文、簿記、商業概論

英語

雲鷹丸一等運轉士

救急療法

衛生ニ關スル事項

動物學同實驗、動物生理學、組織發生學同實驗

魚病調査

修身

東京帝國大學助教授 文學博士 深作安文

醫學得業士 北村銀平

醫學得業士 庵原順一

文學士 金山龍重

文學士 柳橋鐘一郎

文學士 飛田仁助

文學士 小川竹男

文學士 山内爲之輔

文學士 梅谷儀一

文學士 尾島勘次郎

文學士 羽原又吉

細菌學實驗

地質學

動物學、同實驗

物理化學、化學

水産商品學

水産學士 後藤幸男

東京帝國大學教授 理學博士 加藤武夫

理學士 岡田彌一郎

理學士 政池仁

理學士 大槻清三

東京帝國大學助教授 理學博士 岸上鎌吉

理學博士 小南清

東京帝國大學助教授 理學博士 橋本實斐

農林事務官 橋本實斐

農林事務官 宮島信夫

農林事務官 大槻房吉

農林事務官 田中友三

農林事務官 栗原祐吉

農林事務官 和川勉

農林事務官 中川勉

生物調査
赤潮魚病其他細菌ニ關スル調査

法規
法規
輸入水産食料品學
組織發生學實驗

試驗部

魚種改良試驗及魚病調査ニ關スル事項
小田原實習場ニ於ケル衛生事項
館山實習場ニ於ケル衛生事項
小田原實習場管理

漁船々型試験

養殖餌料研究(在豊橋)

適温試験

適温試験

魚病研究及魚種改良試験

冷凍試験及物理ニ關スル事項

化學ニ關スル事項

水産應用機械ニ關スル試験及調査

電氣應用漁具試験

たらば蟹ノ生態ニ關スル調査研究

五井養殖試験場管理

動植物寫生

海洋調査部

海洋調査部員

海洋調査部員

東京帝國大學教授
工學博士

山本武藏

農學博士

山田德二郎

理學博士

中井信隆

東京帝國大學教授
理學博士

石川千代松

東京帝國大學教授
農學博士

長岡半太郎

東京帝國大學教授
工學博士

鈴木梅太郎

東京帝國大學教授
工學博士

加茂正雄

理學博士

西健

理學士

中澤毅一

理學士

鍵田太平

理學士

浦田淳造

理學士

今村喜市

理學士

葛西清重

海洋調査ニ關スル事項

漁業基本調査ニ關スル事項、海洋學ニ關スル研究事項

海洋調査ニ關スル事項

海洋調査ニ關スル事項

庶務課

事務取扱

營繕工事ノ設計監督

東京帝國大學教授
理學博士

原十太

東京帝國大學教授
理學博士

寺田寅彦

理學博士

岡田武松

理學博士

海軍大佐 山口延一

農林技師

石塚源之進
門奈庄作

第二章 講習

第一節 規則及規程

第一 水産講習所講習規則

明治三十年四月

(沿革) 明治三十三年一月告示第七號、同三十七年四月同

第九〇號、同四十四年三月同第一九九號、大正二年

四月同第一〇三號、同二年七月同第二三三號、同

五年九月同第一七〇號、同一年一月告示第三一

號傳習規則廢止、大正十一年一月省令第一號講習

規則制定大正一二年七月同第一七號改正

第一條 水産講習所ハ水産ニ關スル學理及技術ヲ教授シ兼テ徳性ノ涵養ニ努ム

第二條 水産講習所ニ本科、遠洋漁業科、研究科及別科ヲ置ク

本科ハ漁撈、製造及養殖ノ三科ニ分ツ

第三條 本科ニ於テハ漁撈、製造又ハ養殖ニ關シ各必要ナル學理及技術ヲ習得セシム

遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業ニ關シ必要ナル學理

及技術ヲ習得セシム

研究科ニ於テハ既修學科目又ハ其ノ關係學科目ヲ專攻セシム

別科ニ於テハ水産ニ關スル特殊ノ科目ヲ限リ必要ナル學理及技術ヲ習得セシム其ノ科目ハ水産講習所長之ヲ定ム

第四條 修業年限ハ本科ニ在リテハ四年、遠洋漁業科ニ在リテハ二年、研究科ニ在リテハ三年以内、別科ニ在リテハ一年トス但シ遠洋漁業科及別科ノ修業年限ハ水産講習所長ニ於テ一年以内ヲ限リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五條 授業科ハ之ヲ徵收セス

第六條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 水産講習所ノ各科ニ入學スル者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一 本科ニ在リテハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者

ヲ有スル者

三 研究科ニ在リテハ水産講習所本科ヲ卒業シタル者

四 別科ニ在リテハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者
(イ) 水産學校ノ本科若ハ別科又ハ府縣水産講習所ヲ卒業シタル者

(ロ) 水産學校以外ノ實業學校ノ本科ヲ卒業シタル者又ハ中學校第三學年ヲ修了シタル者

(ハ) 二年以上水産ノ業務ニ従事シタル者
(ニ) 其他前各號ニ準スヘキ者

第八條 本科ヲ卒ヘタル者ニハ卒業證書、遠洋漁業科ヲ修了シタル者ニハ修業證書、研究科ヲ修了シタル者ニハ專攻證書、別科ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與ス

第九條 卒業生又ハ修了生ニシテ學術優等品行方正ナル者ニハ優等證書ヲ授與ス

第十條 本則、本則ニ基キテ發スル規程又ハ水産講

(イ) 中學校第四學年ヲ修了シタル者

(ロ) 高等學校尋常科ヲ修了シタル者

(ハ) 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者

(ニ) 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

(ホ) 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

(ヘ) 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

(ト) 甲種水産學校ノ本科又ハ尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル修業年限五年以上若ハ高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル修業年限三年以上ノ實業學校ノ水産科ヲ卒業シタル者

二 遠洋漁業科ニ在リテハ水産講習所本科ノ漁撈科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學術技能

習所長ノ發スル命令ニ違反シ生徒タル本分ニ背ク
行爲アル者ハ之ヲ懲戒ニ附ス
懲戒ハ戒飭、停學及退學トス

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除籍ス
ルコトアルヘシ
一 數々遅刻、缺課又ハ缺席スル者
二 一月以上無届缺席スル者
三 成業ノ見込ナキ者
第十一條ノ二 臺灣、朝鮮及外國人ノ特別入學ニ關
シテハ別段ノ規程ヲ設ク
第十二條 本則施行ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ告示ス

本則ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二 水産講習所講習規程

（沿革）明治三十一年一月、同三十一年一月、同年三月、
同年九月、同三十七年四月、同四十四年三月、大正二年
四月、同年六月、同五年九月、同年十二月、同一
年一月、告示第三一號講習規程廢止、大正十一年一
月告示第三一號講習規程制定、大正十一年七月同第
一八二號大正十四年一月同第一三三號改正

第一章 本科
一 學科課程

第一條 各科ノ學科課程左ノ如シ

學科目	時		學年	學期	時數
	年	週			
修身	一	五	第一學期	第一學期	五
英語	一	五	第二學期	第二學期	五
數學	一	五	第三學期	第三學期	五
物理學	二	五	第四學期	第四學期	五
化學	二	五	夏季實習	夏季實習	五
植物學	二	五	夏季實習	夏季實習	五
動物學	二	五	夏季實習	夏季實習	五

實業及 實驗	計	特別講義	兵式教練	商業大意	漁獲物處理法	測量術	救急療法	善殖保護論	簿記學	機械學	漁船論 西洋型	運船用術	航海學 及漁場論	氣象學	漁撈論 漁具	水産通論	經濟學	法規論	動物學 普通	實習				
																				製物學	植物學	動物學	動物學	
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						
	二九	二																						

合計	習實及驗實									
	論	製	組	植	動	細	物	化	計	計
三九	一四			三二		三六			二五	二
三九	一四			三三		三五			二五	二
三九	一四			二三		三六			二五	二
三九	一三	四				九			二六	二
三九	一四			三		九			二五	二
三九	一三	四	三			六			二六	二
三九	一三	三五	二			三			二六	二
三九	一三	三	二			五			二六	二
三九	一三	三	二			五			二六	二
三九	一〇	四				六			二九	四
三九	一五	不定	不定						二四	四
三九	三〇	不定	不定						九	三

化學	物理	數	英	身	學	學年		學期	時數	製造科	校外所	事項	合計	
						第一學年	第二學年						計	網
						第一學期	第一學年	第一學期	三二五五一	第一學年	第一學期	三九〇	一〇	
						第二學期	第一學年	第二學期	三二五五一	第一學年	第二學期	三九〇	一〇	
						第三學期	第一學年	第三學期	三二五五一	第一學年	第三學期	三九〇	一〇	
						第一學期	第二學年	第一學期	三二五五一	第二學年	第一學期	三九〇	一〇	
						第二學期	第二學年	第二學期	三二五五一	第二學年	第二學期	三九〇	一〇	
						第三學期	第二學年	第三學期	三二五五一	第二學年	第三學期	三九〇	一〇	
						第一學期	第三學年	第一學期	二五	第三學年	第一學期	三九〇	一〇	
						第二學期	第三學年	第二學期	二四	第三學年	第二學期	三九〇	一〇	
						第三學期	第三學年	第三學期	二五	第三學年	第三學期	三九〇	一〇	
						第一學期	第四學年	第一學期	二四二	第四學年	第一學期	二五	三	
						第二學期	第四學年	第二學期	三一	第四學年	第二學期			
						第三學期	第四學年	第三學期	一	第四學年	第三學期			

所	年	時	日	場	事	項
第一學年	夏季休業中	三五	高島	水泳及操艇、動植物實驗		
第二學年	同	一四	同	動植物實驗		
第三學年	同	一四	金澤	養蠶實習		
第四學年	春季休業中	七	金澤	海洋學、浮游生物實驗實習		
同	五月	一四	高島	養蠶實習		
同	五月	五〇	豐島	海魚發生、人工孵化法及海藻發生實習		
同	夏季休業中	二一	近畿、中國、九州地方	海魚法及養魚場調査、測量及製圖實習		
同	九月	一	五井	各種養殖事業調査		
同	十一月	一四	本所又ハ小田原	海苔養殖場調査及實習		
同	十二月	二一	長野縣及新潟縣又ハ北海道	製造法實習		
同	二月	二	大森及本牧	鮭、鱒人工孵化法及湖沼學實習		
同	同	同	同	海苔養殖場調査		

三〇

- 一 外國語ハ英語トシテ外ニ隨意科トシテ獨逸語ヲ課ス
- 二 本表ノ外必要ニ應ジテ課外講義ヲ課スルコトアルヘシ
- 三 第四學年ノ學科ノ教授時數及各學年ノ所外ニ於ケル實驗實習及調査ノ日數又ハ場所ハ時宜ニ依リ増減變更スルコトアルヘシ

二 學期、休業日

第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第三條 休業日左ノ如シ

- 一 日曜日
 - 一 大祭祝日
 - 一 記念日 三月二十二日
 - 一 春季休業日 自四月七日 至四月十七日
 - 一 夏季休業日 自七月十一日 至九月十日
 - 一 冬季休業日 自十二月二十五日 至一月七日
- 但シ春季、夏季又ハ冬季ノ休業日ニ於テハ實習ヲ課スルコトアルヘシ

三 入學、在學

第四條 入學期ハ學年ノ始トス

第五條 入學志願者ニ對シテハ學科試驗及體格検査ヲ行フ

學科試驗ハ中學校第四學年終了ノ程度ニ依リ左ノ學科ニ付之ヲ行フ

- 一 國語漢文
- 二 英語
- 三 數學
- 四 物理學
- 五 化學

第六條 入學試驗ニ合格シタル者ハ其ノ成績ノ順位ニ依リ入學ヲ許可ス

第七條 入學試驗ノ期日及場所ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第八條 入學志願者ハ漁撈、製造及養殖ノ三科ニ付志望學科ヲ指定シ其ノ順位ヲ定ムヘシ

入學ノ許可ヲ受ケタル後ニ於テハ他ノ科ニ轉スルコトヲ得ス但シ一學年以上在學ノ後轉科ヲ望ム者アルトキハ詮衡ノ上他ノ科ノ第一學年ニ編入スルコトアルヘシ

第九條 入學志願者ハ書式第一號ノ入學願書ニ入學試驗料及左ノ各號ノ書類ヲ添ヘ之ヲ水産講習所長

ニ差出スヘシ

一 書式第二號ニ依ル履歷書

二 水産講習所講習規則第七條第一號ノ資格ヲ證
スル書面又ハ其ノ資格ヲ取得スヘキ旨ヲ證スル
當該學校長ノ證明書

三 六ヶ月以内ノ撮影ニ係ル單身ノ半身脱帽ノ手
札形寫眞、裏面ニ第一志望學科名、族籍氏名及
生年月日ヲ自署スヘシ

第十條 入學試驗料ハ金三圓トシ收入印紙ヲ以テ之
ヲ納ムヘシ

前項ノ收入印紙ハ之ヲ入學願書ニ貼附シテ差出ス
ヘシ

既納ノ入學試驗料ハ之ヲ還付セス

第十一條 退學シタル者再入學ヲ請フトキハ詮議ノ
上學年ノ始ニ於テ原級又ハ原級以下ニ編入スルコ
トアルヘシ

第十二條 入學ヲ許可セラレタル者ハ許可ノ日ヨリ

但シ疾病ニ因リ引續キ一週間以上缺席スルトキハ

届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第十七條 病氣其ノ他ノ事故ニ因リ休學セムトスル
者ハ事由ヲ具シ尙疾病ニ因ル場合ハ醫師ノ診斷書
ヲ添ヘ保證人ノ連署ヲ以テ其ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 缺席日數全學年ヲ通シテ九十日以上ニ亘
ル者ニ對シテハ其ノ學年間休學ヲ命スルコトアル
ヘシ

第十九條 休學者ハ次學年ノ始ヨリ原級ニ編入ス但
シ陸軍兵役ニ服スル者ニシテ服役滿期後直ニ就學
セムトスルモノハ其ノ學年ニ於テ原級ニ編入ス

第二十條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セムトスル
者ハ事由ヲ具シ尙疾病ニ因ル場合ハ醫師ノ診斷書
ヲ添ヘ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ

五 試驗、進級、卒業、

第二十一條 學科ニ付テハ一學期一回以上試驗ヲ行
フ

十日以内ニ保證人ト連署ノ上書式第三號ニ依ル在
學證書ヲ差出スヘシ正當ノ事由ナクシテ其ノ手續
ヲ遅延シタルトキハ入學ノ許可ヲ取消スコトアル
ヘシ

第十三條 保證人ハ二人トシ内一人ハ入學者ノ父
兄、親戚又ハ入學者ニ學資ヲ支給スル者、他ノ一
人ハ東京市又ハ其ノ附近ニ在住スル丁年以上ノ男
子タルコトヲ要ス

第十四條 保證人死亡シ又ハ保證人タル資格ヲ缺ク
ニ至リタルトキハ遲滞ナク之ヲ改ムヘシ

保證人ニシテ其ノ責務ヲ盡ササルモノト認ムルト
キハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 生徒ハ制服制帽ヲ着用スヘシ

四 缺席、休學、退學

第十六條 病氣其ノ他ノ事故ニ因リ缺席スル者ハ其
ノ事由ヲ具シ通學生ハ保證人ノ連署ヲ以テ、寄宿
舍生ハ生徒取締ノ證明ヲ經テ速ニ之ヲ届出ツヘシ

實驗實習ニ付テハ其ノ成績、勤惰及報告書ニ依リ
其ノ評點ヲ附ス

第二十二條 最終ノ學年ニ於テハ學科試驗ノ外卒業
試問ヲ行ヒ且製造科及養殖科ノ生徒ニハ卒業論文
ヲ提出セシム

第二十三條 評點ハ百點ヲ以テ滿點トス

第二十四條 各學年ニ於ケル各學科及各實驗實習ノ
得點ハ當該學年ニ於ケル各學期試驗ノ當該評點ヲ
合計シ之ヲ平均シタルモノトス

前項ノ各得點ヲ合計平均シタルモノヲ以テ當該學
年ノ平均點トス但シ最終學年ニ於テハ各學科ノ當
該學年ノ得點ヲ合計平均シタルモノニ當該學年ニ
於ケル各實驗實習、卒業試問及卒業論文ノ各評點
ヲ合計平均シタルモノヲ以テ平均點トス

第二十五條 各學年ニ於テ各學科及各實驗實習ノ得
點各五十點以上、平均點六十點以上ヲ得タル者ハ
之ヲ進級セシメ最終學年ニ於テ各學科ノ得點並各

實驗實習、卒業試問及卒業論文ノ評點各五十點以上、平均六十點以上ヲ得タル者ハ之ヲ卒業セシム

第二十六條 各學年ニ於テ學科又ハ實驗實習ニ付前條ニ定ムル得點ヲ得サル者ハ之ヲ上級ニ假編入シ其ノ年九月末日迄ニ其ノ學科若ハ實驗ニ付再試験ヲ行ヒ又ハ實習ヲ補充セシメ其ノ評點各六十點以上ヲ得タル者ハ之ヲ成規ニ進級セシメ然ラサルモノハ之ヲ除籍ス

前項ノ規定ハ學年ノ成績前條ニ定ムル平均點ニ達セサル者ニ付之ヲ準用ス但シ其ノ學科及實驗ノ再試験又ハ實習ノ補充ハ得點六十點未滿ノモノニ付之ヲ行フ

第四學年ノ成績前條ニ定ムル得點ニ達セサル者ニ對シテハ其ノ卒業ヲ延期シ前二項ノ規定ヲ準用ス

第二十七條 病氣其ノ他ノ事故ニ因リ試験ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ事由ノ明瞭ナル場合ニ限リ追試験ヲ施行ス但シ當該學年中ノ他ノ學

ト認ムルトキ之ヲ授與ス但シ必要アルトキハ試験ヲ經タル上之ヲ授與ス

第三十三條 第一章ノ規定ハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外遠洋漁業科ニ付之ヲ準用ス

第三章 研究科

第三十四條 研究科生徒ハ教官ノ指導ヲ受ケ水産講習所又ハ他ノ場所ニ於テ研究ニ從事スヘシ

第三十五條 研究科ニ入學ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ願書ヲ水産講習所長ニ差出スヘシ

第三十六條 專攻證書ハ研究事項ニ付提出シタル論文ヲ考查シ其ノ研究ヲ修了シタルモノト認ムルトキ之ヲ授與ス

第三十七條 第一章及第三十一條ノ規定ハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外研究科ニ付之ヲ準用ス

第三十八條 別科ノ學科課程ハ水産講習所長之ヲ定

期ニ於テ評點ヲ附シタル學科又ハ實驗實習ニ付テハ其ノ評點ヲ標準トシ勤惰ヲ參酌シテ認定點ヲ附シ之ニ代フルコトアルヘシ

第二十八條 生徒ノ席次ハ前學年ニ於ケル總得點ニ依リ卒業生ノ席次ハ各學年ニ於ケル總得點ヲ合計シテ之ヲ定ム

第二章 遠洋漁業科

第二十九條 遠洋漁業科ノ學科課程ハ水産講習所長之ヲ定ム

第三十條 遠洋漁業科ニ入學ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ履歷書ヲ添へ之ヲ水産講習所長ニ差出スヘシ

第三十一條 疾病其ノ他ノ事故ニ依リ休學セムトスル者ハ期間ヲ定メテ其ノ許可ヲ受クヘシ休學ノ期間ハ之ヲ修業年限ニ算入セス

第三十二條 修業證書ハ修業ノ成績、勤惰、報告書及漁撈日誌ヲ考查シ所定ノ課程ヲ修了シタルモノ

第三十九條 別科ニ入學ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ書式第四號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添へ之ヲ水産講習所長ニ差出スヘシ

- 一 書式第二號ニ依ル履歷書
 - 二 水産講習所講習規則第七條第四號ノ資格ヲ證スル證明書
 - 三 書式第五號ニ依ル體格檢查書
 - 四 六ヶ月以内ノ撮影ニ係ル單身ノ半身脫帽ノ手札形寫眞、裏面ニ族籍氏名及生年月日ヲ自署スヘシ
- 第四十條 修了證書ハ修業ノ成績及勤惰ヲ考查シ所定ノ課程ヲ修了シタルモノト認ムルトキ之ヲ授與ス
- 第四十一條 第一章ノ規定ハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外別科ニ付之ヲ準用ス

附則

本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ入

學試驗ニ關スル規定ハ大正十一年三月施行スヘキ入學試驗ヨリ之ヲ施行ス

水産講習所傳習規則及水産講習所傳習規程ハ之ヲ廢止ス

本規程施行ノ際現ニ在學中ノ生徒ニ付テハ仍水産講習所傳習規則及水産講習所傳習規程ニ依ル但シ本規程施行ノ際現ニ第一學年ニ在學中ノ生徒ニ限リ其ノ卒業ニ至ルマテ學年試驗ニ合格セサル爲編入スヘキ原級ハ本規程ニ依ル各第一學年、第二學年又ハ第三學年トス

第二十六條ノ規定ハ本規程施行ノ際現ニ在學中ノ生徒ニ付テモ亦其ノ選擇ニ依リ之ヲ適用スルコトヲ得

書式

○第一號

印紙入
(參閱)

入學願書

志望學科 第一志望
第二志望
第三志望

受驗地

私儀水産講習所本科へ入學致度左記書類相添へ此段相願候也

年月日

何

某印

水産講習所長殿

左記

一 履歷書

一 水産講習所講習規程第九條第二號ニ依ル

證明書

一 寫眞

○第二號

履歷書

本籍族稱

現住所

家業

氏名

業 (月主ノ家業ヲ記ス)

名 (氏名ノ右側ニ假名ヲ附スヘシ)

出生年月日

業 (學校ノ名、入學、修業ノ年月日、在學中ノ者ハ其ノ學年等)

役 (何年徴兵適齡、検査後ノモノハ其ノ旨ヲ記スヘシ)

業 (自己ノ從事シタル職業ヲ記スヘシ)

賞罰

右之通相違無之候也

年月日

何

某印

○第三號

印紙入
(參閱)

在學證書

私儀今般某科へ入學許可相成候ニ付テハ規則規程等固ク遵守シ専心勉勵可致ハ勿論中途退學致ス間敷候仍テ在學證書如斯候也

本籍族稱
家業、月主トノ關係
現住所

年月日

何

某印

何年何月何日生

右某儀今般入學許可相成候ニ付テハ同人ニ係ル一切ノ事件ハ私共ニ於テ引受可申候也

本籍族稱

職業、學生トノ關係 (學生ノ父兄、親戚又ハ學費支給人タル關係ヲ記スヘシ)

現住所

保證人

何

某印

本籍族稱

職業、學生トノ關係

現住所

保證人

何

某印

水産講習所長殿

○第四號

入學願書

私儀水産講習所別科へ入學致度左記書類相添へ此段相願候也

年月日

何

某印

水産講習所長殿

左記

- 一 履歷書
- 一 水産講習所講習規程第三十九條第二號ニ依ル證明書
- 一 體格検査書
- 一 寫眞

〇第五號

體格検査書

族籍、戸主トノ關係

何 某印

何年何月何日生

- 一 體格(甲、乙、丙)
 - 最モ強健ナル者ヲ甲トシ之ニ亞ル者ヲ乙トシ現ニ疾患ナキモ身體薄弱ナル者若ハ著シキ病歴ヲ有スル者ヲ丙トス
- 一 體質(強健、稍弱、弱)特別ナル事項ハ其ノ條件ヲ記ス
- 一 身長(何尺寸分)

現住所

醫師 何 某印

水産講習所入學試業料ニ關スル件

大正六年二月二十六日農商務省令第四號

水産講習所入學試業料ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ
前項ノ收入印紙ハ之ヲ入學願書ニ貼付シ消印ヲ爲サスシテ差出スヘシ
水産講習所長ハ其ノ收受スヘキモノナルヲ認メタル後願書ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印ヲ捺捺スヘシ但志願者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ之ヲ妨ケス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三 水産講習所臺灣、朝鮮及外國人特別入學規程

- 第一條 臺灣人又ハ朝鮮人ニシテ水産講習所講習規則ニ依ラス所定ノ學科ノ教授ヲ受ケムトスル者ハ入學願書ニ臺灣總督府又ハ朝鮮總督府ノ紹介書ヲ添ヘ之ヲ水産講習所長ニ差出スヘシ
- 第二條 水産講習所長前條ノ願書ヲ受理シタルトキハ相當ノ學力アリト認メタルモノニ限り之ヲ許可スヘシ但シ水産講習所ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 授業料ハ之ヲ徴收セス
- 第四條 本規程ニ依リ入學シタル者ニシテ學科修了ノ證明ヲ受ケムトスルモノニハ試験ノ上特別證書ヲ附與ス
- 第五條 水産講習所長ハ本規程ノ施行ニ關シ必要ナル細則ヲ設ケルコトヲ得
- 第六條 前五條ノ規程ハ外國人ニ之ヲ準用ス其ノ入學ニ關シテハ外

務省、在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介ヲ要ス

第四 諸規定

- 一 水産講習所教官會議規程
 - 第一條 教官會議ハ教務ニ關スル諸般ノ事項ヲ審議スルヲ以テ目的トス
 - 第二條 教官會議ハ講習部教官ヲ以テ之ヲ組織ス
 - 第三條 教官會議ハ總會及部會トス
 - 總會ハ第一條ノ一般事項ヲ審議スルヲ以テ目的トシ教官全員ヲ以テ之ヲ組織ス
 - 部會ハ第一條ノ特殊事項ヲ審議スルヲ以テ目的トシ當該關係教官ヲ以テ之ヲ組織ス
 - 第四條 教官會議ニ會長一名幹事長一名及幹事三名ヲ置ク
 - 會長ハ所長、幹事長ハ教務課長ヲ以テ之ニ任シ幹事ハ教務課員中ヨリ所長指名ス
 - 第五條 會長ハ會議ヲ招集シ其ノ他會務ヲ總理ス
 - 幹事長ハ議事ヲ整理シ其ノ他會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事ハ會務ニ執掌シ幹事長事故アルトキハ幹事中ヨリ之ヲ代理ス
 - 第六條 總會ハ每學期一回之ヲ開ク但シ必要アル場合ニ於テハ臨時ニ之ヲ開クコトヲ得
 - 部會ハ必要アル場合ニ於テ隨時之ヲ開ク
 - 第七條 總會ノ議長ハ幹事長、部會ノ議長ハ當該部會員中ヨリ一名之

第八條 教官會議ニ議案ヲ提出セム トスル者ハ理由ヲ附シ幹事長ニ提出スヘシ

幹事長ハ議案ヲ整理シ會長ノ承認ヲ得テ少クトモ會議ノ三日前ニ會員ニ之ヲ通知シタル後之ヲ總會又ハ部會ニ附議スヘシ

緊急ノ必要アル場合ニ於テハ會員ハ會議中出席者過半數ノ同意ヲ得議案ヲ提出スルコトヲ得

第九條 教官會議ノ議決ハ總員過半數ノ出席セル會議ニ於テ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第十條 教官會議ノ議決ハ之ヲ所長ニ報告スヘシ此場合ニ於テ少數意見モ共ニ之ヲ添附スヘシ

二 實習規程

明治三十年四月

(沿革)明治三十二年三月、大正二年六月改正

第一條 實習ハ本所及實習船又ハ本所指定ノ場所若ハ船舶ニ於テテ事セシム

第二條 實習ノ事項及期限ハ學科課程ニ準據シ之ヲ定ム

第三條 實習ノ爲メ出張セシタルトキハ其往復ノ旅費ヲ補給ス但シ本所實習場及試験地駐ニ本所及實習場試験地ヨリ鐵道十六哩海里十海里以内ニ出張スル者及遠洋漁業科生徒ニハ旅費ヲ支給セス

第四條 實習ニ付テハ擔當教官又ハ特ニ設ケタル監督者ノ監督ヲ受

クヘシ

第五條 各組ニ組長副組長各一人ヲ設ケ其ノ組員ニ對スル通達其他ノ實習ニ關スル諸般ノ整理ニ任セシム

第六條 實習中ハ規定ノ實習服ヲ着用スヘシ

第七條 實習シタル事項ニ付テハ指定ノ期間内ニ其ノ報告書ヲ作成シテ擔當教官ニ差出スヘシ

第八條 實習中報酬手當ノ類ヲ贈與セムトスルモノアルトキハ其事由ヲ所長ニ具申シ認可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ受領スルヲ得ス

三 實習船規程

明治四十三年七月

(沿革)明治四十三年一月及二月改正

第一條 實習船ハ本所生徒ヲシテ漁撈、航海、運用及機關ニ關スル學術並ニ技術ヲ實習セシムルヲ以テ目的トス

第二條 實習船ニ左ノ職員ヲ置ク但シ場合ニ依リ變更スルコトアルヘシ

- 一 船長
- 二 教官
- 三 運轉士 運轉士補
- 四 機關長 機關士
- 五 事務長

第三條 船長ハ實習、風紀、衛生、其ノ他全般ノ船務ヲ總轄ス

第四條 船長ハ每實習期ノ終リニ於テ其ノ實習報告書別表書式ノ考

課表及衛生狀態調査書ヲ添ヘ所長ニ提出スヘシ但シ實習報告書ハ其ノ實習期中便宜數回ニ分割シテ提出スルコトヲ得

第五條 船長ハ所長ノ決裁ヲ經テ實習船内規ヲ定メ又ハ之ヲ改廢スルコトヲ得

第六條 教官ハ船長ノ命ヲ受ケ各々其ノ擔當課業ノ實習ニ任シ且ツ乗組生徒ヲ其ノ他船務ニ從事ス

臨時乗組ヲ命セラレタル教官ハ特別ノ場合ヲ除ク外前項後段ノ事務ニ從事スル限ニアラス

第七條 運轉士ハ船長ノ命ヲ承ケ運用術ノ實習、船内風紀ノ取締其ノ他ノ船務ニ從事ス

運轉士補ハ船長ノ命ヲ承ケ運轉士ノ職務ヲ補助ス

第八條 機關長ハ船長ノ命ヲ承ケ機關術ノ實習其ノ他ノ船務ニ從事ス

機關士ハ船長ノ命ヲ承ケ機關長ノ職務ヲ補助ス

第九條 事務長ハ船長ノ命ヲ承ケ文書帳簿其ノ他經理及衛生ニ關スル事項ヲ擔當ス

第十條 職員ハ每實習期ノ終リニ各々其擔當課業ニ對スル生徒ノ實習評點表ヲ作成シ之ヲ船長ニ提出スヘシ

第三章 實 習

第十一條 實習期間ヲ三期トシ各四箇月ヲ以テ一期トス但シ場合ニ依リ變更スルコトアルヘシ

第十二條 實習科目左ノ如シ但シ場合ニ依リ變更又ハ増減スルコトアルヘシ

一 漁撈法

- 出漁、漁具使用法、漁群偵察、漁法、漁艇ノ運用、漁獲物處理法
- 漁具作製及修理、漁具保存、漁業ノ地方慣習制度及經濟調査、漁獲物ノ種類及性質調査、漁具漁船ノ種類及構造調査

二 航海術

- 推測、實測、羅盤差測定、羅盤修正、經緯儀誤差測定、氣象觀測
- 潮時算術

三 運用術

- 操帆、操舵、適帆、荒天航法、應急修理、船體船具保存法、技業
- 信號法、運轉法、衝突預防法、非常召集、消防配置、當直勤務、守備法、諸圓材取扱、糧食貯藏品積載法、出入港手續

四 機關術

- 汽機及汽爐取扱及管理法、冷藏機取扱及管理法

第十三條 碇泊中ハ船長ノ見込ヲ以テ研究ノ爲生徒ヲシテ當該地方ノ水産狀況調査又ハ視察セシムルコトヲ得

前項ノ調査又ハ視察ヲ終リタルトキハ生徒ヲシテ各々其ノ報告ヲ提出セシムルコトアルヘシ報告書ハ其ノ實習期ノ終ニ船長ノ提出スヘキ實習報告書ニ添付スヘシ

第十三條ノ二 船長ハ一實習航海期間内ニ於テ實習上必要ト認ムル場合ハ生徒ヲシテ交番ニ他ノ漁船ニ便乗セシムルコトヲ得但シ此場合ニ在リテハ交番人員數、便乗船ノ種類、船名及其所有主ニツキ直ニ所長ニ報告スヘシ

第十四條 實習成績ノ評點ハ各實習期ノ終ニ運用術及航海術ニアリ

期	賞	日賞數	日在船數	全日實數	月下日船數	月上日船數	年	實習第 期考課表 生徒																									
								年 月 日	年 月 日	科目評點	全點																						
第 期								成	業	課	流	運	航	機	報告書						一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇							
末								成	業	課	流	運	航	機	報告書						一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇							
上																																	
船																																	
際																																	

テハ實習日誌此ニ臨時試業ノ評點ノ合計點其ノ他ノ課業ニ在リテハ擔當教官ノ見込ニ依リ之ヲ定ム

第十五條 各職員ハ豫メ協議ノ上其擔當課業ニ付順序ヲ定メ尙天候其ノ他ノ事情ヲ參酌シテ適宜課業スヘシ

第四章 風紀衛生及上陸

第十六條 風紀衛生及上陸ニ關シテハ本規程ニ定メアルモノノ外船長定ムルトコロノ内規ニ依リ之ヲ行フ

第十七條 船長ハ船務ニ差支ナク且ツ衛生上其ノ他ノ故障ナキヲ認メタルトキハ相當ノ時間職員生徒ノ上陸ヲ許可スルコトヲ得

第十八條 上陸ヲ許可スヘキ生徒ノ員數ハ通常ノ場合ニ在リテハ其ノ半數ヲ超過スルコトヲ得ス

第十九條 船内ニ於ケル運動遊戲ハ健康ヲ増進シ士氣ヲ鼓舞シ嗜好ヲ高尚ナラシムルニ足ルト認ムルモノノ外之ヲ許可スル事ヲ得ス

第二十條 事務長ハ衛生日誌ヲ調製シ且ツ毎月一回生徒ノ衛生狀態ヲ調査シ之ヲ船長ニ報告スヘシ

第二十一條 職員生徒カ疾病傷寒ニ罹リタルトキハ船長ハ所長ニ經伺シテ相當ノ期間特ニ公暇又ハ下船療養ヲ許可スルコトヲ得但シ生徒ニツキテハ經伺ノ限リニアラス

交通不便其ノ他ノ事情ニ依リ豫メ所長ニ經伺スルコトヲ得ザル場合ハ事後其ノ旨ヲ所長ニ報告スヘシ

第二十二條 職員生徒上陸中疾病傷寒ニ罹リ定刻ニ歸船シ能ハサルトキハ直チニ醫師診斷書ヲ添ヘ船長ニ届出ツヘシ

四二

第二十三條 船長ハ生徒ノ品行方正ニシテ實習ノ成績良好ナルモノニ限リ碇泊中一定ノ期間特別公暇ヲ與フルコトヲ得

第二十四條 船長ハ本則及諸規則心得等ニ背戻シタル生徒ニ對シ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第二十五條 懲戒ハ上陸禁止及加役ノ二種トス

上陸禁止ハ七日以内トシ碇泊日數ニ於テ之ヲ算ス加役ハ七日以内トシ常務時間外一日二時間以内役務ニ服セシム

第二十六條 生徒ニシテ犯則度ヲ重ネ又ハ重大ナル不都合ノ所爲アリタルトキハ船長ハ所長ニ其處分ヲ申請スヘシ

年 月 日	意見	品 行	性 質	格 體			特 長	偏 癖	績 出缺及
				身 長	體 量	體 質			
平均									
合計									
平均								一〇〇	

四 寄宿舎規程

明治三十年四月

(沿革) 明治三十三年三月大正一三年四月改正

第一條 寄宿舎生ハ生徒取締ノ監督ヲ受ヘシ

第二條 寄宿舎生ハ本規程ニ基キ規律衛生及食事等ニ關スル規約ヲ設ケ所長ノ認可ヲ經テ實踐スヘシ

第三條 本規程及ヒ規約ノ實踐ヲ期スルメ寄宿舎ニ委員及室長若干名ヲ置ク

前項ノ委員ハ寄宿舎生中各科各學年等數ヲ室長ハ各室ニ於テ之ヲ互選シ所長ニ届出ツヘシ

第四條 寄宿舎ハ毎年夏期休業中ハ之ヲ閉ツルモノトス

但シ閉舍期間ハ時宜ニヨリ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五條 寄宿舎生ハ定期或ハ臨時ニ人員點檢ヲ受クヘシ

前項人員點檢時刻ハ規約ニ於テ之ヲ定メシム

第六條 寄宿舎生ニシテ時限外ニ外出セントスルモノハ許可ヲ受クヘシ

前項外出時限ハ規約ヲ以テ之ヲ定メシム

第七條 外泊又ハ時限内ニ歸舍シ得サルモノハ其事由ヲ詳記シ前者ハ保證人連署ヲ以テ後者ハ委員ノ連署ヲ以テ届出ツヘシ

第八條 入舍又ハ退舍ヲ爲サムトスルモノハ三日以前ニ保證人連署ノ上届出ツヘシ

第九條 物品ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ其情狀ニヨリ之ヲ修補又ハ辨償セシム

第十條 寄宿舎舍費及食費ハ時價ニヨリ之ヲ定ム

前項ノ舍費及食費ハ毎月五日迄ニ納付スヘシ

第十一條 寄宿舎生ニシテ本規程又ハ規約ニ違背シ其他寄宿舎生タル本分ヲ守ラサルモノハ其情狀ニヨリ退舍ヲ命ス

第二節 講習功程

第一本 科

在學ノ生徒ハ二百九十二名ニシテ本科ノ教授ハ學年ノ始ニ於テ學科課程表ニ基キ一學年間ニ授クヘキ各學科ノ時數ヲ豫定シ教授事項ノ要目ヲ配當シテ之ヲ定メ之ニ依テ教授ヲ爲セリ

第二 遠洋漁業科

在學ノ生徒ハ八名ニシテ漁業船舶ニ乘組テ命シ漁業及航海運用ニ關スル技術ヲ練習セシム

第三 研究科

在學ノ生徒ハ漁撈科一名ニシテ専攻ノ題目ニ就テ教官指導ノ下ニ其研究ヲ爲シ或ハ關係學科ノ演講ヲ爲サシム

第四 別 科

淡水養魚專修生徒ハ現在六名アリ愛知縣豐橋市外ナル本所々屬ノ養魚試驗場ニ於テ養成ス

第三章 試驗及調査

第一節 試驗及調査ニ關スル組織

本所ハ一般水産業ノ發達ヲ圖ル爲メ大正三年三月本所處務細則ヲ定メ海洋調査部、漁撈、養殖、製造、

化學及漁船機械ノ五試驗部ヲ設ケ該各事項ニ付試驗及調査ヲ爲シ且ツ本所ノ業務ニ妨ケナキ範圍ニ於テ一般ノ依頼ニ應スル爲メ試驗規則ヲ設ク又種苗配付ヲナス爲メ種苗拂下規則ヲ設ケタリ其規則左ノ如シ

第一 水産講習所試驗規則

大正三年三月農商務省令第五號

第一條 水産講習所ハ海洋調査、漁撈、養殖、製造、化學、漁船及機械ニ關スル事項ニ付試驗、鑑定、分析、檢定及設計ノ依頼ヲ受ケタルトキハ主管ノ業務ニ妨ケナキ範圍ニ於テ之ニ應スルコトヲ得

第二條 前條ノ規程ニ依リ依頼ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ依頼事項及目的ヲ明カナラシムヘキ詳細ナル説明書類並必要ノ圖面及現品ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ニ依リ水産製造品等ノ鑑定又ハ分析ノ依頼ヲ爲サムトスル者ノ差出スヘキ現品ハ左記ノ區別ニ依ルヘシ但シ必要ノ場合ニハ更ニ相當ノ數量ヲ差出サシムルコトアルヘシ

製造ニ關スル事項

罐詰類	鑑定	普通成分	一成分毎ニ	三箇以上
鹽藏乾酪類	鑑定	形大ナルモノ	二箇以上	三箇以上
節類	鑑定	普通成分	一成分毎ニ	一尾
越嶺新類	鑑定	特別成分	一成分毎ニ	一尾
肉類	分析	普通成分	一成分毎ニ	一尾
肥料	分析	特別成分	一成分毎ニ	一尾
脂肪油及蠟	鑑定	檢定	三合又ハ一斤以上	二箇以上
食用油	鑑定	檢定	六合又ハ二斤以上	二箇以上
食用肝油	鑑定	檢定	三合又ハ一斤以上	二箇以上
皮革	鑑定	檢定	六合又ハ二斤以上	二箇以上
食用藻類	鑑定	檢定	一合又ハ二合以上	一合以上
寒天及其原藻	鑑定	製品	一坪又ハ二枚以上	一坪以上
糊料及其原藻	鑑定	製品	十匁又ハ二枚以上	十匁以上
沃度、沃度灰及其原藻	鑑定	沃度及灰	一合以上	一合以上

罐詰用鐵葉	鑑定	分析	二枚以上
硫酸紙其他罐內被物	鑑定	紙類其他ノモノ	二枚以上
漁具材料ニ關スル事項	分析	同	同
網地	鑑定	同	一箇以上
網絲	鑑定	同	十箇以上
網子	鑑定	同	十箇以上
浮子	鑑定	同	十箇以上
釣鉤	鑑定	同	十本以上
塗料	鑑定	一貫匁ヲ染メ得ヘキ材料	百匁以上
養殖ニ屬スル事項	分析	同	同
餌料	分析	二百匁以上	二百匁以上
水質	分析	一升五合以上	一升五合以上
土質	分析	三升以上	三升以上
前項ニ掲ケサル事項ニ關シテハ前項ニ準シ適當ノ數量ヲ差出スヘシ	分析	同	同
第三條 水産講習所試驗又ハ鑑定ノ必要ナシト認ムルトキハ其ノ依頼ニ應セス	分析	同	同
第四條 差出シタル現品ハ依頼ニ應セサル場合又ハ	分析	同	同

第二 水産講習所種苗拂下規則

大正三年三月農商務省令第六號

出願ノ際依頼者ニ於テ豫メ返付ヲ申出テ其ノ承認ヲ得タル場合ノ外之ヲ返付セス

第五條 本規則ニ依リ依頼ヲ受ケタル事項ニ關シ必要アル場合ニ於テハ依頼者ヲシテ旅費ヲ負擔セシメ又ハ器具機械原料消耗品又ハ人夫等ヲ提供セシムルコトアルヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年農商務省告示第四百十三號水産講習所試験規程及同年農商務省告示第六百六十三號試驗又ハ鑑定依頼者心得ハ之ヲ廢止ス

書式

試驗(調査、鑑定、分析、檢定、設計)願

一 事項 何々

一 添附書類 何通

一 現品 何々

前記事項御試験(調査、鑑定、分析、檢定、設計)依頼致度別紙説明書類(及現品)相添へ此段相願候也

年 月 日 住所 依頼人 何 某印

水産講習所長氏名殿

第一條 水産動植物種苗ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ第一號様式ニ依ル願書ニ養殖ノ場所、面積及設備等ニ關スル設計書ヲ添へ水産講習所長ニ差出スヘシ

第二條 拂下クヘキ種苗ノ種類、數量及價格ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三條 種苗ノ拂下ヲ受クルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一 地方水産試驗場、水産講習所、學校、水産組合、漁業組合、産業組合

二 道、府、縣、郡、市町村其ノ他ノ公共團體

三 一年以上養殖事業ニ従事シ相當ノ成績ヲ擧ケタルモノ

前項ニ該當セサル者ト雖水産講習所長ニ於テ適當ト認メタル者ニ對シテハ拂下ヲ爲スコトアルヘシ

第四條 水産講習所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ水

產動植物ノ養殖試驗ヲ爲ス者ニ對シ無償ニテ種苗ヲ下付スルコトヲ得

第一條ノ規程ハ前項ニ依リ種苗ノ下付ヲ受ケムトスル者ニ之ヲ準用ス

第五條 種苗拂下ノ許可ノ通知アリタルトキハ出願人ハ水産講習所長ノ指定シタル期限迄ニ其ノ價格ヲ納付スヘシ但シ郵便ニ依ルトキハ書留郵便ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第六條 出願人種苗ノ送附ヲ受ケタルトキハ第二號様式ノ領收證ヲ差出スヘシ

第七條 種苗ノ送付ニ要スル荷造費、運賃及其ノ送付中ニ生シタル種苗ノ斃死、損傷等ノ損害ハ出願者ノ負擔トス

第八條 種苗ノ拂下又ハ下付ヲ受ケタル者ハ水産講習所長ノ指定シタル種苗ノ發育狀況等ニ關スル事項ヲ水産講習所長ニ報告スヘシ

第一號様式

種苗拂下願

一 何々 何尾(粒)

右養殖致度候ニ付拂下相成度御所種苗拂下規則ニ依リ此段相願候也

年 月 日 何縣何郡何町(村) 漁業組合理事(出願人資格) 何 某印

水産講習所長氏名殿

(受領者出願スルコト能ハサルトキハ種苗届先、取扱署名及取扱運送店名ヲ附記スヘシ)

第二號様式

種苗領收書

一 何々 何尾(粒)

右領收候也

年 月 日 何縣何郡何町(村) 何 某印

水産講習所長氏名殿

第二節 各部事業ノ概要

(自大正十四年七月一日
至同十五年九月末日)

第一 海洋調査部

明治四十二年以降農商務省水産局ニ於テ漁業基本調査ト稱シ海洋ノ調査ニ從事シタリシカ大正三年四月此事業ヲ本所ニ移シ大正七年豫算ヲ得テ海洋調査部ト改稱シ専用調査船天鷗丸ヲ建造セリ。大正九年十二月不幸火災ノ爲メ其資料及標本器具ノ大半ヲ烏有ニ歸シタリシカ大正十一年六月復舊工事成レルヲ以テ新廳舎ニ移リタリ。大正十二年九月ノ大震災ニハ幸ニシテ類焼ヲ免レ損害輕微ナリ。然ルニ調査船天鷗丸ハ腐蝕菌ノ胃ス所トナリ、其航海不能ニ陥リタルヲ以テ代船ヲ要求シ大正十三年度ニ豫算ヲ得テ新船蒼鷹丸ヲ建造セリ。

一、海洋ノ調査

(イ) 細密的調査。調査船ハ大正十一年度以降從來施

四八

行シ來レル普遍的沖合横斷觀測ノ外本邦沿海ヲ五海區ニ分チ各海區ノ細密ナル調査ヲ行フコトトシ其第一期トシテ、千葉縣野島崎ヨリ青森縣尻矢岬ニ亘ル東北海區ノ調査ニ從事シ本期ハ新船蒼鷹丸ヲ以テ大正十四年七月、八月、十一月、十二月及大正十五年七月、八月ノ二回ニ亘リ、主トシテ底棲生物及底質ノ調査ヲ行ヒタリ。

(ロ) 普遍的沖合及内灣横斷觀測。引續キ地方連絡各官衙及團體ノ熱心ナル協力ニヨリ本邦沿海ノ沖合及内灣ノ横斷觀測資料ヲ綜合シテ海況ト漁況トノ關係ヲ調査セリ。

而シテ新調査船ハ造船地長崎ヨリノ處女航海ノ途次大正十四年五月潮岬、洲崎間ノ觀測ヲ行ヒシ外大正十四年十一月(細密的調査ト同時)及十五年三月水産局ノ囑ニヨル漁業試験及オットセイ監視ト同時ニ東北海區ノ觀測ヲ行ヒタリ。

(ハ) 沿海定地觀測。沖合ノ海洋狀態ト沿岸海水ノ變

化トノ關係ヲ究メンカ爲メ引續キ連絡地方官衙、燈臺測候所並ニ特志家ニ委囑シテ全國沿岸ニ亘ル定地觀測ノ資料ヲ綜合シテ調査ヲ行ヒツ、アリ。

二、生物ノ調査

(イ) 浮游生物ハ引續キ連絡府縣ノ採集ニヨル資料ニ就キ調査ヲ行ヒツ、アリ。而シテ日本海ニ就キテハ一部ノ調査ヲ終リ其概況ヲ海洋調査彙報ニ發表セリ。

(ロ) 重要魚族ノ調査ハ引續キ「ぶり、さば、かつを、いわし、」其他ノ生態的調査ニ從事シ、石川、富山、新潟、高知、徳島縣等ニ調査員ヲ派シテ調査セシメタリ。

魚卵及稚魚ノ研究ニ關シテハ館山灣ニ於ケルモノ(第三報)及北陸沿海ニ於ケルモノニ就キ研究ノ結果ヲ水産講習所試驗報告ニ發表セリ。

三、協議會及報告

(イ) 協議會。大正十四年度ハ大正十五年一月十八日

ヨリ同二十二日迄五日間第七回海洋調査主任官事務打合せヲ本所ニ開催シ、其海況ト漁況トノ關係ニ關スル議題ニ就キテハ引續キ其結果ヲ持寄り考究スルコト、ナリタリ。

(ロ) 報告。本所及連絡地方官衙ノ施行セル調査材料ハ之ヲ集録シテ毎月海洋圖ヲ印刷シ大正十五年七月ヲ以テ第八十三號ニ達シ、大正十四年六月以降ノモノニアリテハ從來ノ表面ノミナルニ加ヘテ百米突層ノ變化ヲモ圖録スルコト、ナシタリ。

又三ヶ月毎ニ海洋調査要報ヲ編纂シ大正十五年六月迄ノ分ニテ其第三十三報ニ達セリ。

以上ノ二刊行物ノ外綜合的記錄又ハ特殊ノ研究調査ノ成績ヲ發表スル機關トシテ、海洋調査彙報ヲ創刊シ大正十五年三月其第一卷第一冊トシテ「日本海々洋ノ性狀」ヲ發行セリ。而シテ其英文報ヲ別冊トシテ大正十五年八月印刷シタリ。

前記魚卵及稚魚ノ研究報告ハ水産講習所試驗報告

第二一 試驗部

一 漁撈試驗

一 漁法試驗

(イ)發動機船一隻旋巾着網漁法試驗ハ大正五年度以降ノ繼續事業ニシテ大正十四年度ニ於テハ夏季館山灣ニ於テ本所所屬發動機船ヲ用ヒ「ターンテール」及ヒ後部横轉子ノ機動方法ヲ試驗シ本年度ニ於テハ鰯漁業ニ適當セシムハク「ターンテール」ヲ除去シ新漁法ヲ試驗シタルニ却テ好成績ヲ認メタルヲ以テ引續キ來年度ニ於テモ同試驗ヲ續行セントス

(ロ)北太平洋及オコソク海ニ於テハ大正十四年度大延繩漁業試驗ヲ勘察加西海岸沖合ニ於テ行ヒ本年度ニ於テハ同東海岸沖合ニ鰯漁業試験ト同漁場

シク大正十二年度ヨリ繼續實際潜水ノ上之ヲ行ヒ本年度ニ於テハ漏斗網ノ能率ニ付キ試験シ猶ホ引續キ試験セントス。

(二)定置漁具浮揚試驗ハ當業者ノ依頼ニ依リ神奈川縣水産試驗場ト聯絡試験中ナリ。

二 養殖試驗

一 生物調査

(イ)蝦蟹類調査。蝦蟹類一般ニツキ其種類分布並ニ蕃殖状態ノ研究中ナリ。

(ロ)腦下垂體ノ魚體ニ及ホス影響ノ研究 金魚ニツキ此問題ニツキ研究中ナリ。

(ハ)介類發生並ニ習性研究。板市牡蠣發生並ニ習性ニツキ研究中ナリ。

二 淡水養殖

(イ)溫水性魚類養殖試驗。本試験ハ大正十年度ヨリ愛知縣渥美郡牟呂吉田村(豊橋市外)ニ試験池ヲ設ケ専ラ種苗ノ改良、餌料、水質等ニ關シ試験セ

探見ヲ行ヒ同方面ニ於ケル鰯ノ一般分布ヲ調査スルヲ得タリ。

(ハ)南洋方面ニ於ケル鰯及鰹漁業試験ニ關シテハ大正十四年度ニ於テ西「カロリン」群島及蘭領印度沖合ニ之ヲ行ヒ成績ノ見ルヘキモノアリ本年度ニ於テハ「マーシャル」群島方面ニ於テ行ハントス。

二 漁撈基本試験

(イ)巾着網構造改良試験ハ大正十二年度以來潜水ノ上網形實驗ノ結果ニ鑑ミ十三年度及十四年度ニ於テ改造ヲ施シタルニ成績良好ナリシヲ以テ本年度ニ於テモ之ヲ續行シ更ニ十六年度ニ於テハ漁法試験ト相俟ツテ引續キ試験ヲ繼續セントス。

(ロ)網糸ノ腐敗試験ハ數年ニ亘リ水温、水質ト防腐染料トノ關係ヲ繼續試験シ來タリ尙ホ新案染料ニ對シテモ其ノ効力如何ヲ試験シ更ニ本年ヨリ網糸ノ腐敗ト細菌トノ關係ヲ試験中ナリ。

(ハ)手操網構造改良試験ハ巾着網構造改良試験ト等

シカ昨年度ハ經費ノ都合上、種鰻ノ養成並ニ養魚池水質ノ調査、鰻ニ寄生スル撓脚類ノ習性、驅除法及ヒ鯉種苗ノ改良、鯉、鮒ノ交配種等ニ就キ試験ヲ行ヘリ。

(ロ)冷水性魚類養殖試験。本試験ハ大正十年度ヨリ長野縣北安曇郡平村海口(木崎湖畔)ニ池ヲ新設シ、鱒族ノ人工孵化、池中飼育ノ試験ヲ行ヘルカ、昨年度ニハ木崎マス、虹鱒ノ飼育並ニマス及ビウグヒノ孵化溫度並ニ光線ニ關スル試験及ヒ餌料トシテ「ビタミン」ノ關係ニ付キ試験セリ。

三 鹹水養殖

(イ)まがき養殖改良試験。本邦在來ノ養蠣方法ヲ改良シ、歐米産ノ如ク其形狀大サ並ニ肉身ノ充實ヲ均一ニシ個數ヲ單位トシテ販賣シ得ル優良牡蠣ヲ作り一ハ内國ニ於ケル養殖業發展ノ指導タラントシ一ハ生貝ノ儘、米國西部沿岸ニ輸出シテ同國養殖家ノ需要ニ應セントシ大正七年初メテ豫算ヲ得

ヲ試験ニ着手シタリ。

前者ノ目的ニ對シテハ現今新規ナル方法即チ垂下式養蠶法ヲ考案シ、立體的ニ海中ノ水層ヲ利用シ探苗、肥肉ノ方法ヲ實施シ頗ル良好ナル成績ヲ擧ケ既ニ宮城、廣島等ノ養蠶地ニ於テ此方法ヲ試験スルモノ續出スルニ至レリ、是レ全ク本邦在來ノ地床ニ貝殻ヲ撒キテ養殖セルモノニ比シテ、成長、肥肉ノ優良ナルト亦作業上極メテ容易ナルヲ以テナリ。尙引續キ此方法ニ改良ヲ加ヘ研究中ニ屬ス後者ノ目的ニ對シテハ既ニ屢々米國「シヤトル」桑港、布哇ヘ試賣シタルニ僅ニ一割ノ斃死率ヲ以テ到達スルコトヲ確メ、從來至難トセル事業ニ一光明ヲ開キタルモノニシテ爾來米國養蠶家ノ注意ヲ喚起シ邦產牡蠣ノ輸入ヲ希望スルモノ増加シ既ニ十四年度ハ宮城縣產種貝壹千四百函（ビール四打入大函）ヲ輸出スルノ趨勢ニ至レリ。

(ロ)牡蠣卵ノ孵化發生ト水温ニ關スル研究、種々異

リタル水温中ニまがき卵ヲ人工ニテ受精セシメ、孵化發生ニ如何ナル溫度カ最も好適ナリヤ又孵化發生ニ適セサル最低最高ノ水温ノ範圍ヲ確知スルハ牡蠣ノ養殖並ニ移植等ニ際シ最も必要ナルヲ以テ新タニ恒温裝置ヲ考案シ其成績ハ本所試験報告第二十三卷ニテ發表セリ。

(ハ)まがき肉身充實ニ關スル試験。養殖試験中牡蠣ノ肉身均一ニ肥滿セシムルハ最も重要事項ニ屬ス、肉身肥滿ノ素因ヲ爲ス最重要ナル餌料ノ種類ヲ査定シ尙其數量的測定ヲナシ、更ニ人工培養法ニテ餌料ヲ増殖セシムルタメ目下試験繼續中ナリ。

(ニ)牡蠣仔蟲ノ研究。天然ニ於ケル牡蠣仔蟲ヲ研究シ、其附着ノ時期、附着後ノ成長等生態ニ關スル事項ノ一部分明セルヲ以テ既ニ試験報告ニテ發表セリ尙人工受精ニヨリ得タル牡蠣仔蟲ニ天然餌料ヲ與ヘテ養成スルノ試験續行中ナリ。

(ホ)養蠶場ノ底質竝ニ水質ニ關スル試験。養蠶場ノ底質、水温、比重並ニ潮水ノ疎通等何レモ牡蠣ノ附著、生長ニツキ重要ナル關係ヲ有スルヲ以テ此等養殖上基礎的研究ノ繼續中ナリ。

(ヘ)蛤等二枚貝養殖試験。本年度ハ都合ニヨリ之ヲ中止セリ。

(ト)蕃殖保護試験。從來千葉縣下高島實驗場ニ於テ一定ノ區域ニテ磯礁ニ人力ヲ加ヘ魚介藻類ノ蕃殖ヲ計ルタメ主トシテ鮑稚貝ニ標識ヲ施シ放養試験中ニ屬ス、既知ノ成績ハ本所試験報告第一四卷第二冊及第一五卷第四冊ニ之ヲ公刊シタルモ尙不明ノ點アルヲ以テ引續キ試験ヲ行ヘリ。

(チ)板浦牡蠣ノ養殖試験。大正九年度ヨリ豫算ヲ得テ兵庫縣加古郡東二見村ニ試驗場ヲ開設シ十年度ヨリ愈探苗試験ヲ開始セシカ稚貝ノ附着成長佳良ニシテ目下飼育試験中ナリ。

(リ)海魚養殖試験。大正十年ヨリ廣島縣豊田郡大長

村ニ地ヲトシテ養魚池ヲ設置シ、目下海魚ノ蕃養及稚魚養成竝ニ鯛ノ人工孵化放流試験ヲ施行中ナリ。

四 魚病ノ研究

魚病ニ就テハ設備及ヒ經費ノ關係上充分ノ研究ヲ遂クルヲ得サルモ昨年度ニハ鯉ノ鰓ニ寄生スル胞子蟲、マスニ寄生スル「エキノリンカス」、鯉、ウナギニ寄生スル「イカリ蟲 (Lernaeus elegans)」ニ付豫備的ノ研究ヲ行ヘリ。

養殖土木試験
本試験ハ經費ノ都合上中止セリ。

五 藻類養殖試験

(イ)海苔胞子附着ニ關スル試験。
あかめノ胞子ニ關スル試験。青紫色ヲ呈スル普通ノあさくさのりニテハ之ヲ硝子鉢内ニ培養シ胞子ヲ落下セシメテ其胞子ノ發育状態ヲ調査試験セルコトハ既ニ數年前ヨリ繼續シ幾多ノ實驗ヲ重ネタ

ルモ普通海苔類ニ附着シテ發芽成長シ居ル状態ノモノヲ見出スコトハ極メテ僅ニシテ失敗ニ終ルコトノミ多カリシカ東京附近ニノミ産スル、當業者カあかめト稱スルあさくさのりニ就テ試験セルニ此のりノ孢子ハ容易ニ硝子鉢内ニテ萌發成育シ、海苔類ニ附着發育スルモノト異ナラサル状態ニ成長スルコトヲ實驗スルコトヲ得タリ、且此あかめハ普通ノあさくさのりト發育ノ状態異ナリ外海ニ産スルまるばあまのりノ如ク幼時ノモノハ團扇狀ヲ呈スルモノナルコトヲ知レリ。

(ロ)かはのり孢子附着ニ關スル試験
かはのり孢子ノ附着ニ就キ之ヲ物理的並ニ化學的ノ方面ヨリ調査スルコトヲ企圖シ之ニ着手セリ。

三 製造試験

(イ)焙燒器試験。電氣熱ヲ利用シ魚類ノ多量ヲ簡易ニ焙燒スヘキ装置ヲ考案シ之カ實地試験ヲ施行中

- ヲ以テ調味セル「ソース」及ヒ「ウニ」鹽辛ハ晚春ヨリ夏季ニ亘リ醱酵スル事多キニヨリ之カ原因及防止ニ就キ研究中ニアリ。
- (ト)脱脂試験。魚類脱脂ノ目的ヲ二トシ一ハ冷凍法ニヨリ魚體ヨリ脂肪ヲ除去シ以テ油煙等ノ利用方法ヲ講シ、一ハ化學的方法ニヨリ脂肪ヲ除去シタル後調味シ以テ貯藏中ニ於ケル變化ヲ防止セントシテ本試験ヲ開始シタルモ右ニ關スル理論的方面ノ研究未タ完カラサルカ故ニ主トシテ理論的方面ノ試験ヲナシツ、アリ。
- (チ)海產動物油ノ檢定。前年度來海產動物油ニ就キ其性状ノ檢定ヲ行ヒツ、アリ。
- (リ)海產動物油ノ低溫硬化試験。前年度ニ引續キ豫備的試験施行中ニアリ。

四 化學試験

(イ)「プロタミン」ノ研究。本年度ニ於テ研究第四報

ニアリ。

- (ロ)「アンカーキャップ」燻詰機。米國ニ於テ現時廣ク採用セラル、「アンカーキャップ」燻詰機ヲ以テ肉詰ヲ行ヒタルモノ、殺菌方法ニ關シ研究中ナリ。
- (ハ)淺酬水蒸罐詰黑變豫防試験。前年度ニ引續キ淺酬罐詰肉ヲ黑變セシムヘキ細菌ノ種類及ヒ性質並ニ酸注加ニヨリ生スル食味ノ惡變化少ナカラシムル方法ニ就キ試験中ニアリ。
- (ニ)冷蔵試験。魚類冷蔵ノ適温ノ標準ヲ定メンカタメニ鱒ニ就キ各種溫度ニ於ケル化學的及ヒ細菌學的變化ヲ檢シ尙合セテ所謂耐寒細菌ニ就キ研究中ニアリ。
- (ホ)市販罐詰内細菌ニ關スル研究。罐詰製造ノ加熱殺菌ノ改良上ニ資センタメニ市販罐詰内ニ含有セラル、細菌ノ割合及ヒ其性質ニ就キ研究中ナリ。
- (ヘ)「ソース」及「ウニ」鹽辛ノ醱酵防止試験。水產物

- 及第五報ヲ出シ更ニ他ノ表題ノ下ニ同ク新シキ「プロタミン」ヲ本邦產魚類ヨリ分離シ其ノ組成ヲ定メ新種ト斷定シテ夫々名稱ヲ附シ些カ其性質ヲ研究セルト同時ニ一方ニハ歐洲產ト本邦產トノ比較ヲ試ミタリ。
- (ロ)「ニユークレイック」酸ノ研究。他ノ表題ノ下ニ鯉精子及ヒ鯨脾臟ノ「ニユークレイック」酸ノ組成ニ關シ發表セリ、更ニ研究續行中ナリ。
- (ハ)水產食料品ノ化學的研究。乾魚、鹽藏魚等ヲ以テ飼養セル犬ノ石灰苦土ノ新陳代謝並ニ海產動物ノ食料品トシテノ分析ヲ行ヒ之ヲ報告セルモ目下第三報ハ執筆中ナリ。
- (ニ)水產哺乳動物ノ化學的研究。水產哺乳動物ノ肉ト家禽肉トノ比較研究ノ中第一報トシテ長須鯨肉ニ就テ報告シ續テ長須脊美鯨等ヲ研究中ナリ又内臟ニ就テハ鯨ノ副腎、脾臟等ニ於ケル内分泌ニ就テ其ノ各第一報ヲ出シ脾臟ノ組成成分ノ研究モ既

ニ報告セリ。

(ホ)水産動物ノ精子ノ化學的研究。既ニ第一第二第三第四報ヲ出シ一般精子ニ關シ、又鰹、大羽鰯、「バチ」ニ就テ報告セルモ目下鰹ノ精子ニ關シ執筆中ニシテ尙其他研究繼續中ナリ。

(ヘ)水産動物ノ雌雄肉蛋白質組成ノ比較。前年度ニ繼續ス、本年中肉蛋白質第三報トシテ其一部ヲ公表セリ。

(ト)肉蛋白質ノ榮養價ニ關スル試驗。ますとあさり、ますとはまぐりニツキ比較試驗ヲ行ヒ成績ハ肉蛋白質第四、第五報トシテ公表セリ。

右ノ試驗ハ肉蛋白質ノ榮養價ハ該蛋白質中ニ含マル、「リジン」ノ量ト親密ナル關係アルコトヲ證セルモノナリ、從テ「リジン」ニ富メル魚肉ハ之レニ劣レル貝肉ニ比シ優レルノ結果ニ達セリ。

(チ)魚肉ノ「ビタミン」ニ關スル試驗。紅鱒油ニツキテハ震災當時資料全部ヲ失ヒ試驗ヲ中止セシカ、

本年度ニ於テハ肝油ノ製法ト榮養價ニツキ化學的竝ニ動物試驗ノ施行中ナリ。

(リ)「ビタミン」Aノ比色試驗法ニツキ研究中ナリ。

(ヌ)蛤、蛸罐詰黒變原因調査。製造試験部ト共同ニ開始ス。

(ル)脱皮たらばガにノ成分及ヒ煮熟用水ニツキテノ調査ノ結果ヲ報告セリ。

(ヲ)魚肉ノ自家消化ニ關スル研究。本年度ニ於テ第二報及第三報ヲ出シ更ニ尙ホ深ク研究中。

(ワ)魚類内臓ノ消化酵素ニ關スル研究。本年度ニ於テ鰹ノ消化酵素ニ關スル研究ノ一部ヲ發表シ更ニ他ノ水産動物ニ就キ研究中。

(カ)水産動物ノ筋肉ノ研究。本年度ヨリ魚類以外ノ水産動物ノ筋肉ノ自家消化ニ關スル研究ニ着手セリ。

(ヨ)魚肉ノ成分ト肉質トノ研究中生肉内ノ液汁ハ最も優秀ナル調味性ヲ有スルコトヲ知リタルヲ以テ

此ノ液汁ト鰹節類トノ關係竝ニ之ヲ實用品トナスノ方法トニツキテ試驗シ、略ホ其目的ヲ達スルコトヲ得タリ、然レトモ尙試驗ヲ要スル點アルヲ以テ目下其ノ續行中ナリ。

五 漁船機械試驗

(イ)漁船船型試驗。漁船ノ各種船型ニ對スル抵抗ヲ比較試驗シ其ノ船體ト之ニ据付クヘキ原動機ノ馬力トノ關係ヲ研究スルモノニシテ目下鰹釣漁船ノ船型ニツキ試驗中ナリ。

(ロ)防水劑ヲ配合セル「モルタル」ノ吸水試驗。主トシテ冷蔵庫ノ床及ヒ壁ニ使用スル各種防水劑ヲ配合セル「モルタル」ノ吸水ヲ測定シ以テ防水劑ノ効果ヲ闡明ナラシムル爲メ防火石其ノ他六種ノ防水劑ニツキ吸水試驗ヲ行ヒタリ、其ノ成績ハ本所試驗報告第二十一卷第一冊ヲ以テ發表シタリ。

(ハ)發動機整滑廢油利用試驗。發動機ノ整滑發油ノ

性質ヲ研究シ其レニ適當ナル處理法ヲ施シテ再ヒ使用シ得ルモノトナシ以テ漁業經濟ノ増進ヲ計ラントスルモノニシテ目下試驗中ナリ。

(ニ)船底塗料試驗。現今漁船ニ使用セラル、各種船底塗料ノ効力ヲ比較試驗シ進ンテハ優良ナル塗料ヲモ案出セントスルモノニシテ目下試驗中ナリ。

(ホ)漁船動搖記錄器試驗。大正十二年度ニ於テ簡易ナル漁船動搖自記裝置ヲ考案シ其ノ實地試驗ヲ行ヒタル結果良好ナリシヲ以テ其ノ後「スベリー」式動搖記錄器ト比較スル試驗及ヒ新規ノ考案ニ依ル活動寫眞應用動搖記錄ノ結果ト比較スル試驗ヲ試ミ兩試驗ノ結果良好ナリシヲ以テ本試驗ノ徹底ヲ期シ目下繼續試驗中ナリ。

(ヘ)「ネットホーラー」試驗。各種漁網ノ捲揚機ヲ考案試驗シ漁業ノ能率ヲ増進セントスルモノニシテ曩ニ考案シタル鮪流網捲揚機ニツキ目下試驗中ナリ。

附

一 編纂部

大正十四年度ニ於テ編纂出版シタル試験報告ハ第二十一卷第一、二、三、四、五、六冊及第二十二卷第一冊ニシテ其細目ハ卷末ニ記載セリ又海洋調査要報第二十八報乃至第三十二報、海洋調査彙報第一卷第一冊(和英兩文)及英文水産講習所一覽ヲ發刊セリ。

二 試験鑑定及設計等ノ依頼

本所試験規則ニ依リ大正十四年七月以來取扱ヒタル件數左ノ如シ

種 類	自大正十四年七月 至十五年九月	件數
電氣捕魚器試験		—
罐詰腐敗原因試験		—
樟鞘試験		—
殿蒲燒低熱罐詰製造試験		—
蝸蝸切斷器ノ効果試験		—

船用發動機試験	—
罐詰内容検査法試験	—
網糸耐久力試験	—
救難操舵警報機ノ効果試験	—
相模地方ニ於ケル鰯大謀網ノ構造並敷設方法適否試験	—
漁網染料試験	五
鮮魚貯藏液試験	—
牡蠣罐詰品分析	—
ラツカー成績試験	—
コルク板傳熱試験	—
蟹罐詰用硫酸紙試験	—
琵琶湖水質ノ化學的試験	—
計	二

シ教室(物理教室、同實驗室、準基室、製圖室) 化學試驗部、海洋調査部、冷藏庫、機械實驗室、等ノ諸棟五百五十餘坪ヲ殘セリ之レカ應急トシテ大正十三年三月殘存建物ノ内改築等ヲ要スルモノヲ除キ二百五十餘坪ヲ修葺シ教室及實驗實習室、事務室並ニ寄宿舍等一千八百餘坪ヲ新築セリ、本復舊ニ就テハ目下調査設計中。尙十四年度ヨリ敷地ノ埋立ヲ施行シ本年度以降ニ於テ建物復舊ノ豫定ニテ目下設計中。

第二節 諸設備

第一 船 艇

一 雲 鷹 丸

本船ハ鋼製二層重甲板三橋「パーク」型帆船ニシテ總噸數四百四十四噸ニ二アリ船尾樓及船首樓ヲ有シ三聯成表面冷汽機ノ補助機關ヲ備ヘ汽力平均速力九哩ナリ
本船ハ明治四十一年五月大阪鐵工所ニ於テ建造ニ著手シ同四十二年二月進水シ三月試運轉ヲナシ五月東京ニ廻航シ同月三十日ヨリ生徒ノ實習ニ供セリ其構造大要ハ本船ノ船尾樓ハ士官室、應接室、士官會食堂及無線電信室ヨリ成リ學生室ハ四室ニシテ共ニ第二甲板上汽罐室圍壁ノ兩側ニ在リ各室ヲ通シテ四十人ヲ容レヘク其前部ニ學生會食堂兼讀書室アリ其隣室ニ點燈、無線電信並ニ冷藏機原動用トシ

第四章 本所敷地建物及諸設備

第一節 本所敷地建物

前設以來新築増築ハ改築等幾多ノ變遷ヲ經テ大正十二年度ニハ敷地一萬七千八百六坪建坪五千六十餘坪ナリシカ同年九月一日ノ大震大火ノ災害ニ罹リ完備セル諸建物ノ内四千六百十餘坪ハ烏有二歸

十四年十二月竣工セリ

四 木崎養魚試驗場

長野縣北安曇郡平村木崎湖畔ニ冷水性魚類養殖試驗ノ爲メ實驗室、孵化室、宿舍及養魚池等ヲ大正十一年度ニ於テ設置セリ

五 豊橋養魚試驗場

愛知縣瀨美郡東豊田及神野新田ニ淡水魚養殖試驗並ニ生徒實習ノ爲メ大正十一年度ニ於テ設置セリ

六 大長養魚試驗場

廣島縣豊田郡大長村ニ海魚養殖試驗ノ爲メ大正十一年度ニ於テ設置セリ

七 二見養魚試驗場

兵庫縣加古郡二見村東二見ニ主トシテ板浦牡蠣養殖試驗ノ爲メ大正十一年度ニ於テ設置セリ

八 五井海苔牡蠣養殖試驗地

明治四十年以來千葉縣市原郡五井町地先海面十町歩ヲ區劃シあさくさのり養殖ノ試驗地トセリ又大正七年ニ於テ同地々先海面ニ牡蠣養殖試驗地ヲ設ケタリ

九 金澤養魚試驗場

明治四十二年以來神奈川縣久良岐郡金澤灣内ニ牡蠣補付場ヲ設ケ牡蠣改良養殖試驗ヲ爲シ大正二年及三年ニ於テ更ニ夏島及金澤灣内ニ養殖場、實入場ヲ増設シテ輸出向牡蠣養殖ノ目的ニ供セリ

水産講習所敷地及建物坪數比較表

場所	敷地		建物
	所有地	借入地	
本所	三、三九〇坪	九、四七〇坪	三、七二〇坪
館山實習場	一、六七三坪	—	二、四〇〇坪
小田原實習場	二、六〇〇坪	—	二、八〇〇坪
木崎養魚試驗場	一、九〇〇坪	—	三、一〇〇坪
豊橋養魚試驗場	七、三〇〇坪	—	一、八七〇坪
二見養魚試驗場	—	一、〇〇〇坪	六、四七〇坪
高島實驗場	—	二、六二〇坪	二、〇九〇坪
五井養殖試驗場	—	三、五〇〇坪	一、八〇〇坪
金澤養殖試驗場	—	二、九〇〇坪	三、〇〇〇坪
大長養魚試驗場	一、六六〇坪	四、六五〇坪	三、九七〇坪

第五章 圖書及標本

第一節 圖書及標本ニ關スル規程

第一 圖書標本委員會規程

明治四十五年四月二十三日

- 第一條 圖書標本委員會ハ左ノ事項ヲ審議ス
 - 一 圖書標本ニ關スル規則ノ制定及改廢ニ關スル件
 - 二 圖書標本ニ關シ所長ヨリ諮問ノ件
- 第二條 委員會ハ圖書標本委員ヲ以テ組織ス
- 第三條 委員ハ各科、課及教務掛職員ノ内各一名ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ所長之ヲ命シ委員長ハ委員中ノ首席者ヨリ所長之ヲ命ス
- 第四條 委員長ハ圖書標本委員會ノ議長トナリ其事務ヲ處理ス
- 第五條 圖書及標本主任ハ委員會ニ列席ス委員長ハ必要アリト認ムルトキハ其ノ他ノ本所職員ヲ列席セシムルコトヲ得
- 第六條 委員會ノ決議ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス
- 第七條 列席職員ハ決議ノ數ニ加ハラズ

第二 圖書保管規程

明治三十年六月

- 第一條 (沿革) 明治三二年三月、同三八年八月改正
- 第二條 本所ノ圖書ハ圖書掛圖書取扱主任ニ於テ之ヲ保管ス
- 第三條 圖書ハ各部門ヲ別チ番號ヲ附シ點檢ノ便ニ供スヘシ
- 第四條 圖書原簿ヲ製シ之ニ書名編著者名部門番號冊數ヲ記載スヘシ
- 第五條 圖書出納簿ヲ製シ出入ヲ記載スヘシ
- 第六條 圖書ハ毎年一回若ハ二回原簿ト對照シ之カ點檢ヲ爲スヘシ
- 第七條 點檢ノ際ハ圖書ノ補綴又ハ曝涼ヲ爲スヘシ
- 第八條 寄贈ニ係ル圖書ハ目錄ヲ製シ所長ニ供覽シ保存スヘキモノト否ラサルモノトヲ定メ且謝狀ヲ送ルヘキモノハ其手續ヲ爲スヘシ
- 第九條 雜誌及報告書類ニシテ保存ヲ要スルモノハ圖書同一ニ保管スヘシ
- 第十條 各部科掛ニ平常備ヘ置クヘキ圖書ノ部長又ハ主任ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ
- 第十一條 但シ圖書掛ニ借用證書ヲ差出スヘシ
- 第十二條 前條備付ノ圖書ハ時々取扱主任ノ點檢ヲ受クヘシ
- 第十三條 圖書斷破シテ使用ニ堪ヘサルモノハ庶務掛ヘ引繼キ廢棄ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十四條 他官廳ヨリ借入タル圖書ハ圖書掛ニ保管シ職員ニ貸付ス

第三 圖書借覽規程

明治三十年六月
(沿革) 明治三十二年三月、同三十八年八月改正

- 第一條 圖書ハ本所職員及囑託員ニ限リ借覽ヲ許ス
但シ職員囑託員其資格ヲ失ヒタルトキハ五日以内ニ借用圖書ヲ返納セシム
- 第二條 圖書ヲ借覽セントスルモノハ書名、部門、番號、冊數ヲ記シ官職氏名ヲ署シ捺印ノ上各部長又ハ各科掛主任ノ檢印ヲ受ケタル規定ノ借用證ヲ圖書取扱主任ニ差出スヘシ
- 第三條 圖書借用期限ハ通常三十日トス尙ホ繼續セントスルトキハ各部長又ハ各科、掛主任ノ承認ヲ得タル上圖書掛ヘ借用延期ノ請求ヲ爲シ圖書取扱主任ノ承認及檢閱ヲ受ケヘシ
- 第四條 平常各部又ハ各科掛ニ備置ケヘキ圖書ハ各部長又ハ主任ヨリ證書ヲ差出シ六箇月ヲ一期トシ借用スルコトヲ得
- 第五條 前條圖書ハ所外ニ携出スルコトヲ許サズ
但シ所長ノ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス
- 第六條 補綴又ハ曝涼其他圖書整理ノ爲メ一時各部、科、掛備付ケノ圖書ヲ返納セシムルコトアルヘシ
- 第七條 貴重ノ圖書辭書類ハ閱覽室外ニ携出ヲ許サズ
但シ閱覽ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第八條 他廳ヨリ圖書借用ノ申込アルトキハ圖書取扱主任ハ所長ヘ

- 裏議ノ上許可ヲ定ムヘシ
- 第九條 他廳ヨリ圖書借用ノ必要アルトキハ圖書取扱主任ニ於テ所長ヘ裏議ノ上借入及返還ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十條 借用者圖書ヲ返納スルトキハ同時ニ本人ニ證書ヲ返戻スヘシ
- 第十一條 借用ノ圖書汚損又ハ紛失シタルトキハ修繕ヲ加ヘ又ハ同一ノ圖書ヲ以テ償ハシメ若クハ相當代價ヲ辨償セシムルコトアルヘシ
- 第十二條 借用者ニシテ前條ノ義務ヲ果ササル間ハ圖書ノ借覽ヲ許サズ

第二節 圖書及標本ノ現況

- 本所々藏ノ圖書ハ大正十二年九月一日ノ震災ノ爲メ大部分ヲ燒失セリ然レトモ 海洋調查部、水産化學試驗部及本所々屬ノ各試驗場、農園丸、天陽丸ニ存在セシモノ並ニ大正十二年九月以降購求セシモノ及寄贈ヲ受ケシモノヲ合スレハ其現在數左ノ如シ
- | | | |
|-----|--------|--------|
| 外國書 | 二、二四三部 | 三、五一二冊 |
| 內國書 | 八五九部 | 一、二八〇冊 |
| 內燒殘 | 一、三九一部 | 二、六〇八冊 |
| 內燒殘 | 四二五部 | 五七二冊 |
- (大正十五年八月末現在)

歐文雜誌

和文新聞及雜誌

掛圖

寫真

八二種

一八種

二二一枚

三五枚

本所職員ノ研究調查ニ係ル論文報告ハ隨時刊行シテ之水産講習所試驗報告ト題シ大正十四年度ニ於テ第二十一卷及第二十二卷第一冊ヲ刊行シ(卷末刊行圖書目錄參照)尙海洋調查要報第二十九乃至第三十二報及海洋調查彙報第一卷第一冊(和英兩文各冊)ヲ刊行セリ標本ハ大正十二年九月一日震災ノ爲メ全部ヲ燒失シ未タ復舊ノ域ニ達セズ

第六章 在外研究員

第一節 在外研究員規程

大正十一年一月二十一日
勅令 第六號

- 第一條 主管大臣ハ其ノ主管事項ニ關シ必要ノ學術技藝ヲ研究セシムル爲メ在外研究員ヲ外國ニ派遣スルコトヲ得
- 第二條 在外研究員ハ選拔ニ依リ主管大臣之ヲ命ス
- 第三條 在外研究員ノ研究事項、在留期間、在留期間、其他必要ナル事項ハ主管大臣之ヲ指定ス
- 第四條 在外研究員ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ學資金巡歷手當及旅

- 費ヲ支給ス
- 特別ノ事由アルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ前項ニ定ムルモノノ外特別手當ヲ支給スルコトヲ得
- 第五條 學資金及巡歷手當ハ別表ニ依リ但シ官吏ニ非サル者ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別表ニ準シテ之ヲ定ム
- 第六條 學資金ハ最初ノ在留地到着ノ翌日ヨリ歸朝ノ途ニ就ク前日迄月割及日割ヲ以テ之ヲ支給ス
- 在留期間移轉ノ場合ニ於テハ前在留地ヲ出發シタル日ノ翌日ヨリ後在留地ニ付定メタル學資金ヲ支給ス
- 第七條 各地ヲ巡歷研究スル場合ニ於テハ旅費ヲ支給セズ巡歷手當ヲ支給ス
- 第八條 旅費ハ本邦在留國同往返ノ場合又ハ在留期間移轉ノ場合ニ於テ外國旅費規則ノ定ムル所ニ依リ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料及支度料ヲ支給ス
- 第九條 外國在留中特別ノ任務ニ從事スル場合ニ於テハ外國旅費規則ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ支給スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ旅費ヲ支給スル場合ニ於テハ學資金及巡歷手當ハ之ヲ支給セズ
- 第十條 外國旅費規則中死亡手當ニ關スル規定ハ在外研究員ニ付之ヲ準用ス
- 第十一條 學資金及巡歷手當ハ前金拂チ爲スコトヲ得但シ學資金ニ付テハ六月分ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十二條 在外研究員ヲ命セラレタル官吏ハ本邦出發ノ日ヨリ歸朝

ノ日迄之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ定員外トナリタル者ニハ停給ヲ支給セス但シ時

宜ニ依リ其ノ俸給ノ三分ノ二以内ヲ支給スルコトヲ得

第十三條 特別ノ事情アルトキハ官吏ニ非スシテ在外研究員ヲ命セ

ラレタル者ニ年額二千五百圓以内ノ家族手當ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リ定員外トナリタル在外研究

員ニ之ヲ準用ス但シ同條第二項ノ規定ニ依リ受クル金額ト家族手

當ノ額ト合シテ俸給ノ三分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 在外研究員ハ歸朝ノ日ヨリ外國在留期間ノ二倍ニ相當ス

ル期間ト主管大臣ノ指定シタル職務ニ從事スル義務ヲ負フモノトス

但シ歸朝ヲナサシメスシテ直ニ外國ニ在勤ヲ命シタル場合ニ於テ

ハ其ノ期間ハ在勤ヲ命シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第十五條 在外研究員主管大臣ノ命ニ違背シタルトキ又ハ成業ノ日

途ナキニ至リタルトキハ之ヲ免スルコトヲ得

第十六條 第十四條ノ義務ヲ履行セス又ハ前條ノ規定ニ依リ研究員

ヲ免セラレタル者ノ受ケタル學資金巡歷手當特別手當及旅費ハ之

ヲ償還セシム但シ特別ノ事情アルトキハ其全部又ハ一部ヲ免除ス

ルコトヲ得

第十七條 特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ難キ場合ニ於テハ所管大臣

大藏大臣ト協議シテ學資金及巡歷手當ニ關シ別段ノ定ヲ爲スコト

ヲ得

第十八條 本令中主管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣

ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテ

ハ樺太廳長官之ヲ行フ
附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(以下略)

第二節

戰時事變ノ際ニ於ケル
文部省海外留學生等定
員ニ關スル勅令

大正三年十月七日
勅令第二百三十號

在官者ニシテ文部省外國留學生又ハ水産講習所在外
研究生ヲ命セラレタルモノ戰時事變ノ爲留學國ニ在
留スルコト能ハスシテ歸朝シタルトキ又ハ本邦ヲ出
發スルコト能ハサル場合ニ於テ定員ヲ超過スルトキ
ハ其ノ留學殘期間又ハ留學期間ニ相當スル期間之ヲ
定員外ニ置クコトヲ得

第三節 在外研究員

在外研究生規程及在外研究員規程ニ依リ海外ニ派遣
シタル者左ノ如シ

セシメ學術技藝ヲ研究セシムルコトヲ得
第一項ノ場合ニハ豫算ノ範圍内ニ於テ俸給ノ全部ヲ
支給ス

研究事項	派遣期間	官名	氏名
獨逸國ニ於ケル水産養殖法ノ研究	自明治四〇、一一、二二 至同治四二、一一、二七	技手	日 暮 忠
英國及諸威國ニ於テ漁撈法ノ研究	自明治四二、一一、三〇 至同治四四、一一、三〇	技手	小 瀬 次 郎
英國ニ於テ水産食用品製造法研究	自明治四二、八、三一 至同治四四、八、三一	技手	小 野 辰 次 郎
獨逸國及諸威國ニ於テ水理生物學研究	自明治四三、七、八 至同治四五、七、八	技手	丸 川 久 俊
采英佛國ニ於テ貝類其他鹹水魚養殖研究	自大正三、元、一 至同大正三、元、一	技師	妹 尾 秀 實
獨逸國ニ於ケル諸詰其他食品及油蠟	自大正九、五、七 至同大正九、五、七	技師	山 川 洵
等ニ關スル事項並生理化學ノ研究	自大正九、五、七 至同大正九、五、七	技師	山 川 洵
追加 北米合衆國ニ於テ前記研究事項ノ外國	自大正一〇、八、一一 至同大正一〇、八、一一	技手	關 根 磯 吉
食物條例實施方法ノ研究	自大正一〇、八、一一 至同大正一〇、八、一一	技手	關 根 磯 吉
英國諸威國及北米合衆國ニ於ケル旋	自大正一〇、八、一一 至同大正一〇、八、一一	技手	關 根 磯 吉
網汽船流網及各種近海漁業ノ研究	自大正一〇、八、一一 至同大正一〇、八、一一	技手	關 根 磯 吉

獨國及英國ニ關スル水産物製造法、貯藏法及魚病ニ關スル細菌學的研究
 米國、英國、佛國、獨國及伊國ニ於テ水産ニ關スル機械ノ研究
 米國ニ於テ水産ニ關スル發生學及生存統計學研究

自大正一三、五、二一七 教授 木村金太郎
 自大正一四、七、二一〇 技師 星野三郎
 自大正一五、一〇、一六 出發 教授 寺尾新

第七章 生徒 (大正十五年十月末調)

第一節 在學生徒 (三百六名)

第一 生徒氏名

一本科 (二百九十一名)
 漁撈科 (百二十名)
 第四學年 (二十九名)
 稻津 榮治 福岡 服部 元忠 東京
 小淵 元吉 群馬 尾崎 順三 山形
 及川 英雄 東京 和田 長三 岐阜
 荊 米 義千 川崎 洛三 廣島
 金井 元 栃木 吉川 長之進 大阪
 高橋 廣榮 愛媛 休學 多々良 孝一 靜岡
 武久 伊作 佐賀 永井 寛次 東京
 長東 三四士 和歌山 南部 辰真 東京
 上村 忠彦 鳥取 保田 義夫 宮城
 小林 宗一 山口 小林 繁 神奈川
 小屋 勝之 兵庫 寺井 正雄 奈良
 安部 丈夫 福岡 安藤 喜平 埼玉
 坂田 忠二 山口 北原 隆貫 福岡
 北岡 康雄 高知 三浦 永治 岩手
 島本 正美 高知

第三學年 (二十八名)

伊原 治 千葉 岩田 勳 愛知
 伊藤 順男 埼玉 池田 勝榮 鹿兒島
 池田 二郎 千葉 長谷川 勝藏 山口
 長谷川 喜一 京都 大塚 辰雄 東京
 川名 正藏 千葉 米澤 六藏 東京
 吉田 八郎 群馬 吉本 巳之助 鳥取
 竹中 善次 富山 竹内 進 福井
 津崎 勝巳 福岡 内村 忠夫 熊本
 草間 秀俊 東京 山口 三郎 靜岡
 保田 武夫 岡山 古川 三男 佐賀
 藤井 眞激 山口 藤枝 貞夫 愛媛
 駒井 青南 福岡 品田 藤次郎 新潟
 清水 信次 滋賀 廣崎 喬雄 東京
 日向 義次 山梨 平塚 均 宮城
 市村 要 山口 井上 彌太郎 兵庫

第一學年 (三十八名)

石北 幹男 東京 新原 宗路 鹿兒島
 尾花 義次 栃木 小川 義一 山梨
 神崎 隆 佐賀 谷島 吉三 茨城
 高桑 勝次 東京 成澤 不二 山形
 中島 瀧藏 佐賀 上野 卓三 廣島
 鶴澤 久則 靜岡 山崎 竹治 岡山
 山下 行雄 兵庫 八代 喜代 岐阜
 前田 悅郎 三重 松澤 幸長 野
 松本 住友 岡山 赤塚 紳 新潟
 澤田 都次 群馬 宮本 武德 愛知
 李 明哲 朝鮮 鄧 騰 裕 支那
 張 榮昌 支那
 伊藤 喜代 長崎 伊地 知勇 鹿兒島
 井山 靱雄 熊本 原田 勝美 靜岡
 時田 正作 埼玉 富岡 三郎 群馬
 富澤 武雄 福島 太田 勘治 滋賀

折原丈男 神奈川 川上三千雄 茨城 伊藤育三 靜岡 五十嵐源治 福島
 吉川淳長 野 高橋廣太 長崎 豐田忠雄 廣島 富永靜彦 長崎
 高山重嶺 東京 種市良正 青森 大塚徳太郎 佐賀 奥田直言 埼玉
 竹田繁夫 奈良 鶴田三郎 神奈川 渡邊正雄 熊本 田村辰馬 熊本
 堤源一 福岡 角南貞雄 岡山 龍野二郎 福井 根本五郎 千葉
 中村經一 愛媛 上田正喜 東京 根本哲夫 福島 永井政司 靜岡
 松尾博 埼玉 小出勳 男 東京 中村吉明 神奈川 村上龜次郎 富山
 小林格 新潟 小久保政雄 東京 梅澤正吾 愛知 上野武夫 群馬
 近藤仁三郎 新潟 江崎實 熊本 能條京司 神奈川 荒井虎之助 東京
 勅使河原實 群馬 栗野幸吉 山形 甘利久吉 德島 朝倉清見 長野
 在原千秋 千葉 安藤秀賢 香川 澤登謹次 東京 北川令三 福井
 三井所四郎 佐賀 本部真之 京都 三宅二一郎 北海道 篠崎仁包 東京
 森田未歲 東京 瀬戸武熊 本 下井誠 山口 東原正雄 香川
 黃文達 朝鮮 陳維風 支那 茂貫祥次 宮城 飯野増太郎 福岡
 巫忠遠 支那 黃文禮 支那 濱野寛 茨城 岩澤平治 新潟
 橋詰友太郎 埼玉

製造科(百一名)
第四學年(二十七名)

第三學年(二十四名)

大岩東助 愛知 大石義秋 香川 日下部誠一 埼玉 楠原廣吉 千葉
 大沼豐吉 宮城 大關昇 茨城 松根約郎 東京 松本勳 新潟
 葛西巖 香川 多賀宗將 東京 古賀新福 岡 峰尾隆明 神奈川
 高草木雅雄 群馬 田中房之助 京都 廣瀬郁郎 愛知 砂原春紀 廣島
 那須潔 滋賀 野崎伸太郎 埼玉 隅野勇 京都 池田幸作 東京 石井義臣 廣島
 松本良香 長崎 寺門彬 東京 池田助雄 石川 土信田章三郎 東京
 淺田象二郎 兵庫 佐藤七郎 福島 得田四郎 茨城 米田繁三 廣島
 佐野淨平 山梨 木村敬三郎 愛媛 大塚四郎 茨城 高木達雄 東京
 木下貞一 大阪 平置三郎 愛媛 山水平藏 東京 長田菅男 長野
 久松義男 兵庫 清野文二 宮城 田治米隆 兵庫 名嘉元岩太郎 沖繩 鶴澤利彦 神奈川
 伊古田憲三 東京 休學馬場良助 東京 名嘉元岩太郎 沖繩 山本三郎 兵庫
 大木壯山 口 和田英夫 岡山 黒田柁雄 兵庫 松本邦固 岐阜 舟木好右衛門 福島
 加藤廉治 新潟 加藤舜郎 廣島 今野信忠 福島 齋藤一雄 青森 齋藤米次郎 東京
 田島喜市 新潟 中村復福 井 齋藤治郎 左衛門 靜岡 齋藤兼一郎 島根
 中村勝 東京 宇賀明 香川 齋藤治郎 左衛門 靜岡 齋藤兼一郎 島根
 野口恭夫 岐阜 國枝滋 岐阜

第二學年(二十一名)

第一學年(二十九名)

佐々木 蔚廣島 木村千代男廣島
 木俣正夫長野 水谷邦夫岐阜
 三浦新東京 杉浦義雄東京
 安鎮朝鮮

養殖科(七十名)
 第四學年(十八名)

諫早隆夫東京 畑中主計福井
 新野弘北海道 小川千秋大分
 奧野忠雄大阪 川崎吾八佐賀
 高須賀賴夫愛媛 永川保雄福岡
 山本宜夫愛知 藤原與助岩手
 藤田正廣島 小林武千葉
 遠藤雄吉鳥取 相墨春夫新潟
 天野政之愛知 酒井銀次郎東京
 瀨田廣吉埼玉 鈴木清藏埼玉

第二學年(十六名)

伊藤秀男東京 稻並芳幸東京
 林茂樹廣島 多田稔京都
 竹之內彥四郎東京 村上二郎兵庫
 黑田克彥兵庫 久木田寬信鹿兒島
 矢野瀧雄福岡 山本孝治東京
 福岡美省東京 兒玉利一兵庫
 阪本喜代松兵庫 白石義晃愛知
 清水定雄兵庫 鈴木權次郎山形

第一學年(二十名)

井澤勝彌山形 第三學年
 東條鐵男德島 春木初夫三重
 若山貞三岩手 安原良男山形
 和田喜藏高知 真田健三山形
 和原正二静岡 園部久秋田
 竹原正二静岡 園部久秋田
 黑沼勝造東京 白鳥建壽宮城
 山崎繁東京 三研究科(二名)
 松本豐東京 休學久保要香川
 齋藤宗一長崎 四別科(淡水養魚專修六名)
 齋藤宗一長崎 石黒二郎愛知
 鹽谷政四郎新潟 關澤祐次茨城
 齋藤宗一長崎 關澤祐次茨城

第二 在學生徒府縣別

種別	本				科				總計
	漁撈科	製造科	養殖科	合計	遠洋漁業科	研究科	科別	合計	
和歌山	1	1	1	1	1	1	1	1	2
道廳府縣	1	1	1	1	1	1	1	1	2
區別	1	1	1	1	1	1	1	1	2

區	道北 區海	區海南西	區海
山奈枳群埼	北	德高宮沖鹿熊佐長福	大兵香岡廣愛
梨其木馬玉	海	兒	
	道	鳥知崎繩島本賀崎岡	阪庫川山島媛
- 二 二		- 三 - 二 - 一	- 一 - 一
- - -		- 二	二 二 - 一
- - -		- - - 二	- - 一
- - - -		二 - 三	- - - -
		-	三 四
-		-	- - 二
- - 二		- -	- 二 二 二
- -	-	- 二 - -	- -
二		- - - - -	-
		- -	五 -
-		- -	- -
二	-	- -	- - -
三二二〇〇	二	二三 一五六九五	三四五六一七
-			
			-
-		- -	
三三三〇〇	二	二四 一五六九五	三四六六一七

七五

內	區海北	區海東
山大	秋山新石宮福京島島	青岩宮福茨千東神靜愛三
口分	田形潟川山井都取根	森手城島城葉京川岡知重
	- 二 -	- - - - 五 二 -
-	- -	- 二 - - -
-	- - - - -	- 三 四 - -
二	- -	- - - 四 - -
	- -	- 二 - 八 - -
-	三 - -	- 四 - -
	- -	二 - 二 二 -
-	- 二	- 二 - 三 二 二 -
-	- -	- - - 五 -
	- -	五 -
-	- -	- - - 三
-	- - -	- - 二 二
九一	六〇 一二五五三二	二四 五七七九 ^四 七七八八一
	-	-
	二	二 -
九一	一八〇 一二五五三二	二四 六七 ^一 九 ^四 七七八九二

七四

合 計	外國	外				
	支 那	樺 太	臺 灣	朝 鮮	長 野	岐 賀
三八二	三					
二五二	二					
二八二						
二九二						
二九二						
二二二						
四二七						
二〇一						
一六一						
一六一						
一八						
二九一	五			三	五	七
三						
一						
五						
一						
六						
三〇六	五			三	五	七

七六

第二節 卒業業者

第一 卒業業者氏名 (○ハ優等卒業者×ハ死亡者)

一本 科

(一) 漁 撈 科

明治三十一年第一回卒業

四月(十三名)

家入 四直 福岡
橋本 猪太郎 熊本
加藤 勢三 三重

(舊名小市)

龜井 順一 山口
南摩 紀麿 東京
長友 茂三郎 宮崎
武藤 禮二 宮城

内田 治三郎 山口
村田 乙三郎 東京
×福田 久橋 長崎
木村 廣三郎 石川

庄司 與市郎 石川
菅 谷 毅 茨城

明治三十三年第二回卒業

四月(十五名)

石野 敬之 千葉
大庭 弘雅 福岡
大谷 正猛 高知

高橋 劉二 岡山
×山下 節治 長崎
矢野 新吉郎 熊本
松崎 彌一 鹿兒島

古田 正知 岐阜
小林 音八 新潟
○坂本 庄太郎 佐賀
(舊名一郎) 佐々木 孝太郎 廣島

×宮下 知一 東京
×下國 沖助 北海道
樋口 律太郎 長崎
(舊姓茂又) 森田 忠三 秋田

明治三十三年第三回卒業

四月(十二名)

×吉永 貴八郎 長崎

田中 仁吉 島根
田谷 英 石川

津田 美津彦 福岡
○中村 嘉壽 鹿兒島

久保澤 董 青森
×松田 林 宮崎

七七

小金丸増次郎 福岡
小島 才一 神奈川
×小木原 元吉 鹿兒島
森 藏助 鹿兒島

明治三十四年第四回卒業

×須田 正治 山形

七八

四月(八名)
石川 伸治 石川
○本間 平八 山形
長内 泰助 岩手
大川 辰藏 兵庫
松尾 秀夫 長崎

明治三十五年第五回卒業

前田 春水 宮城
荒 卯忠 福島
喜多山 昇來 愛媛

四月(五名)
額田 喜一 香川
小島 省吾 石川
佐藤 正孝 山形

明治三十六年第六回卒業

日高 靖 宮崎
元木 淑人 徳島

七月(七名)
稻見 彌二郎 北海道
×岩田 雄 京都
内田 四郎七 福井

明治三十七年第七回卒業

黒木 圓太 福岡
×山田 廣次 福岡

宮田 光 京都
關根 磯吉 東京

七月(十二名)
堀 宏 新潟
渡邊 定助 愛知
×渡邊 理一 東京
寛 多記 茨城
田中 榮定 長崎
中島 昌二 廣島
中島 秀男 島根

明治三十八年第八回卒業

×長井 貫吾 新潟
×山岸 留之助 北海道
小松 重利 高知
美代 清信 鹿兒島

×杉江 謙治 石川

七月(十三名)
伊藤 剛 愛知
岩本 千代馬 高知
×林田 甚八 長崎
×川口 録一 岐阜
×川添 友志 鹿兒島
南部 寛 福井

明治三十九年第九回卒業

×村上 素 宮城
上枝 平五郎 香川
久保 雷之助 愛媛
山根 左中 島根

木暮 彌七 群馬
水間 春吉 徳島

七月(十二名)
登坂 高三 山形
×和田 美穂 宮崎
鎌田 武造 青森
笠松 彌一 東京
河野 光三 山口
田中 登三 三重
×中村 源一 鹿兒島

明治四十年第十回卒業

奥津 興美 群馬
山田 純太郎 東京
橋川 章 宮城
榎本 弾正 香川

杉浦 保吉 埼玉

七月(十五名)
○芳賀 奈七郎 岩手
秦 半兵衛 東京
東郷 保一 宮城
小川 幸之進 岡山
長田 景貞 鹿兒島
×川島 信一 廣島
中北 靜 岐阜
村山 吉助 山形
村岡 貫一 山口

明治四十一年第十一回卒業

×野間口 兼美 鹿兒島
國司 浩助 山口
熊田 頭四郎 栃木
×小崎 彰 宮城
安達 誠三 石川

九月(三名)
水津和 秀男 廣島
長友 寛 宮崎
×柳 悦多 東京
秋山 實 千葉

十月(十七名)
石井 悌治 茨城
馬場 駒雄 岡山
新宅 定一 廣島
×飛山 信治 新潟
×渡邊 康介 愛知
河村 常一 廣島
金子 常太郎 岩手

吉田 義勇 長崎
高山 伊太郎 大分
竹内 仲治 長野
村上 寅一 愛媛

七九

植木 憲吉 兵庫
福野 久松 石川
天野 壯助 愛知
木下 信資 鳥取

宮脇伊太郎 鹿兒島 ×海上 二州兵庫

明治四十二年第十二回卒業

七月(九名)

奥村伊三郎 滋賀
金刺 琢磨 香川
横田 壯福 島
吉田 定次郎 鹿兒島
武富 榮一 佐賀

辻 志郎 栃木
明山 保次郎 兵庫
木下 辰雄 熊本
三浦 定之助 山形
岩本 清太郎 鳥取

×市川 峰吉 三重
飯尾 公壽 福岡
○與儀 喜宣 沖繩
谷本 坂惠 岡山
後藤 節藏 大分
古閑 義康 熊本

新井 藤一郎 茨城
○齋藤 齊 福島
○森田 靜夫 鹿兒島
白井 勝三郎 茨城
日比 義三 岐阜

明治四十三年第十三回卒業

七月(十五名)

伊吹 群作 福井
濱田 五六 廣島
新國 逸夫 新潟
細川 可也 栃木
富永 盛治郎 福島

岡本 曉 山口
横山 將來 石川
竹本 正文 東京
竹田 重雄 静岡
長棟 暉友 鳥取
能美 猪勇武 福岡

黒田 藤五郎 愛媛
白石 立見 香川
柴戸 雅一 長崎
王 文 泰 支那
伊藤 猪六 佐賀

加藤 平吉 山形
後藤 榮助 香川
秋田 榮治 東京
木村 呈 鳥取
木村 成松 福井

明治四十四年第十四回卒業

七月(十七名)

石原 重郎 熊本
布目 孜 石川
大塚 三平 茨城

高橋 照文 千葉
×高木 繁春 東京
×牛山 美廣 長野
山田 橋一 愛媛

山根 揆一 埼玉
矢吹 正夫 岡山
藤川 若松 廣島
×吉川 隆治 秋田

水月川 暹一 廣島
宮崎 盛長 崎
三浦 正秋 田
清水 隆 山口

(修業證書)

林 元 眞支那

(修業證書)

李 士 眞支那

九月(十二名)

林 卯 吉大阪

越智 章 静岡
田中 耕之助 東京
辻 知一 長崎
上野 省三 山梨

×黒野 元憲 東京
山本 静一 愛媛
松本 修二 兵庫
小林 章之 埼玉

青木 貞治 北海道
佐藤 敬吉 山形
御厨 保太郎 長崎

明治四十五年、大正元年第十五回卒業

七月(十二名)

(舊姓大野) 石井 文吉 東京
○飯塚 哲夫 宮城
○戸井田 二郎 熊本
×神山 捨吉 岐阜
八木 三千彦 鹿兒島

(舊姓野崎) 松尾 政次郎 佐賀
(舊姓淵邊) 知之 千葉
(舊姓伊澤) 佐々木 三治 富山
霜村 兵七 佐賀
×平瀬 博 兵庫
清 藤太郎 静岡

(舊姓山本) 須藤 三策 新潟
九月(九名)
飯田 與兵衛 東京
丹羽 六一 岐阜
葛城 忠男 石川
國分 友海 鹿兒島

小塚 銀八 愛知
×照井 賢三 岩手
×水野 均治 愛知
×島田 喜一 静岡
×莊司 勇 山形

大正二年第十六回卒業

七月(十名)

○飯山 太平 茨城
濱崎 末長 高知
吉安 新次 兵庫
田面 欽次 兵庫
松田 鶴次郎 福岡
小安 正三 東京

小林 敏行 東京
宮本 義永 茨城
(舊姓鈴木) 島田 儀三郎 熊本
○村山 敏三 福島
九月(十一名)
本田 光吉 愛媛
岡本 重治 愛知

高柳 繁次郎 群馬
塚崎 謙吉 秋田
中川 甚藏 東京
山口 慶四郎 群馬
馬上 福壽 福島
松尾 我何人 長崎
永福 虎 鹿兒島

三輪 源造 岡山
久富 元長 崎
十月(一名)
小河 範太郎 福岡

大正三年第十七回卒業

七月(九名)

○服部愛之助 大阪
原田健兒 熊本
本間久四郎 新潟
德光外治 石川
梅本儀助 福岡
野崎民平 三重

九月(九名)

山田勝衛 長野
前田英二 新潟
莊得一 岡山
飯沼壽 東京
林準二 東京
大村道一 兵庫

谷口武三 岐阜
郭井捨吉 東京
×佐藤成美 和歌山
佐々木孝造 京城
(桐本富次 和歌山
岸田十雄 岡山
十月(一名)

沼野紳吉 新潟
十一月(二名)
中村吉治 長野
重田瑞穂 兵庫

大正四年第十八回卒業

七月(十七名)

石崎實三郎 愛媛
岡本正一 静岡
渡邊六造 山形
龜田精一 島根
吉田秀一 東京
田代正治 新潟
津田守規 福岡
中山琢三 福岡

大正五年第十九回卒業

七月(九名)
岡島清廣 島
尾藤信正 熊本

栗田要吉 京都
○山田盛雄 福岡
山本徳愛 媛
合原一福 岡
小松和勝 熊本
旭章 石川
齋藤陽三 東京
白石賢三郎 埼玉
李炫國 朝鮮

九月(十名)
家坂孝平 新潟
高橋千里 長崎
×浦山精一 静岡
日下部彦次郎 兵庫
山井隆亮 栃木
峰辰三 長崎
森村共正 石川
桃田利惣 新潟
根岸勝彌 福島
秋山俊一 高知
北野退藏 宮城

仙波平馬 栃木
×進 華福岡
十月(一名)
三宅好美 岩手
十二月(二名)
村上正男 愛媛
淵山貞長 崎
須貝實山 形
九月(三名)
須部明七 栃木

吉田春吉 東京
田原精夫 東京

十一月(二名)
(舊姓原)
岩崎猪二 島根

行川清千 葉

佐々木政之助 宮城
關口壽之助 東京

大正六年第二十回卒業

三月(十七名)

×市川友賀 神奈川
今村龍雄 三重
岡田正人 兵庫
和田秀政 兵庫
川添爲一 香川
中島正一 東京
柳川和民 島根

正木一作 千葉
郷朔雄 東京
甘利集基 長野
天野郡治 千葉
澤池一雄 京都
佐々木武雄 宮城
人見秀四郎 東京
平山繁 鹿兒島

菅三郎 岩手
金泳煥 朝鮮
四月(三名)
堀井恒次郎 福島
鎌田積福 岡
日置徳太郎 岡山
五月(四名)
今岡源一 廣島

飯野夏佐 埼玉
大津清福 岡
青木京一郎 巖手
九月(一名)
近藤止三 愛媛
十一月(二名)
岩尾正人 三重
山下彌三左衛門 鹿兒島

大正七年第二十一回卒業

三月(十七名)

井上常吉 佐賀
神田貞治 山形
谷島馬太郎 大阪
高橋幸三郎 宮城
副田徳平 佐賀

○十川正夫 徳島
中谷熊楠 和歌山
山口嘉四郎 兵庫
伏本政樹 廣島
小笠原秀雄 群馬
鹽沼英吉 栃木

海老塚健一 神奈川
佐藤清治 宮城
酒卷義司 千葉
菊池忠造 宮城
鹽澤虎馬雄 山梨
久野好福 岡

四月(二名)
友廣年 岡山
大熊保道 山口
五月(一名)
伊賀敏耶 兵庫

大正八年第二十二回卒業

三月(二十三名)

○鹿原一兵 庫

乾明太郎 高知

五十嵐昭愛 知

池田文爾 富山
池田信也 廣島
石田壽之 群馬
戸川千藏 鳥取
大西清忠 奈良

大正九年第二十三回卒業

河野通直 高知
×横手武熊 鹿兒島
高久 彭福島
竹井增一 岡山
中島爲一 佐賀

×中島健輔 佐賀
桑原時藏 東京
小石安一 福岡
小濱氏清 鹿兒島
近藤重虎 高知

小侯信親 東京
坂倉今太郎 静岡
藤山武次郎 岡山
秀島 魁佐賀
森下伊三郎 和歌山

三月(二十一)

石田稔威雄 群馬
飯塚喜一 東京
馬場政二 福岡
太田久隆 群馬
梶島年安 福岡

大正十年第二十四回卒業

×高橋亮吉 東京
永井福三郎 岡山
中田賢吉 長野
×中目協宮城
雅井秋雄 静岡
×野口乾福島

國井林 栃木
久保慶男 長野
後藤泰 岡山
小島信司 新潟
赤星家雄 大分
佐藤正夫 大分

北島正長 崎
白石平七 福岡
瀨田 珍佐賀
申鴻 兩朝鮮

三月(二十七)

井垣喜作 兵庫
原田直人 東京
伴善居 福井
濱邊清藏 鹿兒島
本間 豊茨城
大村三樹之助 兵庫

大正十一年第二十五回卒業

阿屋慶光 山口
岡本大助 熊本
川原七郎 鹿兒島
横井太郎 愛知
谷 巖 高知
寶田 顯作 福岡
中江富三 大阪

野本市次郎 愛知
黒田徳次郎 北海道
工藤辰雄 静岡
×矢部武三 新潟
山口虎雄 佐賀
山口保三郎 茨城
×古谷代吉 福岡

岸川由太郎 佐賀
溝口浩司 群馬
×三浦政美 山形
新野二郎 宮城
廣瀬恒美 高知
日高久彌 宮崎
鈴木 操 福岡

三月(二十二)

花木哲之助 愛知
長谷川金衛 新潟
奥田憲太郎 鳥取
奥津三郎 神奈川
渡邊東雄 宮城
加藤利夫 大分

大正十二年第二十六回卒業

甲藤健夫 高知
×關根武吉 埼玉
古澤晴一 埼玉
武井政雄 北海道
堤正夫 静岡
永田徳太郎 兵庫
山田千代夫 和歌山

松島平次郎 三重
小林世紀 新潟
近藤綱一 愛知
近藤道之助 東京
海老原 忍 千葉
安達 新 茨城
里内 晉 東京

櫻井 輝 千葉
木村宗太郎 福井
四月(一名)
池邊謙三 熊本
八月(一名)
吳 毅 支那

三月(十七)

長谷川正一 愛知
星野 豊 千葉
外岡元雄 岩手
横山 一 滋賀

大正十三年第二十七回卒業

高本 等 廣島
辻村秀一 京都
中村國一 東京
村瀬二郎 東京
松岡嘉三郎 熊本

松浦信雄 東京
松本和一 大阪
酒井森三郎 栃木
眞後外見 新潟
檜山 鐵造 茨城

×菅原三朗 秋田
杉 孝 兵庫
鈴木徳三 宮城
十三年二月(一名)
後藤林英 新潟

三月(二十五)

石原政男 福岡
春木初夫 三重
西川定一 栃木
仁平宣威 茨城
木田三郎 茨城
利行正雄 東京
大石宰平 静岡

大庭重行 福岡
×櫻井泰藏 神奈川
岡田仁弘 徳島
吉澤正三 富山
田中道知 静岡
立石 巖 熊本
村井政雄 東京
村岡壽朗 福岡

久保要 香川
安原真男 山形
間中武男 茨城
牧正 爾 栃木
荒木 寛 新潟
朝日向昇 平 茨城
坂田義澄 熊本
御園生 武雄 山口

水野金市 秋田
鈴木喜三郎 茨城
六月(四名)
服部繁次 福井
眞田健三 山形
木原佳郎 鹿兒島
道澤史郎 奈良
七月(一名)
武田實造 鳥取

三月(十九名)

稻葉和夫 栃木
今西協一郎 宮崎
四 越 福島
土井久治 兵庫
岡村正久 熊本

兼田清 神奈川
吉澤源造 埼玉
園部久秋 田
長岡正幸 東京
永島義弘 栃木
長島武治 神奈川

栗野有常 愛知
熊野武晴 奈良
三浦滋雄 東京
白鳥健壽 宮城
志道吉次 山口
平岡實 神奈川

菅原與吉 新潟
杉山延里 石川
七月(一名)
横川國彦 埼玉
十月(一名)
柳田四郎 鹿兒島

(二) 製造科

明治三十一年第一回卒業

四月(三十四名)

×今井次郎 神奈川
(舊姓沖) 長谷川作次 石川
×濱元四良太郎 富山
(舊姓廣瀬) 二宮常八 香川
西 保八 熊本
×堀江銀之助 東京
×本郷益雄 東京
小野辰次郎 東京

×大津吉之介 茨城
岡本賢一 大分
×吉川尙方 東京
×吉田三俊 大阪
高松 勝重 三重
(舊姓榎) ×田所清雄 茨城
×中四英男 三重
中島庸三 長野
(舊名和太郎) 大和 和七 東京

大和田田太郎 千葉
山本廣三 大分
(舊姓佐藤) 牧野左馬三 大分
前田庄五郎 兵庫
藤村守一 高知
×松生猪三男 福岡
×古賀駿輔 佐賀
駒澤幸一 石川
北川克郎 高知

木原方吉 佐賀
宮木周市 山口
×三島拙郎 島根
白石靜 鹿兒島
篠崎順三 千葉
平野友安 千葉
(舊姓廣瀬) 守田貞三 大分
關原東太 千葉

明治三十二年第二回卒業

四月(二十二名)

井關正行 和歌山
市橋丁丸 東京
西畑良造 北海道
富樫恒千 千葉
(舊名誠一) 小川清一 佐賀

大木盛三郎 東京
×辻好司郎 石川
×中村平八 徳島
(舊姓小倉) 久南恒介 山口
×黒岡安定 東京
府波健藏 石川

府中喜八郎 石川
小石季一 秋田
×小岩井治世 青森
蓋野一男 千葉
佐々木繁太郎 香川
×北野宇佐吉 徳島

×肝付兼昌 鹿兒島
×光増健三郎 佐賀
×宮島伊望 千葉
蓋谷源七 宮城
(舊名務藏) ×廣月松右衛門 島根

明治三十三年第三回卒業

四月(十五名)
(舊名長作) 弘人 長崎
伊藤 哲太郎 茨城
(舊姓渡邊) 直作 富山

金高喜一 千葉
吉田 虎藏 德島
(舊姓大) 伏五郎 三重
浦山 伍作 石川

久保茂助 山口
久木田勝馬 鹿兒島
(舊名歌一) 卓男 鳥根
久谷 龍宮 城

齋藤 七郎 千葉
水野 幸次郎 愛知
(舊姓大) 鹽田 愛隣 千葉
(舊姓大) 鈴木 珍平 岩手

四月(九名)
池田 熊之助 鹿兒島
千葉 幸三郎 東京

小野寺 利吉 宮城
中井 國太郎 愛媛
野元 俊一 鹿兒島

松原 榮兵衛
船橋 晋吉 神奈川
小見山 富市 熊本

朝比奈 雪 靜岡

四月(三名)

岩城 宣郎 靜岡

(舊姓中野) 田淵 速吉 德島

久保田 信治 兵庫

七月(十三名)

石原 重良 山形
岩本 正孝 長野
渡邊 安忠 大分

(舊姓野田) 秀之 石川
田島 百人 熊本
宗 熊大分
内村 可一 德島

松尾 靈彦 愛知
淺井 謙吉 東京
酒井 物次郎 三重
(舊名與吉) 菊池 健岩 手

宮内 友吉 鹿兒島
志村 彦藏 山形

七月(八名)
(舊名喜吉) 畑田 熊次郎 岩手
河村 尊雄 京都

湯島 熊道 高知
(舊姓松山) 倉田 秀雄 熊本
(安藤) 俊吉 兵庫

白石 庸次郎 新潟
森 萬次郎 東京
勢島 莊太郎 福岡

明治三十八年第八回卒業

七月(十七名)

伊東 二郎 茨城
林 碌 大坂
馬場 清止 宮城
河西 延次郎 香川

武季 作 東京
(舊名熊道) 長屋 啓之助 茨城
宇加治 文雄 茨城
國島 徹 北海道
安永 宗治 福岡

牧野 健次郎 靜岡
松坂 省輔 山口
益滿 行綱 東京
江島 悦次郎 福岡
粟屋 協二 愛知

木村 金太郎 東京
鈴木 幸太郎 靜岡
杉山 恒吉 德島

七月(十八名)

池内 清 愛知
岩井 龜治 高知
高崎 達之助 大坂
立川 卓逸 新潟

仲野 九郎 兵庫
中山 克巳 高知
中村 平福 岡
名村 竹雄 福井
宗像 浩次郎 廣島

内田 耕 東京
上田 壯一 山口
大槻 清三 東京
山内 豐彦 茨城
福島 政吉 東京

(舊名仁三郎) 赤坂 和一 北海道
喜代美 榮一郎 長崎
篠原 睦造 島根
柴田 匡一 岐阜

明治四十年第十回卒業

七月(十五名)

林 隆 東京
吉野 季長 長野
永峰 治光 北海道
中島 董一郎 東京

梅宮 鶴藏 福島
野口 莊次 埼玉
岡本 剛三 東京
山中 巖 廣島
間世田 名臣 鹿兒島

鶴谷 六三 埼玉
佐々田 榮重 島根
里深 清一 兵庫
(舊姓市川) 阪元 清 東京
三森 富雄 東京

島崎 眞哉 高知
九月(一名) 杉村 泰治 宮城

七月(二十六名)

濱部 常三郎 和歌山

明治四十一年第十一回卒業
西方 悌次郎 神奈川
富山 正巳 千葉

富田 達道 高知
大島 愼二 東京

岡田 勝夫 東京
角田 鶴雄 埼玉

○田口寧一 茨城
○中島安太郎 愛知
(舊姓大竹)
○梅浦健吉 東京
○久志木欣之助 三重
×柳淵覺太郎 群馬

×山極七郎 長野
松下 高 福岡
×前田隆一 兵庫
真田吉之助 石川
藤田要太郎 愛媛

小島米吉 茨城
赤嶺權一 神戶
新井虎之助 東京
相澤 毅 長野
×神 隄 三 東京

森谷 茂 鹿兒島
鈴木厚三 兵庫
(修業證書)
曹文 淵 支那
(修業證書)

七月(二十一)

一ノ瀬 福巳 福岡
○小倉善平 栃木
若林忠雄 茨城
田中真平 埼玉
谷口直太郎 兵庫

高瀬重之 栃木
田代實範 福岡
武 晴 宜 群馬
×永井 真 神奈川
×中岡盛隆 岡山
山路政一 廣島

増田久家 愛媛
○福井守一 東京
×小林丈太郎 岡山
×小田甲三 茨城
有賀 儀夫 長野
×北島 椿一 佐賀

北川政次郎 神奈川
木村松太郎 群馬
三木 源吉 兵庫
菅原元一 岩手

七月(十一)

×岩佐 定一 長崎
西村和雄 東京
×高宮 正 山形
×内藤 俊一 山口
×中野 常徳 北海道

(舊姓武藤) 中山 留八 福島
(舊姓水谷川) 太田貞太郎 東京
九條 夏 叙 東京
(舊姓名塚) 山本 祥吉 廣島
前澤 續衛 長野

(舊姓村内) 瀨崎 顯三 神奈川
有坂 利一 群馬
青田 春藏 福岡
鈴木 儀八 岩手
(修業證書) 英 支那
(修業證書) 孫 那

十月(五名)
(舊姓中光)
加隈 真介 熊本
村上 次郎 山口
布施 遠治 千葉
海老澤 光治 東京
菅宮 清吉 茨城
徳永 盛雄 熊本

七月(二十一)

吉田敬雄 熊本
谷村重忠 岡山
武本源四郎 岡山
×津田弘一 東京
×根岸林造 兵庫
内田孝雄 東京

内田 林治 東京
×牛島 實 鹿兒島
安井 章一 兵庫
山添 兵造 兵庫
(舊姓名塚) 古田 榮作 群馬
小柳 石男 山形

江副 元三 佐賀
齋藤 雙樹 香川
×佐藤善右衛門 岩手
深山 義道 千葉
(修業證書) 伍正 支那
(修業證書) 胡 泰 支那

十一月(五名)
伊藤 孝夫 新潟
外山 源吾 新潟
×横尾 藤作 群馬
萩野 演一 兵庫
佐田 作郎 宮崎

七月(十二)

池田夏作 山形
○伴 誠一 東京
大橋 晋 靜岡
大内 義男 福島
×川端 豊松 兵庫

川口久四郎 三重
河村 兵三 三重
中村 傳 郎 京都
深澤 三郎 山梨
島 添 眞一 京都
(舊姓島村) 樋下 田 威儀 熊本

×關根 豊 埼玉
十一月(八名)
×大川 實 靜岡
長光 悟 福岡
三井 澄 東京
(舊姓岩澤) 實川 計徳 千葉

清水 一司 東京
平林 愛民 長野
森田 巽 佐賀
鈴木 武 栃木

七月(二十四)

市島徹太郎 新潟
飯岡 忠重 栃木
本田 鹿人 熊本
○鳥居 强次 東京
萩原 茂 長野
大槻 房吉 京都

小野 彌一 靜岡
小野 太亮 山口
神住 潔光 埼玉
内藤 謹三 東京
中村 信治 福井
中村 真石 石川
黒田 元治 北海道

山本 泉 東京
松生 義勝 大阪
×藤本 尙一 石川
近藤 辰雄 新潟
後藤 保山 茨城
寺門 弘隆 茨城
×源 義一 廣島

(舊姓山石) 森 茂 鹿島
鈴木 直辰 東京
×諏訪 賢治 和歌山

明治四十五年、大正元年第十五回卒業

大正二年第十二回卒業

明治四十三年第十三回卒業

明治四十四年第十四回卒業

明治四十二年第十二回卒業

大正三年第十七回卒業

七月(十四名)

伊藤 眞三 新潟
池尻 文耶 福岡
(舊姓西島)
星野 直太郎 大阪

渡邊 富藏 茨城
吉田 實 千葉
吉村 善一 兵庫
中村 續太 東京

内海 直國 愛媛
×小野 信之 神奈川
前田 石之助 京都
小和田 金吉 新潟

荒川 誠 東京
×北野 漸 長崎
三ノ澤 福定 群馬

七月(十三名)

岩松 三郎 東京
×入田 秋治 鹿兒島
富田 四郎 東京
吉永 一隆 熊本
田山 來介 埼玉

津幡 文八郎 青森
(舊姓村山)
宇田 繁 山口
熊澤 楠吉 高知
佐藤 秀雄 福島
菊山 武雄 愛媛
○弓削 讓 茨城

鈴木 鉦三 愛知
李 商 朝鮮
十月(六名)
中島 吉十郎 佐賀
中須 辰二 石川
柳谷 善吉 北海道

美川 秀信 熊本
水口 元 石川
清水 淳三 神奈川

大正五年第十九回卒業

七月(九名)

岩淵 修平 宮城
秦 義輔 福井
太田 正一 石川
内田 一耶 埼玉

松島 敏之 神奈川
×福田 作次郎 香川
宜保 友厚 神戶
志村 良英 東京
×澁谷 亮 東京

大正六年第二十回卒業

三月(十四名)

金谷 二耶 群馬
梶原 孝治 兵庫
野村 康雄 東京
増田 秀治 静岡

福住 吉慶 東京
○小林 小一 新潟
甲賀 正一 静岡
×阿部 松太郎 大分

赤松 勳 愛媛
×佐野 貞三 福島
杉山 泰 岡山
六月(二名)

(舊姓桑名)
進藤 義輔 山口

大正七年第二十一回卒業

三月(二十名)

井出 孝吉 東京
濱本 清志 鳥取
×新妻 善七 宮城
富岡 謙吉 兵庫
梶原 頼久 兵庫

河内 吾郎 山口
兼本 盛光 神戶
田村 光三 大阪
成田 穰 千葉
中島 計次 群馬
村井 英雄 福岡

上原 元助 香川
○山田 壽信 愛媛
×山崎 秋生 京都
松葉 篤弼 東京
松田 權六 群馬
松本 清之丞 福島

木村 惟 鹿兒島
三輪 儀三郎 大阪
(舊姓三木)
圓尾 親藏 兵庫

大正八年第二十二回卒業

三月(十六名)

石川 成人 宮城
原 武雄 廣島
西 磐山 形
富崎 善吾 佐賀

大久保 嘉彦 香川
吉川 市次 佐賀
田邊 武雄 山梨
○中谷 正雄 大阪
村井 午之助 千葉

宇津見 修藏 茨城
楠 綱四郎 愛知
淺野 一哉 千葉
眞田 幸次 石川
○島田 浦 大分

森川 庄次郎 大阪
李 重 漢 朝鮮
四月(二名)
古川 武毅 千葉

大正九年第二十三回卒業

三月(二十三名)

×稻葉 茂祐 熊本

西墻 朝祐 兵庫
堀越 一三 茨城

○川口 武男 三重
川本 壽雄 廣島

高橋 重治 廣島
×高橋 越州 福井

田坂 武文 山口
 内田 康次 埼玉
 中川 勤 廣島
 栗原 傳四郎 埼玉

大正十年第二十四回卒業

(舊姓石川)
 有川 作治 富山
 馬場 孟夫 長野
 ○原口 安雄 東京
 林 政雄 鹿兒島

大正十一年第二十五回卒業

三月(二十四名)
 ○岩本 正一 宮城
 井波 義雄 東京
 原 孝吉 徳島
 堀田 文雄 熊本
 堀田 美穂男 東京
 尾野 敏行 廣島

大正十二年第二十六回卒業

三月(二十六名)
 稻生 正直 愛知
 井上 耐 神奈川
 今堀 孝人 北海道

小泉 喜代治 静岡
 有賀 松夫 長野
 安藤 信衛 東京
 坂田 信太郎 東京

金子 安治 埼玉
 村上 芳雄 静岡
 山際 友四郎 三重
 山本 元次郎 廣島
 松崎 秀雄 神奈川

(舊姓木村)
 前波 季子 福井
 松澤 定九郎 千葉
 益田 泰一 福岡
 増田 峻 埼玉
 古賀 保一 佐賀
 齋藤 孝治 千葉
 山下 利得 東京

池邊 康彌 東京
 石塚 森男 神奈川

相良 谷次郎 大阪
 (舊姓新井)
 佐野 昇次郎 東京
 水野 忠一 神奈川
 平松 角治 長崎

福岡 國男 福井
 寺崎 重弘 福井
 青木 林藏 愛知

(舊姓木村)
 原 金藏 埼玉
 宮良 當宴 沖繩
 日高 照宮 崎
 張元 第支 那

廿日出要之進 廣島
 西山 康 東京

三月(三十二名)
 伊藤 敏三 山口
 橋爪 英士 福岡
 鳥居 正明 東京
 大園 要 茨城
 小川 悦也 東京
 岡田 郁之助 神奈川
 小谷 和夫 兵庫
 ×小澤 俊雄 神奈川

大正十三年第二十七回卒業

土井 武夫 愛知
 大久保 金三 群馬
 和田 貫 千葉
 米井 俊雄 大阪
 吉澤 昇 神奈川

大正十五年第二十八回卒業

三月(二十四名)
 飯塚 正雄 栃木
 羽部 修 茨城
 原田 清 千葉
 大島 秀長 東京

玉木 松之進 山口
 尊田 寛一 佐賀
 ○梅本 香二 愛知
 山口 豊樹 茨城
 松尾 雅則 福岡

數野 傳次郎 香川
 ○神園 政也 鹿兒島
 ○田中 泉太郎 長野
 ○田村 辨一 山口
 宗田 將雄 福島
 中村 正記 宮城
 栗林 丈夫 兵庫
 山田 貞三 新潟
 丸地 廣男 愛知

岡屋 忠治 山口
 寛 梁 東京
 吉本 滿藏 山口
 高橋 義一 埼玉
 竹内 一耶 東京

白川 明則 長崎
 篠原 正規 石川
 毛利 重之 東京
 杉田 豐藏 静岡

秋月 壽 岡山
 三原 寅雄 京都
 宮坂 丑弘 長崎
 清水 俊雄 愛媛
 ○清水 亘 愛知
 杉原 裕二 滋賀

曲淵 市太郎 東京
 眞瀬 恒 栃木
 雨宮 榮藏 山梨
 齋藤 惠三 静岡
 ○猿谷 九万 長野

澤田正順 廣島
佐々達一 新潟

目黒徳太郎 新潟
志賀岩雄 和歌山

鈴木博 千葉

五月(一名)
中川金兵衛 宮城

(三) 養殖科

明治三十一年第一回卒業

四月(九名)
(舊姓冬木)
×磯崎 徳次郎 千葉
(舊姓橋部)
西島 新藏 山口

大石 芳三 佐賀
×吉川 諄 埼玉
高橋 重太郎 岩手

長島 幸吉 千葉
藤田 政勝 兵庫
×淺井 長三郎 福島

坂井安三郎 佐賀

四月(五名)

○川端 重五郎 三重

×壁谷 可也 東京
内山 鶴五郎 福井

山本 開作 神奈川
須田 訥 東京

明治三十三年第三回卒業

四月(八名)
伊藤 俊治 千葉
○今野 虎吉 福島

×(石田五郎) 山口
(舊名茂十郎) 緒方 惟孝 大分
×小野 佐久 東京

秋山 永次 東京
×櫻田 廣吉 秋田
肥後 了一 鹿兒島

明治三十四年第四回卒業

四月(三名)

(舊姓伊達)
片倉 健吉 東京

×長島 八郎 神奈川

須田義二郎 山形

明治三十五年第五回卒業

四月(三名)

○戸井田 盛藏 新潟

内田 佐太夫 千葉

前川鯉龜次郎 東京

明治三十六年第六回卒業

七月(四名) 河合 殿愛知 山下平造 兵庫 山本由一 東京 ○越田德次郎 石川

七月(二名) 明治三十七年第七回卒業 ○丸川久俊 島根 椎原廣男 鹿兒島

七月(三名) 明治三十八年第八回卒業 西山伊六 佐賀 東道太郎 東京 平木治 福岡

七月(二名) 明治三十九年第九回卒業 萩原實治 兵庫 鐘ヶ江東作 佐賀

七月(二名) 明治四十年第十回卒業 谷口利三郎 廣島 九月(一名) 西村茂生 山口

七月(七名) 明治四十一年第十一回卒業 河合盾丸 愛知 ×柳本斗夫 德島 阿部圭 福島

七月(七名) 明治四十二年第十二回卒業 八幡光造 山形 ×藤城存知 廣島 須賀原善太郎 群馬

七月(七名) ×加藤 保愛媛 (倉上政幹 埼玉 藤森三郎 長野 菅俣吉之助 東京

七月(五名) ×早坂夏次 山形 山田政滿 福井 三宅仙吉 東京 小林雄次 廣島 三木保次郎 兵庫

七月(十一名) 井田助作 新潟 神谷尙志 東京 (舊姓川上) ○中野宗治 長崎 河村加四郎 廣島 塚越靜吉 群馬 小林尙次 靜岡 鈴木拙郎 三重

七月(十七名) ×川村久治郎 福井 高橋宗作 山形 (舊姓中村) 北村強彦 熊本 笠村 確 栃木 ×中澤貞雄 長野 小林彦四郎 栃木 ○春藤一市 岡山 吉田 潔 福岡 ×○村松 鼎 愛知 小金丸汎愛 福岡 阿曾文雄 千葉 田中修次郎 東京 鬼塚正治 鹿兒島 阿曾文雄 千葉

七月(十名) 片岡虎之助 山形 田中正男 東京 松崎冬次 東京 川尻 稔 三重 中村正明 埼玉 荒野謙三 東京 ×住道潔水 福井 ×○米田 保 福岡 (舊姓前田) 中井信隆 和歌山

大正二年第十六回卒業 大正三年第十七回卒業 十月(一名) 岡田彌一郎 東京

七月(十三名)

石井宗吉 東京
富永次男 長崎
渡部龜一 愛媛

吉田直道 長野
田口長次郎 長崎
能勢忠雄 愛知
大月菊男 茨城

松井佳一 山口
牧義男 熊本
天野京一 愛知
平井佐吉郎 東京

關晴雄 岩手
鈴木晉 千葉

大正四年第十八回卒業

七月(十四名)

岩井準平 東京
磯野泰二 福井
高島胤雄 三重
中村 廣島

太田知度 岡山
手塚正男 長野
小池正保 東京
幸田伴次郎 福井
佐藤支三郎 岡山

坂本寅市 京都
和氣友之助 香川
×三木信幸 德島
日比谷為造 神奈川
劉彭支那

十二月(一名)

澤田進 東京

大正五年第十九回卒業

七月(七名)

石森武男 宮城

本間幸次郎 北海道
笠井繁治 山梨

藤本政男 兵庫
越田秀包 石川

江熊哲翁 大分
塗谷光時 山形

大正六年第二十回卒業

三月(十一名)

蜷川虎三 東京
堀重藏 和歌山

沼田礎助 大分
鷹司信敬 東京
丹治經治 福島

松本友雄 愛媛
福島慶造 宮城
小西芳太郎 東京

×越石俊雄 新潟
×今野壽三郎 山形
×青山鉦吉 東京

大正七年第二十一回卒業

三月(五名)

原信 福岡

吉武實 山口
小園龍次 佐賀

×宮崎敏正 熊本
×鈴木秀策 靜岡

大正八年第二十二回卒業

三月(十名)

濱名龜助 福島
西岡丑三 佐賀

大島信夫 東京
落合清 群馬
加藤喜八郎 石川

建部豪 兵庫
青木三雄 神奈川
明石博次 京都

秋谷庸 千葉
齋藤光雄 千葉

大正九年第二十三回卒業

三月(八名)

巖谷那珂彦 福岡
永井正 東京

永坂勝次 東京
浦津幣太郎 熊本
上野惇五 東京

小林忠太 栃木
江島靜次 靜岡
海老名謙一 千葉

四月(一名)
牧健三 福岡

大正十年第二十四回卒業

三月(十一名)

五十嵐俊藏 山形
石川龜好 栃木

×川村正雄 東京
梶田與之亮 東京
高島啓次 富山

田中友三 東京
山田一男 群馬
八尋武良次 福岡

森本敬義 東京
陳謀 現支那
陳椿 壽支那

大正十一年第二十五回卒業

三月(十一名)

井上良治 德島
○川名武 千葉

高槻俊一 廣島
山田豐之進 山梨
向山豐之進 山梨

野田文綱 熊本
熊田朝男 栃木
福田亮三 和歌山

小見山樹 京都
酒井權 東京
比留岡崔 東京

大正十二年第二十六回卒業

三月(十五名)

井澤潤次 新潟
石井省一郎 靜岡
原邦明 鳥取

土井久之 靜岡
鳥飼敬義 千葉
小野寺元雄 宮城
○川本信之 東京

吉田裕 東京
田邊貞夫 神奈川
×田中華太郎 神奈川
内藤新吾 千葉

山中孝太郎 京都
荒木勝二 山形
菊池鶴松 埼玉
齋藤敏夫 岡山

三月(二十二名)

稻葉 俊 茨城
花田信次郎 大阪
○岡田卓雄 茨城
渡邊 清 岐阜
渡邊 茂男 山梨

大正十五年第二十八回卒業

三月(十五名)

伊藤 一郎 長崎
岩橋 量 熊本
稻葉 傳三郎 大阪

河原 達雄 兵庫
川越 庸樹 福岡
田中 仁平 静岡
○田村松太郎 山口
×玉利 亮一 東京
瀧澤 武雄 長野

(富山) 哲夫 長崎
川上 雅之 廣島
田中 小治郎 徳島
上野 鏡五郎 山形

永見 兼重 島根
村上 義威 岐阜
野口 利夫 兵庫
野澤 鑑 栃木
野澤 秀夫 栃木
安川 隆 東京

日下部 肇次郎 神奈川
矢板 開一 栃木
山内 謙 大分
吉川 順一郎 愛媛

澤野 英四郎 京都
木下 虎一郎 和歌山
○水野 復二郎 東京
宮崎 廣三 長野
杉浦 秋一 愛知

福田 隆道 岡山
福迫 徹郎 東京
國分 善一 東京
後明 喜好 新潟

二 遠洋漁業科

明治三十三年卒業

五月(一名)

黒田 九萬男 東京

明治三十四年卒業

七月(二名)

南摩 紀麿 東京
藤田 勘太郎 島根

八月(一名)

木村 廣三郎 石川

明治三十五年卒業

二月(二名)

高原 剛太郎 福岡
志村 次郎 東京

七月(三名)

石野 敬之 千葉
松崎 彌市 鹿兒島
森 茂樹 鹿兒島

明治三十六年卒業

一月(一名)

高橋 潤二 岡山

十月(一名)

下田 奎一 廣島

明治三十七年卒業

五月(一名)

小金丸 増太郎 福島

十一月(一名)

戸田 半平 静岡

明治三十八年卒業

一月(一名)

前田 春水 東京

三月(一名)

松尾 秀夫 長崎

十月(一名)

佐藤 正孝 山形

明治三十九年卒業

四月(一名)

田中 仁吉 島根

十一月(一名)

黒木 圓太 福岡

明治四十年卒業

十一月(二名)

寛 多記 茨城

美代 清信 鹿兒島

明治四十一年卒業

八月(一名)

川添 友志 鹿兒島

九月(一名)

上枝 平五郎 香川

十二月(一名)

小松 重利 高知

明治四十三年卒業

五月(二名)

林田 甚八 長崎
國司 浩助 山口

十月(四名)

長友 寛 宮城
柳 悦多 東京
安達 誠三 愛媛
秋山 寛 千葉

明治四十四年卒業

九月(四名)

吉田 義男 長崎
福野 久松 石川

木下 信資 鳥取

大正元年卒業

十二月(一名)

宮脇 伊太郎 鹿兒島

八月(四名)

市川 峯吉 三重
谷本 坂嘉 岡山
新井 藤二郎 茨城
箕田 静夫 鹿兒島

十月(四名)

飯田 公壽 福岡
與儀 喜宣 沖繩
後藤 節藏 大分
日比 義三 岐阜

大正二年卒業

八月(六名)

岩本 清太郎 鳥取

渡邊 康介 愛知

加藤 平吉 山形

武富榮一 佐賀
竹田重雄 静岡
後藤榮助 香川
柴戸雅一 長崎
十月(三名)
伊東猪六 佐賀
辻知一 長崎
木村成松 福井
十二月(一名)
木村 呈 鳥取
大正三年卒業

御厨保太郎 長崎
大正四年卒業
六月(一名)
古閑義康 熊本
十二月(五名)
飯田與兵衛 東京
葛城忠男 石川
國分友海 鹿兒島
莊司 勇 山形
島田喜一 静岡
大正五年卒業
四月(二名)
中川甚藏 東京
三輪源造 岡山
七月(六名)
高柳繁太郎 群馬
塚崎謙吉 秋田
山口慶四郎 群馬
馬上福壽 福島
松尾我何人 長野
久富元長 崎
十一月(一名)
柳井捨吉 東京

十二月(一名)
岡本重治 東京
大正六年卒業
一月(二名)
桐本富次 和歌山
林準二 東京
四月(一名)
本田光吉 愛媛
六月(一名)
永福 鹿兒島
八月(三名)
大村道一 兵庫
大石秀雄 静岡
山本清内 山形
大正七年卒業
五月(一名)
中村吉次 長野
十月(一名)
仙波平馬 栃木
十二月(二名)
森村共正 石川
日下部彦次郎 兵庫
大正八年卒業

五月(一名)
佐々木政之助 宮城
大正九年卒業
三月(二名)
關口壽之助 東京
和田秀政 東京
十二月(一名)
人見秀四郎 東京
大正十年卒業
一月(一名)
家坂孝平 新潟
八月(一名)
庵原順一 兵庫
十一月(二名)
池田信也 廣島
小濱氏清 鹿兒島
大正十一年卒業
十二月(一名)
大垣光平 栃木
大正十二年卒業
二月(二名)
谷口武三 岐阜
田原精夫 東京
三月(一名)

吉田春吉 東京
大正十四年卒業
四月(一名)
新野二郎 宮城

十月(一名)
里内 晉 東京
十二月(一名)
堤正夫 静岡

大正十五年卒業
五月(一名)
眞後外見 新潟

三 研 究 科

- 明治三十七年卒業
 漁撈科(二月一名)
 日高 靖宮崎
- 養殖科(十一月一名)
 今野 虎吉 福島
- 明治三十九年卒業
 養殖科(十月一名)
 丸川 久俊 島根
- 明治四十年卒業
 漁撈科(三月一名)
 吉永 費八郎 長崎
- 明治四十一年卒業
 製造科(十二月一名)
 杉村 泰治 三重
- 明治四十三年卒業
 漁撈科(六月一名)
 渡邊 理一 東京
- (七月一名)
 武富 榮一 佐賀
- 製造科(十二月一名)
 梅浦 健吉 東京
- 明治四十四年卒業
 製造科(七月一名)
 小山 甲三 茨城
- 明治四十五年卒業
 製造科(三月一名)
 矢野 實富 山
- 大正二年卒業
 製造科(五月一名)
 深山 義道 千葉
- (六月一名)
 内田 孝雄 東京
- (七月三名)
 谷村 重忠 岡山
 山添 兵造 兵庫
 關根 豐崎 玉
- 大正三年卒業
 漁撈科(七月一名)
 熊田 頭四郎 栃木
- 大正四年卒業
 漁撈科(七月一名)
 鈴木 敏三 福岡
- 製造科(七月二名)
 荻原 茂長 野
- 深澤 三郎 山梨
- 養殖科(六月一名)
 中井 信隆 和歌山
- 大正五年卒業
 漁撈科(五月二名)
 齋藤 陽三 東京
- 李 炫 國朝 鮮
- 製造科(三月一名)
 李 商 國朝 鮮
- (七月一名)
 弓削 讓 茨城
- (十月一名)
 近藤 辰雄 新潟
- 養殖科(十月一名)
 三木 信幸 徳島
- (十一月二名)
 岡田 彌一 東京
 片岡 虎之助 山形
- 大正六年卒業
 漁撈科(三月一名)
 徳永 外治 石川
- 製造科(四月一名)
 清水 淳三 神奈川
- (九月一名)
 秦 義輔 福井
- 養殖科(四月一名)
 中島 顯一 大阪
- (五月一名)
 佐藤 玄三 東京
- (七月一名)
 松井 佳一 山口
- (九月一名)
 藤本 政男 兵庫
- 大正七年卒業
 漁撈科(一月一名)
 石崎 實三郎 愛媛

- 製造科(一月一名)
 小林 敏行 東京
- 養殖科(十一月一名)
 櫻司 信敬 東京
- 大正九年卒業

- 漁撈科(七月一名)
 服部 愛之助 大阪
- 大正十一年卒業
 漁撈科(十二月一名)
 郷 朔雄 東京

- 養殖科(十二月一名)
 吉田 直道 長野
- 大正十二年卒業
 漁撈科(二月一名)
 福野 久松 石川

- 大正十四年卒業
 養殖科(一月一名)
 増田 與 東京

四別

科 (現業科ヲ含ム)

(一)漁撈科
 明治三十三年修業
 中着網漁(三月五名)
 業專修(三月五名)
 戸田 圓次 高知
 土井 常吉 新潟
 ×大橋 直吉 静岡
 紙子 次作 石川
 多屋 塾四郎 和歌山
 明治三十九年修業
 遠洋漁業專修(十月五名)
 池田 兼吉 千葉
 ×石井 次郎 千葉
 濱田 進 鹿兒島
 渡邊 梅吉 千葉
 津島 徳松 千葉
 明治四十年修業
 延繩及流(九月五名)
 及延繩漁業(九月五名)
 岩崎 吉兵衛 静岡
 田崎 次郎 茨城

増田 鬼一郎 静岡
 有原 初三郎 静岡
 見原 萬吉 静岡
 延繩及流(十月四名)
 網漁業(十月四名)
 津田 萬治 千葉
 上原 丈助 千葉
 平田 辰五郎 千葉
 鈴木 萬之助 千葉
 鶴漁業(十二月二名)
 伊藤 猪之助 福岡
 小田 積美 東京
 明治四十一年修業
 遠洋漁業專修(四月六名)
 畑中 彦助 愛知
 西川 村三郎 徳島
 田中 中三郎 東京
 竹内 治郎吉 三重
 柳生 政藏 愛知
 笹田 歌吉 東京

捕鯨專修(六月八名)
 岩村 孫作 長崎
 向井 三吉 和歌山
 上原 由之助 静岡
 倉光 三郎 青森
 山岸 留之助 北海道
 小坂 定治 長崎
 島 可淳 神奈川
 柴 恒太郎 岡山
 流網及延繩(十月六名)
 延繩業(十月六名)
 ×一色 勇 京都
 川崎 徳左衛門 石川
 横山 林四郎 三重
 齋藤 與太郎 山形
 梅 大郎 新潟
 鈴木 三郎 千葉
 明治四十二年修業
 延繩及流(一月一名)
 網漁業(一月一名)
 築城 徳沖 繩

鯖及鮪漁業(三月七名)
 染田 五助 長崎
 中世古 白吉 三重
 山本 重松 愛知
 湯淺 辰太郎 三重
 平松 幸枝 三重
 平賀 源之助 三重
 洲加本 三五右衛門 長崎
 延繩及流(四月一名)
 網漁業(四月一名)
 鈴木 梅吉 千葉
 延繩及流(八月一名)
 ×岩並 勝次郎 千葉
 明治四十三年修業
 延繩及流(一月一名)
 網漁業(一月一名)
 石塚 甚四郎 山形
 延繩及流(四月八名)
 網漁業(四月八名)
 石塚 直彦 山形
 中川 菊藏 三重
 山下 三之助 三重

出口 敏平 三重
 佐藤 徳松 秋田
 湯淺 萬吉 三重
 宮崎 長太郎 秋田
 鹿内 力松 青森
 (二)製造科
 明治三十一年修業
 織詰專修(一月五名)
 河野 巖 宮崎
 加藤 明二 秋田
 鹽井 與八 石川
 廣瀬 宗義 鹿兒島
 森 義直 京都
 明治三十二年修業
 魚油魚蠟(八月五名)
 沃度專修(八月五名)
 ×田中 清之助 三重
 山口 三之助 千葉
 昆 良八 岩手
 越瀬 市松 和歌山
 佐藤 義厚 茨城
 織詰專修(十二月五名)
 中村 里次郎 愛知
 内田 藏次郎 島根

松浦 善市 熊本
 松坂 豊次郎 富山
 菅沼 仙之助 福島
 魚油魚蠟(二月五名)
 沃度專修(二月五名)
 畑谷 丑太郎 北海道
 赤平 卯十郎 青森
 佐藤 漁太郎 宮城
 宮津 晋式 山口
 杉本 傳太郎 静岡
 織詰專修(十二月五名)
 及川 鼎壽 宮城
 村田 新五郎 愛知
 山田 徳松 宮崎
 ×梁 瀬 弘 長崎
 吉川 徳吉 滋賀
 明治三十四年修業
 魚油魚蠟(三月三名)
 沃度專修(三月三名)
 田中 富佐 福井
 松本 鶴次郎 高知
 木 高金之助 千葉
 織詰專修(十月二名)
 大黒 誠 高知

齋藤 初治 長崎
 魚油魚蠟(十二月四名)
 沃度專修(十二月四名)
 池内 林太郎 高知
 熊谷 伊三郎 福岡
 山口 太助 佐賀
 森崎 茂樹 静岡
 織詰專修(十二月五名)
 村江 保翼 長崎
 小松 山平 千葉
 宮内 喜一 鹿兒島
 鈴木 兼助 愛知
 菅原 養藏 宮城
 明治三十五年修業
 織詰專修(十月五名)
 秦 信之助 島根
 (舊名榮)
 米田 隆保 青森
 熊谷 伊三郎 福岡
 山本 荒太郎 和歌山
 山下 藤三郎 鹿兒島
 織詰專修(十二月六名)
 (舊名榮)
 糸井 藤藏 京都
 米田 隆保 青森
 中尾 千代之助 鹿兒島

山田 忠五郎 東京
 新井 元吉 和歌山
 里見 時之助 山口
 魚油魚蠟(四月四名)
 沃度專修(四月四名)
 (舊名榮)
 米田 隆保 青森
 前田 隆次郎 愛知
 小松 山平 千葉
 齋藤 玉治 愛知
 織詰專修(十一月三名)
 (舊名榮)
 市川 忠吉 山形
 山岡 則重 高知
 安里 積勳 沖繩
 織詰專修(十二月六名)
 井上 三太郎 三重
 花見 七治 北海道
 金子 房治 千葉
 河合 音治 愛知
 田村 忠太夫 岩手
 黃 桂 芬 支那
 魚油魚蠟(十二月五名)
 沃度專修(十二月五名)
 島山 吉雄 宮城

砥板源三郎 福岡
 大久保直次郎 高知
 古川九滿次 熊本
 坂口榮太郎 靜岡
 明治三十七年修業
 總詰專修(十月八名)
 濱 壽 楠 和歌山
 加藤 磯次 富山
 八木 佐吉 滋賀
 山田 達 愛知
 松浦 金平 兵庫
 紺谷 平治 石川
 相木 嘉一 福井
 森 眞 靜岡

明治三十八年修業
 總詰專修(十月二名)
 箱石 米定 岩手
 名嘉 幸徳 沖繩
 總詰專修(十二月十名)
 堀内 謙藏 岩手
 堀部 貫一 大分
 小野 末男 福島
 大上 伊勢吉 兵庫

高橋 敬三郎 三重
 田河 恒藏 熊本
 ×高杉 賢藏 秋田
 田中 寅之助 愛知
 仲田 文五郎 神戶
 森本 喜之助 和歌山
 魚油(十二月五名)
 土岐 音吉 千葉
 高鍋 志郎 兵庫
 田井 安太郎 京都
 曾根 武兵衛 和歌山
 松浦 萬鶴太 島根

明治三十九年修業
 總詰專修(十月六名)
 德平 秀郡 沖繩
 竹田 信平 島根
 國吉 榮洪 沖繩
 淺沼 文八 東京
 坂下 圓次郎 岩手
 柴 正 式 富山
 總詰專修(十二月十名)
 濱口 義正 三重
 四川 正次 東京

放生 要松 富山
 相馬 柳吉 秋田
 梅野 忠政 愛知
 岡田 太郎 鹿兒島
 矢野 喜藏 新潟
 松浦 久雄 三重
 小松 義篤 新潟
 趙 相 支 那
 明治四十年修業
 魚油(一月三名)
 芳賀 岩治郎 宮城
 小坂 傳吉 岩手
 小澤 謙三 千葉
 冷藏法(九月一名)
 村上 徳市 廣島
 總詰專修(十月三名)
 岩城 宇平 宮崎
 村上 倉次郎 北海道
 齋藤 八郎 靜岡

總詰專修(十二月七名)
 一色 彌太郎 京都
 石川 喜助 北海道
 秩父 重宏 青森

大畑 伊八 三重
 野村 利兵衛 京都
 山道 隆長 崎
 三浦 大造 愛知
 明治四十一年修業
 總詰專修(九月四名)
 井合 榮俊 新潟
 佐野 實香 川
 三浦 操 島根
 日比谷 要造 神奈川

總詰專修(十二月七名)
 伊藤 末千代 山口
 今藤 一馬 宮城
 岩崎 正己 島根
 石原 彦三 三重
 河野 徳治 神奈川
 野川 重五郎 岩手
 小堀 誠一 滋賀
 明治四十二年修業
 總詰專修(九月三名)
 橋本 喜之助 青森
 桂 信吉 京都
 田所 壽彦 高知

總詰專修(十二月九名)

今立 昌雄 福井
 馬場 一夫 滋賀
 高中 敬三 山形
 高橋 善三 宮城
 栗本 冬助 北海道
 山本 金吉 三重
 佐藤 智郎 三重
 吉川 廣助 熊本
 三橋 淳 鳥取
 明治四十三年修業
 貝殼彫刻專修(七月四名)
 伊笠 小六 東京
 津田 徳高 高知
 遊佐 孫藏 宮城
 森本 繁尾 高知
 總詰專修(十二月十二名)
 池山 盛一 三重
 芳賀 岩次郎 宮城
 岡崎 常松 愛媛
 波邊 照平 北海道
 加藤 福松 愛媛
 上林 唯治 京都

加瀬 松吉 茨城

田中 東太郎 北海道
 福士 真三 青森
 酒井 茂吉 高知
 紀谷 金之助 北海道
 東 鐵造 大分
 明治四十四年修業
 貝殼彫刻專修(七月六名)
 池田 典志雄 熊本
 徳井 利左衛門 三重
 渡邊 正勝 福島
 隈部 文男 熊本
 三好 徳三郎 愛媛
 弘末 英男 高知
 大正三年修業
 珊瑚彫刻專修(四月四名)
 泉 助次郎 宮城
 知場 伊太郎 福島
 竹中 尚三 鹿兒島
 江夏 武義 鹿兒島
 大正四年修業
 珊瑚及介殼彫刻專修(九月一名)
 高橋 清一郎 長崎

大正六年修業

珊瑚及介殼彫刻專修(三月三名)
 有島 好光 鹿兒島
 宮司 登 靜岡
 清水 義八 新潟
 珊瑚及介殼彫刻專修(十一月一名)
 栗田 達道 熊本
 貝殼彫刻專修(十二月一名)
 南風原 英當 沖繩
 總詰專修(十二月十四名)
 泉 拙郎 秋田
 星野 誠一 東京
 田中 泰夫 京都
 田中 長一郎 北海道
 中村 義男 福岡
 宗像 敬二 東京
 宗像 健吉 福岡
 上野 務 大分
 山口 保平 神奈川
 藤井 金吾 廣島
 後藤 滿 愛知
 赤沼 由郷 青森
 菅原 誠 宮城

鈴木 富太郎 三重

貝殼彫刻專修(十二月一名)
 赤井 卯八 福井
 大正七年修業
 貝殼彫刻專修(十月二名)
 市川 友治 茨城
 山本 政七 高知
 大正八年修業
 貝殼彫刻專修(四月二名)
 多田 館 山形
 野口 貞美 東京
 東 角藏 岐阜
 晉 繁 弘 鹿兒島
 大正九年修業
 貝殼彫刻專修(四月一名)
 鷹本 初太郎 愛媛
 貝殼彫刻專修(七月一名)
 二見 林太郎 神奈川
 貝殼彫刻專修(十月一名)
 市川 正次 栃木
 大正十年五月修業
 貝殼彫刻專修(五月一名)

安並善次郎 高知
貝殼珊瑚 (十二月一名)
彫刻專修
五十嵐善晴 山形
大正十一年修業
貝殼珊瑚 (七月一名)
彫刻專修
仁科 逸郎 千葉
水産工藝 (十一月一名)
坂入 一三男 茨城
大正十二年修業
水産工藝 (四月二名)
浦田 武夫 岡山
及川 善一 岩手
水産工藝 (十二月三名)
專修

寶來利一 兵庫
高田 卯一 群馬
齋藤 學 福井
大正十三年修業
水産工藝 (十二月三名)
專修
岩田 利機 東京
竹内 弘次 神奈川
野村 廣一 宮城
(二)養殖科
明治四十一年修業
鮭鱒養殖 (三月三名)
石川 廣之助 茨城
柳川 悌之助 秋田

野村 菊次郎 宮城
大正十三年修業
淡水養魚
專修 (三月五名)
內藤 啓一 愛知
内田 靜雄 靜岡
山本 四郎 愛知
幸田 勇喜雄 長崎
清水 久馬次 兵庫
大正十四年修業
淡水養魚專修 (三月八名)
岩崎 松三郎 宮城
河合 一次 愛知
吉岡 正三 重

吉川 義人 熊本
村松 讓 靜岡
小庭 太郎 岡山
寺田 孫兵衛 靜岡
相澤 彌生 群馬
大正十五年修業
淡水養魚專修 (三月五名)
岩村 久喜 熊本
大川 富秀 三重
與那原 孫莊 沖繩
植松 正義 福島
寺岡 正義 福岡

五 水産教員養成科

明治三十年卒業
十二月十五名
市原佐太郎 高知
羽生辨之進 愛媛
大竹 敬造 北海道
加藤 伊砂吉 靜岡
片岡 久次郎 新潟
加藤 登太郎 山形

蒲 夏 輔 福井
正富 彌藏 岡山
正林 英雄 長崎
秋保 知次 京都
佐々木 武治 青森
宮崎 賢一 長崎
滿岡 彦三 佐賀
平山 嘉門 岩手

關 菊次 秋田
明治三十六年卒業
四月十名
西原 佐一 愛媛
長内 清吾 青森
山本 次郎八 熊本
松波 虎之助 和歌山
佐藤 暹 岡山

笹子 治 千葉
喜多川 夏吉 東京
志水 清兵衛 兵庫
篠原 直衛 廣島
森川 萬藏 福井

六 製鹽技術員養成科

明治三十九年卒業
三月十名
市川 信次 鹿兒島
濱 清一 栃木
富田 登吉 埼玉
東條 高治 新潟
岡本 靜一郎 福岡
中原 經治 福岡
中村 丈福 岡山

室川 重義 和歌山
北川 九一郎 滋賀
平林 保義 東京
明治四十年卒業
三月八名
尾關 素一 東京
吉武 幾甫 山口
永井 重藏 兵庫
黒田 藤五郎 愛媛

黒住 安臣 岡山
松田 一平 徳島
三浦 一 岩手
三輪 清彦 愛知
明治四十一年卒業
三月六名
橋本 昇次郎 栃木
片山 甲太郎 三重
永山 千春 東京

安岡 貞雄 高知
清水 新太郎 香川
清家 幹一郎 愛媛
明治四十二年卒業
三月十名
糸雅 仁一 埼玉
伊藤 純造 埼玉
大塚 松次 栃木
早稻田 俊彦 愛知

谷本善夫 廣島
宗安宅 福島
那須文六 香川
酒井鐵三 茨城
木下實治 京都

壬生勇一 東京
明治四十三年卒業
三月(九名)
稻垣基一 香川
羽島久雄 東京

大澤國助 東京
武田晴彦 鹿兒島
谷 悅三郎 德島
工藤甚五郎 青森
五島 彰 茨城

相埜好作 群馬
宮宗 料介 廣島

七 特殊技術員養成科

明治四十四年卒業
製鹽科(三月八名)

金子 團三 新潟
米倉 八郎 宮城
吉野 久 北海道
山田童治丸 大分
丸山 廣作 新潟
遠藤 金治 宮城
佐藤 興市 大分
柴田 政行 北海道

地井 辰彌 千葉
吉戸 昌俊 愛知
田村 音吉 千葉
村尾 福太 神奈川
安田 豐吉 千葉
山下 太郎 東京
駒澤 惣平 北海道
小形 徳治 東京
越中谷 定吉 秋田

田中 牛七 香川
高瀬 鶴次郎 富山
安田 友吉 東京
小杉 徳治 東京
越中谷 定吉 秋田
冷水魚族養殖(八月七名)
法短期講習
石川 久治 東京
石川 廣之助 茨城
池田 藤太郎 兵庫
星野 守治 群馬
和井内 貞時 秋田
金子 傳次郎 岐阜
高木 初太郎 福島
谷川 吉之助 福島
村井 藏三郎 福島

村上秀治郎 福井
山崎 貞輔 秋田
菊地 與易 茨城
北原 定治 福井
標 賢一 山梨
平野 長藏 福島
平塚 金兵衛 長野
門馬 富次郎 福島
船用發動機(十月三名)
機關科
土肥 長作 新潟
小出 健太郎 新潟
山本 通 愛媛

大正二年卒業
鱈肝油採製

法短期講習(三月十二名)
伊藤 傳次 青森
畑中 彦助 愛知
西尾 慶二 東京

大正三年卒業
鱈肝油採製

法短期講習(三月九名)
畑中 彦助 愛知
田村 音吉 千葉
竹田 與八 石川
田村 寅吉 千葉

西村 和雄 東京
(以下八名 確語ニ關スル科目ノ講習)

濱野 仙吉 京都
大島 慎二 東京
大戸 與七 福井
宮本 周市 山口
大川 龜吉 秋田

村上 次郎 山口
久保田 覺壽 茨城
關 虎雄 東京

八 短期講習

大正八年卒業

轉族並淡水(十月十三名)
蘇頼養殖(十月十三名)
羽生田 源作 群馬
星野 信太郎 群馬
本田 林三 群馬
大竹 只之助 群馬
尾崎 清一 群馬

門倉 連式 群馬
金子 虎彌 群馬
高橋 貞治 群馬
高橋 貞作 群馬
黒田 定太郎 群馬
黒澤 荒治郎 群馬
兒玉 誠 山形

小曾根 勘助 群馬
阿部 藤三郎 群馬
齋藤 貞造 栃木
齋藤 森三郎 群馬
佐藤 郁造 群馬
木村 喜作 群馬
君島 松之助 栃木

平出 誠太郎 栃木
平出 元司 栃木
森 兵吉 栃木

第二 卒業者狀況

一、卒業者一覽表 (大正十五年九月調)

本表中×印ハ本所卒業者以外ノモノトス、
 本表ノ外本科ニ於テハ漁撈科四名、製造科七名、養殖科三名計十
 四名、別科ニ於テハ農林科四名、修業科二名ノ支那人卒業生アリ

年別	卒業者		合計	別科		合計
	科別	年別		科別	年別	
三十九年	一二	一八	三〇	一	五	六五
三十八年	一三	一七	三〇	一	九	五三
三十七年	一二	八	二〇	一	八	三四
三十六年	七	一三	二〇	一	六	五四
三十五年	五	三	八	一	一	二七
三十四年	八	九	一七	一	四	三七
三十三年	一二	一五	二七	一	一	五一
三十二年	一五	二二	三七	一	〇	五二
三十一年	一三	三四	四七	一	五	六一
明治三十年						一五
				科業漁洋遠		
				科究研		
				網着巾		
				業漁洋遠		
				詰		
				度沃蠟魚油魚		
				類節他其節總		
				法藏冷		
				殖養水淡		
				刻彫殼貝		
				計合		
				科成養員教		
				科成養員術技鹽製		
				科成養員術技種特		
				類藻水淡並族尊講短期		
				計總		

年別	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三
四十一年	一七	二四	七	四八	三一	二〇	一一	二一	二二	一七	一八	一六	一六
四十二年	二一	二二	二一	四九	一一	二〇	一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
四十三年	二〇	二〇	二〇	四五	六	二五	三	二二	二二	二二	二二	二二	二二
四十四年	二七	二四	一一	六二	五	一一	一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
大正元年	二二	二〇	一七	五八	九	一一	一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
二年	二二	二四	一一	五七	一〇	五	一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
三年	二二	一四	一三	四八	九	一一	一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
四年	三〇	一九	一四	六三	六	四	一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
五年	一六	一五	一四	三八	一〇	八	一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
六年	二七	一五	一一	五三	×二	七	一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
七年	二〇	二〇	一五	四五	×五	七	一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
八年	二二	一七	一〇	五〇	一	三	一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
九年	二二	二二	一九	五三	三	一	一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
十年	二七	一七	九	五三	四		一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
十一年	二二	二二	一一	五七	×一	二	一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
十二年	一七	二六	一五	五八	三	一	一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
十三年	三〇	三二	二二	八四			一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二
合計													

總計	外區							海東區北	區海南四							區
	朝長岐滋山奈柳群埼	北	德高宮沖鹿熊佐長福								大兵香					
計	朝長岐滋山奈柳群埼	北	德高宮沖鹿熊佐長福								大兵香					
	鮮野阜賀梨瓦木馬玉	道	島知崎繩島本賀崎岡								阪庫川					
五一九	三七七二二三三九九	六	四二七一三三六三三八二七								二一八					
五三四	二四一一四一七三四	〇	一八二四四四五三七四								二二九					
二四二	一八二一三一七三五	一	四一一三三七六三〇								四〇一					
二二九	二九〇四九四七五八	一七	一九二九五四三八二八五一								二五八					
〇三二	一二二一一一〇一一	一	一一一九一二七三								一四二					
四三二	二一一一一一一一一	一	一一一一一一一一								二二一					
二九三	一一一四一一二一一	〇	二三三八〇九一〇七								一五一					
二五	一一一一一一一一	一	一一一一一一一一								一一一					
四三	一一一三一一三	一	二一一一一一一二								一一三					
七四	一一一一一一一一	三	一一一一一一一一								一一一					
二二四	一一一一一五六	一	一一一一一一一一								一一一					
四五七	一一二五一九〇三	一四	一六三八二〇二二九								一八五					
一八九	三三三三三三三三	三三	二四三三三三三三								二七五					

附錄

一 職員移動 (自大正十四年八月至同十五年十月)

大正十四年八月十三日冷水魚族養殖試験場嘱託ス 石川廣之助
 大正十四年九月十四日兼任水産講習所教授 農林屬 安心院助一
 大正十四年九月二十五日海洋調査部主任ヲ命ス 技師 淺野彦太郎
 大正十四年九月二十五日漁船機械試験部主任ヲ命ス 技師 堀江武夫
 大正十四年十月二十九日雲鷹丸船長ヲ免シ蒼鷹丸一等運轉士ヲ命ス 技師 山本靜一
 大正十四年十月二十九日蒼鷹丸船長ヲ免シ雲鷹丸船長ヲ命ス 技師 日比義三
 大正十四年十月二十九日蒼鷹丸一等運轉士ヲ免シ蒼鷹丸船長ヲ命ス 嘱託員 今村喜市
 大正十四年十月三十一日願ニ依リ航海運用術教授嘱託ヲ解ク 嘱託員 近藤道之助
 大正十四年十一月十日日本所々屬船舶運轉士事務取扱ヲ嘱託ス 里内 晉
 大正十四年十一月十日蒼鷹丸一等運轉士ヲ命ス 嘱託員 里内 晉
 大正十四年十一月十日蒼鷹丸一等運轉士ヲ免ス 技師 山本靜一
 大正十四年十一月十九日兼任水産講習所助教 農林屬 今村與作
 大正十四年十一月二十日依頼免本官並兼官 技師 農林屬 今村與作
 大正十四年十一月二十五日動物植物寫生事項ヲ嘱託ス 技師 農林屬 今村與作
 大正十四年十一月二十五日任水産講習所技手 浦田淳造
 大正十四年十一月二十五日任水産講習所技手 岩本正一
 大正十四年十二月二十八日用濟ニ付本所々屬船舶運轉士事務取扱 嘱託員 里内 晉
 大正十四年十二月二十八日用濟ニ付本所々屬船舶運轉士事務取扱 嘱託員 里内 晉

大正十五年三月一日蒼鷹丸船長ヲ免シ蒼鷹丸一等運轉士ヲ命ス

大正十五年三月一日雲鷹丸船長ヲ免シ蒼鷹丸船長ヲ命ス

大正十五年三月一日雲鷹丸船長ヲ命ス

大正十五年三月三十一日願ニ依リ無線電信事務取扱囑託ヲ解ク

大正十五年四月七日願ニ依リ物理化學教授ノ囑託ヲ解ク

大正十五年四月二十日物理化學教授ヲ囑託ス

大正十五年四月三十日無線電信事務取扱ヲ囑託ス

大正十五年五月五日輸入水産食料品ニ關スル教授ヲ囑託ス

大正十五年五月二十八日組織及發生學實驗ニ關スル授業ヲ囑託ス

大正十五年七月二十一日海洋調査ニ關スル事項囑託ヲ解ク

大正十五年七月二十一日海洋調査ニ關スル事項ヲ囑託ス

大正十五年八月二十七日兼任水産講習所技師

大正十五年九月十六日歸朝

大正十五年九月二十日願ニ依リ冷水魚族養殖試驗囑託ヲ解ク

大正十五年九月三十日庶務課長、文書掛主任ヲ命ス

大正十五年九月三十日會計掛主任ヲ命ス

大正十五年十月一日漁船機械試驗部主任ヲ免ス

大正十五年十月一日漁船機械試驗部主任ヲ命ス

大正十五年十月十三日在外研究員ヲ命ス

在外研究員 技師 星野三郎

囑託員 石川廣之助

屬 淵上保喜

屬 石鹽甚二郎

技師 堀江武夫

技師 星野三郎

教授 寺尾新

囑託員 今村喜市

技師 日比義三

技師 山本靜一

囑託員 松原九平

囑託員 柴田雄三郎

政池 仁

尾島勲次郎

大槻房吉

田中友三

囑託員 河村達藏

海軍大佐 山口延一

農林技師 兒玉誠

二 學友會

德操ヲ研礎シ體育ノ發達ヲ期センカ爲メ職員生徒相謀リテ學友會ヲ組織シ所長ヲ會長トシ本所監督ノ下ニ開會スルモノニシテ之ニ要スル費用ハ職員並生徒ノ醵金ヲ以テ支辨ス

本會ハ學藝部及運動部ノ二部ニ分チ學藝部ヲ更ニ講演、辯論ノ二部、運動部ヲ更ニ端艇柔道劍道庭球角力及水泳ノ六部トシ學藝部ニ於テハ毎月一回講演會ヲ開キ或ハ知名ノ士ヲ聘シ或ハ本所教官ノ講演ヲ請ヒ以テ生徒ノ德風ヲ發揚センコトヲ期シ又一方ニ於テハ寄宿舎ノ一部ニ圖書室ヲ設ケ各種ノ書冊ヲ蒐集シテ自由ニ閲覽スルノ便ニ供セリ

會長 岡村金太郎
幹事 妹尾秀實

同 野元俊一
同 鎌田武造
學藝部長 羽原又吉
運動部長 小瀬次郎

水産講習所學友會規則

第一章 總則

第一條 本會ハ水産講習所學友會ト稱ス

第二條 本會ハ會員ノ親睦ヲ厚フシ精神ノ修養身體ノ鍛鍊ヲ爲スヲ目的トス

第三條 本會ハ本所現職職員出身者及生徒ヲ以テ組織ス

第四條 本會ハ其目的ヲ達センカ爲左ノ二部ヲ置ク

一 學藝部
二 運動部

學藝部ヲ分チテ講演部及辯論部ノ二部トシ運動部ヲ分チテ端艇部、柔道部、劍道部、庭球部、角力部及水泳部ノ六部トス

第五條 各部ニ於テ其細則ヲ設ケルトキハ會長ノ認可ヲ受ケヘシ

第六條 會員ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一 通常會員(本所生徒)
- 二 特別會員(本所職員)
- 三 贊助會員(本所出身者及舊職員)

第三章 役員

- 第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 一 會長 一名本所所長之ニ任ス
 - 二 幹事 三名本所職員中ヨリ會長之ヲ囑託ス
 - 三 部長 學藝部運動部各一名 同上
 - 四 理事 三名 同上
 - 五 運動部委員長 六名 同上
 - 六 會計掛 二名 同上
 - 七 委員 學藝各部三名、運動各部二名 生徒互選但シ端艇部委員ハ六名トス
 - 第八條 會長ハ會務ヲ總理ス
 - 幹事ハ會長ヲ補佐シテ本會ノ會務ヲ掌ル
 - 部長ハ其部ノ事務ヲ掌ル
 - 理事ハ學藝部長ヲ補佐シ其部ノ事務ヲ掌ル
 - 運動部委員長ハ部長ヲ補佐シ各部ノ事務ヲ掌ル
 - 會計掛ハ本會ノ會計事務ヲ掌ル
 - 委員ハ其部長及委員長ノ指揮ヲ承ケ及會計委員ハ會計掛ヲ補佐シ各事務ヲ處理ス
- 第九條 委員ノ任期ハ一年トシ毎年四月ニ始マリ翌年三月ニ終ル

委員ノ改選ハ毎年四月之ヲ行フ

第四章 會議

- 第十條 會議ヲ分ツテ總會役員會及部會トス
- 第十一條 總會ハ毎年四月一回之ヲ開ク
- 第十二條 役員會ハ役員ヲ以テ組織シ重要ナル會務ヲ決議ス
- 第十三條 部會ハ其部ニ關スル事務ヲ決議ス
- 部會ノ決議ハ會長ノ承認ヲ承ケヘシ
- 第十四條 必要ノ場合ニ於テハ會長ハ臨時總會ヲ開クコトアルヘシ

第五章 會計

- 第十五條 通常會員ノ會費ハ一箇年九圓トシ各學年ノ始ニ之ヲ前納スルモノトス
- 特別會員ノ會費ハ俸給年額三百分ノ一トシ毎月之ヲ分納ス
- 第十六條 通常會員ハ入會金二圓五十錢ヲ納ムルモノトス
- 第十七條 豫算ハ毎年三月役員會ニ於テ之ヲ決議ス
- 各部會ニ於テハ毎年三月ニ其部豫算ヲ決議シ會長ニ差出スヘシ
- 第十八條 會計決算ハ毎年ノ總會ニ之ヲ報告スルモノトス
- 第十九條 經費ノ剩餘アルトキハ之ヲ基本金トシテ積立テ確實ナル銀行ニ預ケスルモノトス

三 財團法人水産研究獎勵會

本所創立ヨリ十年水産傳習所創立ヨリ二十年ニ相當スル明治四十年三月二十二日ヲトシ有志者相謀リ水産研究獎勵會獎勵資金ヲ募集シ翌四十一年六月創立資金一萬二千四百三十四圓六十七錢四厘ヲ以テ財團法人ヲ設立シ水産講習所生徒及其他ノ者ニ對シ水産ニ關スル研究ヲ獎勵スル爲メ學資又ハ資金ヲ補給或ハ貸與若ハ賞與スルコトナセリ同財產ハ現時登錄資産參萬五百圓ニシテ創立以來本所生徒ノ學資補給ヲ受ケタルモノ十九人此金額八千二百四十四圓五十錢貸與ヲ受ケタルモノ三十二人此金額六千四百〇三圓ニシテ内本年度ニ於テ學資補給ヲ受ケタルモノ二人此金額四百二十圓學資貸與ヲ受ケタルモノ五人此金額千百十圓賞與ヲ受ケタルモノ三人此金額五十圓四十錢ナリ

寄附行爲

一 目的

第一條 本財團法人ハ水産講習所生徒及其他ノ者ニ對シ水産ニ關スル研究ヲ獎勵スル爲メ學資又ハ資金ヲ補給シ貸與シ若ハ賞與ヲ附與スルニアリ

二 名稱

第二條 本財團法人ハ財團法人水産研究獎勵會ト稱ス

三 事務所

第三條 本法人ハ事務所ヲ東京市深川區越中島町八番地水産講習所内ニ置ク

四 資産

- 第四條 牧朴眞ハ其募集ニ係ル水産講習所獎學資金ノ現在金及有價證券全部ヲ寄附シ本法人ノ資産トス
- 第五條 本法人ハ寄附金品ヲ受ケルコトヲ得
- 第六條 本法人ノ經費ハ其ノ資産ヨリ生スル收入ヲ以テ支辨ス
- 但寄附金募集ニ要スル經費ハ資産ヨリ支出スルコトヲ得
- 第七條 本法人ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日

評議員ハ理事ノ協議ニ依リ囑託スルモノトス

七 寄附行爲ノ變更

第十三條 本寄附行爲ハ目的ニ關スル規定ヲ除クノ外理事全員ノ同意ヲ經タル後評議員官ノ決議ヲ經テ其資産ヲ本財團法人ノ目的ト同一ナルカ又ハ之ト類似セル他ノ學校團體若クハ學會ニ寄附シ本法人ノ設立者ノ目的ヲ永遠ニ繼續セシム

八 附 則

第十四條 本寄附行爲施行ニ關スル細則ハ理事ノ多數決ニヨリ之ヲ定ム之ヲ變更スル場合亦同シ

ニ終ル

第八條 本法人ノ收入事業ノ狀況ハ毎年一回前會計年度ニ屬スル分ヲ發表スヘシ

第九條 本法人解散スルニ至リタルトキハ理事全員ノ同意ヲ得且評議員會ノ決議ヲ經タル後主務官廳ノ許可ヲ得テ其資産ヲ本財團法人ノ目的ト同一ナルカ又ハ之ト類似セル他ノ學校團體若クハ學會ニ寄附シ本法人ノ設立者ノ目的ヲ永遠ニ繼續セシム

五 解 散

第十條 本法人ハ法定ノ解散事由發生スルニアラサレハ解散スルコトナシ

六 役 員

第十一條 本法人ニ理事四名評議員十名ヲ置ク

理事ハ理事長之ヲ囑託ス理事長タル理事缺ケタル時ハ他ノ理事ノ合議ニ依リ之ヲ囑託ス本法人設立當時ノ理事及理事長ハ寄附行爲者ニ於テ第十二條ノ規定ニ依リ之ヲ選定ス

第十二條 理事一名ヲ理事長ニ充ツ

理事長ハ水産講習所長タル者ヲ以テ充ツ其ノ任期ハ水産講習所長ノ任期ニ從フ

水産講習所長タル者囑託ニ應セサル時ハ理事ノ合議ニ依リ之ヲ定ム此場合ニ於テハ其任期ハ理事ノ協議ニ依ル

四 試驗報告及其他刊行物

明治三十二年以降本所ニ於テ刊行シタル試驗報告其他主ナルモノノ左ノ如シ

一 水産講習所試驗報告

第一卷

第一册(三十二年三月)

浮子材料試驗第一回報告	川 合 角 也
各種鰓肝油採取試驗第一回報告	伊 谷 以 知 二 郎
海豚皮革試驗第一回報告	谷 中 道 信
普通製鹽ト洗取製鹽トノ成分比較	小 野 辰 次 郎
鯉魚温室及普通孵化試驗	藤 田 經 信
鯉卵孵化水質適否試驗	藤 田 經 信
神奈川縣下牡蠣飼育試驗	日 藤 田 經 信
いたばかミ蓄殖方法調査報告	農 學 士 藤 田 經 信
多摩川香魚人工孵化試驗第一回報告	理 學 士 藤 田 經 信
龍蝦孵化試驗第一回報告	農 學 士 藤 田 經 信

第二卷 (三十四年八月)

纖維試驗成績第一回報告	理 學 士 內 村 達 次 郎
天蠶絲製造試驗第一回報告	理 學 士 吉 岡 哲 太 郎
牡蠣養殖試驗第一回報告	農 學 士 藤 田 經 信
附東京灣海水觀測表	理 學 士 藤 田 經 信
龍蝦温室孵化並養試驗第一回報告	農 學 士 藤 田 經 信
わかめ蓄殖準備試驗報告	農 學 士 藤 田 經 信
あさくさのり調査ニ付神奈川、愛知、三重、宮城、岩手縣下出張報告	農 學 士 藤 田 經 信
多摩川香魚人工孵化試驗第二回報告	理 學 士 藤 田 經 信
龍蝦孵化試驗第二回報告	農 學 士 藤 田 經 信

第二册(三十二年七月)

ウロシリツクスノ結實作用ニ關スル研究	理 學 博 士 岡 村 金 太 郎
續誌試驗報告	椛 川 溫

第三卷 (三十八年五月)

漁網試驗第二回報告	農 學 士 內 村 達 次 郎
ひらめ人工孵化試驗報告	農 學 士 藤 田 經 信

第四卷

あさくさの移植試験報告... 理學博士 岡村金太郎

第五卷

第一冊(四十一年六月) 鱈肝油採製試驗報告... 工學士 市野辰次

第六卷

第一冊(四十三年三月) 鱈肝油採製試驗報告(第二)...

第七卷

第一冊(四十四年一月) 飼料製養網活洲試驗報告...

第八卷

第一冊(大正元年八月) 靜岡縣下てんぐさ蕃殖試驗報告...

鑛市着網試驗報告... 理學士 川合角也

冬木町養魚場試驗

第十冊(大正二年三月) 鯉中ノ磷酸化合物ニ就テ...

第九卷

第一冊(大正二年五月) 油漬蠶詰用油ノ檢定

第二冊(大正二年八月) たらばかに蠶詰原料肉...

第三冊(大正二年十一月) 心太ノ凍凝状態ニ就テ...

第四冊(大正二年十月) 海苔立粗密試驗...

第五冊(大正二年八月) 煉樟油製造ニ際シテ得...

第六冊(大正四年三月) 養殖魚類利用試驗第一回報告

第七冊(大正三年三月) 網類腐敗ニ關スル試驗...

第八冊(大正三年三月) 網類腐敗ニ關スル試驗...

第九冊(大正三年三月) 網類腐敗ニ關スル試驗...

第十冊(大正三年六月) 網類腐敗ニ關スル試驗...

第十一卷 第一冊(大正四年七月) 布良鮎延繩漁船設計...

第十二冊(大正四年十二月) 駿河河産櫻蝦調查報告...

第十三冊(大正五年二月) 養魚餌料試驗報告...

第十四冊(大正五年三月) ツンツ氏魚類呼吸作用實驗器說明書

農學士 松井秀三

農學士 山本川祥吉

農學士 小野辰次

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

農學士 松井秀三

第一冊(大正八年七月)
干蟻蟲害豫防ニ關スル
研究(其一)
木村金太郎

第二冊(大正九年三月)
海産動物油ノ性状
附海産動物油ノ發熱力及引火力
谷村重忠

第三冊(大正九年三月)
水産物ヲ基トスル調味料ノ研究
小野長次 輔郎

第四冊(大正九年三月)
水産講習所 蕃殖保護試驗成績第
次報告
高島實驗場
理學博士 岡村金太郎
原尾秀太 信實郎

第五冊(大正九年三月)
鮑ノ成長度ニ就テ
理學博士 鈴木武

第十六卷
第一冊(大正十年十月)
動物ノ肉蛋白ニ就テ
農學士 關根秀三郎

第十七卷
第一冊(大正十年十一月)
魚肉成分ト其呈味關係(第一回)
山本祥吉

第二冊(大正十年十二月)
魚肉ノ研究(第二回)
山本祥吉
赤山本澤 正吉

魚類ノ脂肪ニ存スル一種ノ
「ピタミン」(脂溶性A)ニ就
テ
農學博士 關根秀三郎

動物肉蛋白ニ就テ(第二報)
魚類雌雄肉蛋白ノ相違
農學博士 關根秀三郎

鮭卵ヨリ稚魚ニ至ル發育期
間中ニ起ル生物化學的變化
ニ就テ(第一報)
農學博士 關根秀三郎

第三冊(大正十一年三月)
「イースト」ニ就テ
理學博士 岡村金太郎

第十八卷
第一冊(大正十一年七月)
「イースト」ニ就テ
農學士 山川 洵

第二冊(大正十一年八月)
館山灣調査報告
理學博士 岡村金太郎

第三冊(大正十一年十月)
館山灣ニ於ケル浮性魚卵並
ニ稚仔(第二報)
理學士 長尾 輝友實

第四冊(大正十一年十一月)
館山灣ニ於ケル浮性魚卵並
ニ稚仔(第一報)
神谷 尙志

第五冊(大正十二年十一月)
水産調味料並復の美味ノ研
究(第二報)
神谷 尙志

第六冊(大正十三年四月)
大長養魚試驗場施設
神谷 尙志

第七冊(大正十三年三月)
冷蔵セル原料ニ就テ
理學士 梶山 英二

第二十卷
第一冊(大正十三年七月)
木崎養魚試驗場報告(第一報)
神谷 尙志

第二冊(大正十三年十一月)
主トシテ冷蔵庫ニ使用スル
經緯材料ノ熱傳導率ニ就テ
神谷 尙志

第三冊(大正十三年十一月)
ふのりノ發生ニ就テ
神谷 尙志

第四冊(大正十四年三月)
館延繩撈機試驗
(和英兩文)
工學士 藤小星 田瀨野 正次三 巳郎

第四冊(大正十二年一月)
鮮魚冷蔵試驗報告(第一報)
小川清一

第十九卷
第一冊(大正十二年六月)
第二回「プロタミン」ノ研究
農學博士 山方川 不二雄

第二回「プロタミン」ニ就テ
(第二報)
農學博士 山方川 不二雄

「イースト」ニ就テ(第二報)
農學博士 西村 庄

魚類ノ齒門垂ノ蛋白醇
素ニ就テ(第一報)
水産學士 大谷 武

「タウリン」ノ沃化「カルシウム」
鹽及「タウリン」ノ銅鹽ニ就テ
(第一報)
角 英 悅

第二冊(大正十二年六月)
冷蔵セル原料ニ就テ
製造試驗報告(第一報)
水産學士 大谷 武

第三冊(大正十二年八月)
魚肉ノ自家消化ニ就
キテ(第一報)
水産學士 大谷 武

第三回「プロタミン」ノ研究
農學博士 高橋 和夫

新シキ「プロタミン」ニ就キテ
(第二報)
農學博士 高橋 和夫

第四冊(大正十二年七月)
農學博士 高橋 和夫

小野長次 武 毅

山本 吹 祥 弘

梶山 英 二

鈴木 直 清 辰一

中野 宗 治

星野 三 三 豐

宮崎 廣 三

藤小星 田瀨野 正次三 巳郎

工學士 藤小星 田瀨野 正次三 巳郎

一三五

- Cold on the Viability of the Pteroceroïd of *Dinohiercephalus lotus*
L. (Vol. XX, No. 4, Mar. 1925)
- Higurashi, T.: Optimum Water Temperature for hatching of the Eggs of *Pleoglossus altivelis* T. & S. (Vol. XX, No. 4, Mar. 1925)
- Terao, A.: The effects of Uranium Irradiation on the early Cleavage Stages of Oysters. (Vol. XX, No. 4, Mar. 1925)
- Hoshino, S., Tauti, M., Miyosi, K.: On the Absorption of Water by Water-Proof Mortars. (Vol. XXI, No. 1, Aug. 1925)
- Higurashi, T.: Optimum Temperature for hatching the Eggs of *Hypomesus oltius* Pallas. (Vol. XXI, No. 1, Aug. 1925)
- Higurashi, T., and Tauti, M.: On the Relation between Temperature and the Rate of Development of Fish-eggs. (Vol. XXI, No. 1, Aug. 1925)
- Okamura K.: On the Culture of *Gracilaria confervoides*. (Vol. XXI, No. 1, Aug. 1925)
- Tauti, M., Miura, T., and Sugii, K.: Resistance of Plane Net's in Water (Vol. XXI, No. 2, Nov. 1925)
- Higurashi, T. and Nakai, N.: Optimum Water Temperature for hatching the Eggs of Carp. (Vol. XXI, No. 2, Nov. 1925)
- Nakano, S. and Nozawa, A.: On the Vitality of the Eggs and Sperm of *Oncorhynchus masou* (Land-locked). (Vol. XXI, No. 2, Nov. 1925)
- Nakano, S.: An Experiment on the artificial food of the young Fry of *Oncorhynchus Masou* (Land-locked) A preliminary report (Vol. XXI, No. 2, Nov. 1925)
- Kawajiri, M.: On the Oxygen Consumption during Development of the Eggs and Fry of the *Oncorhynchus Masou* (Land-locked) (Vol. XXI, No. 2, Nov. 1925)
- Okamura, K. and Uyeda, S.: On *Luminaria angustata* Kjellm and *L. longissima* Miyabe. (Pl. I) (Vol. XXI, No. 2, Nov. 1925)
- Kamiya, T.: The Pelagic Eggs and Larvae of Fishes in the Tateyama Bay. (Pref. Chiba), 3rd Report (Pl. II) (Vol. XXI, No. 3, Dec. 1925)
- Kamiya, T.: The Pelagic Eggs and Larvae of Fishes on the Coast of "Hokuriku" (Northwestern Part of Japan Proper.) (Pls. III; IV) (Vol. XXI, No. 3, Dec. 1925)
- S. Kiné, H. and Kakizaki, Y.: Comparison of the meats of harder and softer Shell Crabs—*Paralithodes Cantabrigia* (T. Lesius). (Vol. XXI, No. 4, Jan. 1926)
- Sokiné, H. and Kakizaki, Y.: Influence of cooking Water on Crab Meat. (Vol. XXI, No. 4, Jan. 1926)
- Tauti, M. and Hayashi, H.: On the Shovel of Fishes crowding toward a Lamp. (Vol. XXI, No. 4, Jan. 1926)
- Terao, A.: On the Fertilizin of *Ostrea circumspicata* Pilshury. (Vol. XXI, No. 4, Jan. 1926)

- Terao, A. and Tsung-zen-cheng.: On the Rudiments of Gonad of *Ligyda exotica* (Roux), (Vol. XXI, No. 4, Jan. 1926)
- Sero, H., Ebina, K. and Okada, T.: Effects of Temperature and Salinity on the Development of the Ova of a marine fish, *Colo'onus japonicus*. (C. & V.) (Vol. XXI, No. 4, Jan. 1926)
- Oya, T., Sumi, E. and Shimada, K.: On the Autolysis of Fish Muscle. II. (Vol. XXI, No. 5, Mar. 1926)
- Higurashi, T. and Nakai, N.: Influence of the lower temperature on the development of the Eggs of *Pleoglossus altivelis* T. & S.— (Vol. XXI, No. 6, Mar. 1926)
- Terao, A. and Hiruma, T.: Temperature and Enchytrae or white Worms, *Enchytraeus* sp. (Vol. XXI, No. 6, Mar. 1926)
- Sato, N.: A new method of recording the Rolling and Pitching of ships. (Vol. XXI, No. 6, Mar. 1926)
- Okamura, K., Ueda, S. and Miyake, Y.: On the harmful Action of Deep-fog on *Forphyra tenera* Kjellm. (Vol. XXI, No. 6, Mar. 1926)
- Hori, J.: Notes on the full grown Larva and Spat of the Japanese common Oyster, *Ostrea Gigas* Thunberg. Pl. 1. (Vol. XXII No. 1, Jul. 1925)
- Nakai, N.: Eine neue Myxosporidien art aus Kiemen der Karpfens, Pl. II, III. (Vol. XXII, No. 1, Jul. 1926)
- Oya, T. and Sumi, E.: On the Autolysis of fish muscle. III. Formation of Ammonia. (Vol. XXII, No. 1, Jul. 1926)
- Oya, T. and Shimada, K.: On glyco-genase in the fish muscle. I. (Vol. XXII, No. 1, Jul. 1925)
- Oya, T. and Harada, K.: On Amylase in Pyloric coeca of Seriola quinqueradiata. (Vol. XXII, No. 1, Jul. 1925)
- Sekine, H. and Akiyama, S.: On the Muscle Protein. III. Differences between the Muscle Protein of Male and Female Fishes and different kinds of muscle of them. (Vol. XXII, No. 1, Jul. 1925)
- Sekine, H.: On the muscle. Protein. IV. The nutritive value of the muscle Protein. I. Comparison of fishes and mollusks. (Vol. XXII, No. 1, Jul. 1925)
- Sekine, H.: On the muscle Protein. V. The nutritive value of the muscle Protein. II. The amount of lysine in the muscle protein and its effect on the growth of young rats. (Vol. XXII, No. 1, Jul. 1925)

二 漁業基本調査報告

(第一、二、三冊、水産局刊行)

第四冊(大正四年三月)

第五冊(大正七年三月)

第六冊(大正七年九月)

第七冊、一(大正八年一月)

25511-5

第七册ノ二(大正八年二月)
第八册ノ一(大正八年三月)
第八册ノ二(大正八年三月)

三、海洋調査彙報

第一卷第一册(大正十五年三月)
英文 同 (大正十五年九月)

四、海洋調査要報

第一報(大正七年十月)
第二報(大正七年十二月)
第三報(大正八年三月)
第四報(大正八年六月)
第五報(大正八年十月)
第六報(大正八年十一月)
第七報(大正九年三月)
第八報(大正九年六月)
第九報(大正九年十月)
第十報(大正九年十二月)
第十一報(大正十年三月)
第十二報(大正十年七月)
第十三報(大正十年十月)
第十四報(大正十年十二月)

第十五報(大正十一年三月)
第十六報(大正十一年六月)
第十七報(大正十一年十月)
第十八報(大正十一年十二月)
第十九報(大正十二年三月)
第二十報(大正十二年六月)
第二十一報(大正十三年三月)
第二十二報(大正十三年三月)
第二十三報(大正十三年三月)
第二十四報(大正十三年六月)
第二十五報(大正十三年十月)
第二十六報(大正十三年十二月)
第二十七報(大正十四年三月)
第二十八報(大正十四年六月)
第二十九報(大正十四年十月)
第三十報(大正十四年十二月)
第三十一報(大正十五年三月)
第三十二報(大正十五年七月)

五、其ノ他ノ刊行物

獨伊塊淡水養魚視察報告
日本鮭鱒養殖誌
水産講習所圖書目録(明治四十五年二月)

120

日 暮
松 原 新 之 助

欠

欠

Z-5N-5

終

